
STUDY GUIDE

大 学 院

2025

佛教大学

在学中保存

『STUDY GUIDE』（本冊子）は 修了時まで使用します 在学中は必ず保存のこと

※「Ⅲ. 学生生活」以降のページは、最新年発行の『STUDY GUIDE』を参照してください。

在学中、本冊子に掲載する内容に変更が生じた場合は、B-netにてお知らせします。
また、年度当初に、最新版の『STUDY GUIDE』を大学 HP に掲出しますので、必ず確認してください。

学生への 連絡方法

学生の皆さんに周知を要する**学修上の連絡事項は、すべてB-netに掲出します。**

一旦、掲出したものについてはすべての学生へ連絡したものと
して取り扱います。

定期的にB-netを確認し、見落としのないように注意してください。
見落としによる不利益は学生自身の責任とします。

※B-netの詳細は、次頁を確認してください。

※一部、学内掲示板でもお知らせします。設置場所は以下の通りです。

●学内掲示板一覧



掲示内容	1号館 北側	1号館 (2階)	6号館 中通路	6号館 東側	7号館 中通路 (北)	7号館 中通路 (南)	各研究室棟 (8・10・11号館、 二条キャンパス 1号館3～6階)	二条キャンパス 1号館(1階) 事務室前	二条キャンパス 1号館(2階)
履修関係	○	○	—	—	—	—	—	○	—
進路・就職	○	○	—	—	—	—	—	—	○
学生生活	○	○	—	—	—	—	—	○	○
大学行事	○	○	—	—	—	—	—	○	○
その他	—	関係領 域ごと に掲示	学生専用	学生専用	書道展示	—	学部・学科の 連絡専用	事務室からの 連絡	保健医療技術 学部・事務室か らの連絡

履修上での問い合わせ

必ず本人が学生支援課カウンター窓口にて問い合わせてください。本人以外からの問い合わせや、本人であっても電話での問い合わせには一切お答えできません。

B-net Portal について

B-net Portalとは(略称:B-net)

大学が発信するお知らせの確認や各種申請の手続きなどを行うことができるポータルサイトです。

B-netにはWeb版とスマートフォンアプリ版(UNIPA)があります。

ログイン方法について

1. 以下のとおり B-net にアクセスしてください。

【Web 版】

<https://b-netrx.bukkyo-u.ac.jp>

または、佛教大学ホームページ (<https://www.bukkyo-u.ac.jp/>) トップページ (ホーム画面) 下部にある「ポータルサイト B-net」をクリックしてください。

※スマートフォン用サイトもあります。詳しくは、上記 B-net ログイン画面よりご確認ください。

2. ログイン画面からユーザー ID とパスワードを入力してください。

※ユーザー ID およびパスワードについては、入学時に配付する「アカウント・パスワード通知」にて確認してください。

ホーム画面

ホーム画面では、大学からのお知らせ、休補講・教室変更、教務情報などの掲示、各種利用マニュアルなどが確認できます。

(掲示例: 落とし物連絡・奨学金手続き案内・履修登録期間開始・教室変更・就職ガイダンスなど)

個人情報の照会、変更申請

大学 (B-net) に登録されている、本人、保証人情報などを確認することができます。また、登録情報(住所や電話番号)などに変更が生じた場合、「ホーム画面>情報照会>学籍情報変更申請」より変更することができます。

授業情報

授業に関する各種情報を確認することができます。

開講科目の開講曜日・講時や「シラバス照会」では、授業の概要、到達目標、成績評価の基準、テキストなどが確認できます。

※シラバスについての詳細については『STUDY GUIDE』p.51 を確認してください。

資格・成績

「希望資格登録」では、取得希望する教育職員免許状・諸資格を登録できます。登録をすることで、事務手続きや履修指導をうけられます。

「成績照会」では、自身が学修した授業科目の成績や現在の修得単位数等を確認することができます。

Web申請

学籍異動や傷害・事故報告、学内奨学金をはじめとした各種申請ができます。

事務取扱時間および電話番号

主な **学生対応窓口** の事務取扱時間および電話番号は以下のとおりです。

※授業日や行事日以外で事務の取扱いを休止する場合はB-netでお知らせします。

窓口	場所	電話番号	取扱時間
学生支援課	1号館2階	075-493-9009	平日 / 9:00~13:00 14:00~17:00 土曜 / 9:00~13:00
教職支援課		075-493-9092	
資格課		075-493-9016	
二条キャンパス事務課	二条キャンパス 1号館1階	075-366-5660	平日 / 9:00~13:00 14:00~17:00
情報システム課	1号館2階	075-493-9003	
社会連携課		075-493-9002	
国際交流課		075-493-9017	平日 / 9:00~17:00 土曜 / 9:00~13:00
進路就職課		075-493-9058	
生涯学習部 (通信教育課程)事務局	1号館1階	075-491-0239(代)	木曜日および通信教育課程の学事行事のない 土曜日・日曜日・祝日は事務取扱休止日。 詳細は通信教育課程HP参照。

※場所は2025年2月現在。変更となる場合は、B-netにてお知らせします。

佛教大学を知る

I. 教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的など

1. 教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的 5

文学研究科／教育学研究科／社会学研究科／社会福祉学研究科

2. 学位授与基準 39

文学研究科／教育学研究科／社会学研究科／社会福祉学研究科

II. 履修要項

1. 履修一般事項 47

研究指導／研究計画と指導教員／セメスター制／履修登録／履修登録の留意事項／履修登録の流れ／授業科目と開講科目／シラバス／科目ナンバリング(大学院)／学部授業科目の履修／通信教育課程の科目の履修／履修登録状況の確認／履修取消し制度／授業カレンダー／授業時間／集中講義・実習／休講／補講／授業欠席／公欠／定期試験／追試験／緊急時における授業・試験の取り扱い／学校感染症罹患により欠席した授業・試験の取り扱い／成績／成績の確認／成績に関する調査申請(成績疑義)について／GPA制度

2. 履修科目表 65

● 修士課程 66

文学研究科修士課程

仏教学専攻 66

文学専攻 67

歴史学専攻 68

教育学研究科修士課程

生涯教育専攻 69

臨床心理学専攻 70

社会学研究科修士課程

社会学専攻 71

社会福祉学研究科修士課程

社会福祉学専攻 72

3. 課程の修了と学位の取得 73

● 修士課程 74

「修士論文」および「課題研究」について／口頭試問／修士課程の修了

4. 課程の修了と学位の取得・履修科目表 95

● 博士後期課程 96

博士学位請求論文(博士論文)作成・提出／口頭試問／博士後期課程の修了／博士学位請求論文提出・審査スケジュール／学位の授与／学位論文のインターネット公開について／学位論文の保管

5. 京都・宗教系大学院連合(K-GURS)単位互換制度について 123

参加大学院および大学／開講科目／シラバス、履修要項および授業時間割表／履修登録にあたっての注意事項／履修登録手続き／受講について

6. 免許状および資格の取得について 127

教育職員免許状課程(専修免許状)／資格課程／通信教育課程との併修履修制度(免許併修)

7. 通信教育課程聴講履修制度 131

通信教育課程聴講履修制度

III. 学生生活

● 学籍・学費 135

● キャンパスライフ 143

● 進路・就職支援 181

● 大学の取り組み 185

IV. 規程

● 佛教大学修学規程 197

● 佛教大学学位規程 200

● 佛教大学学位規程細則 202

各種資料

◆ 学部授業科目の聴講願

◆ 佛教大学大学院(修士・博士後期課程)研究指導計画書

◆ 博士後期課程 研究経過報告書(兼報告論文提出付票)

◆ 授業欠席届

佛教大学を知る

- ・ 佛教大学の建学の理念ならびに使命と目的
- ・ 学章
- ・ ロゴマーク
- ・ 学歌
- ・ 公式マスコットキャラクター

佛教大学の建学の理念ならびに使命と目的

佛教大学は、学則第1条に示す通り仏教精神を建学の理念とし、大学の責務である「人材養成」を目的とし、「教育」「研究」「社会貢献」の三領域において、仏教精神に基づく多様な活動を行いながら、世界文化の向上と人類福祉の増進に貢献することを使命として、これを達成するために相応しい教育研究組織を設置しています。

学則第1条

「本学は学校教育法（昭和22年法律第26号）に基き、仏教精神により人格識見高邁にして、活動力ある人物の養成を目的とし、世界文化の向上、人類福祉の増進に貢献することを使命とする」

仏教精神

本学が建学の理念としている仏教精神とは、仏教を開いたゴータマ・ブッダ（釈尊）と浄土宗を開いた法然上人とに共通する生き方と考え方を指します。釈尊は「私とは何か」「私はどう生きるか」そして「私は自分自身に何を期待できるのか」つまり私の生きる道＝人の生きる道を求めて修行し、その道を成就して、われわれに人として歩むべき道を説き示したのです。一方、法然上人は、末法とも呼ばれた混乱の続く不安定な時代にあって、生きることに苦しみ、天災地変や戦乱の苦しみに喘ぐ人々の中で、大乘仏教に私の生きる道＝人の生きる道を求め、自己の愚かさを自覚し、念仏の道を体得し、すべての人が等しく導かれる道を説いたのです。ブッダによってはじめられ、法然上人によって受け継がれた生き様と考え方こそ、「転識得智」なのです。それは現実の生き方の中で、常に己自身のあり方をしっかりと見つめながら、学んできた知識を人生のさまざまな場において何を為すべきか判断する力、実行してゆく力、すなわち生きる力へと転換してゆける智慧を得ることなのです。この二人に共通する生き方こそが仏教精神に他なりません。この精神にのっとり、自らも生かされている社会において、他に幸せを分かち与え、他の苦をぬぐい去る慈悲のこころをもって、自らが生きていることを活かしてゆける人材の養成を目指します。

学章

本学が建学の理念の拠り所としている浄土宗を開かれた法然上人の生家の家紋であった杏葉に大学の文字を配したものです。

仏教の精神、浄土宗創建の理念に基づき、世界の福祉と文化の向上に貢献する人材の養成を旗印としています。



ロゴマーク

佛教大学の「佛」という漢字と、アルファベットの「B」がモチーフ。

人と人が、手を差し伸べ互いを支え合い、つながる様子をイメージしています。

ボールドのゴシック体をベースにして、堂々と力強く成長していく姿を表現しています。



学歌

作詞:小西存祐
作曲:吉田恒三(昭和11年4月制定)

一、高^{ひか}輝る千古の都
若草の萌出るところ
ここ鷹^た陵の吾等が学舎
ここ鷹^た陵の吾等が学舎
ここ鷹^た陵の吾等が学舎

二、礙^{さえ}られぬ光こめたり
黒谷の春のあけぼの
誰^たぞ開く報^{ほう}恩^{おん}蔵^{ぞう}
誰^たぞ開く報^{ほう}恩^{おん}蔵^{ぞう}
誰^たぞ開く報^{ほう}恩^{おん}蔵^{ぞう}

三、仰ぎ見よ華頂の峰
その高き教ぞ栄ゆる
還^{げん}愚^ぐ痴^ちの聖^{ひじ}在^いませり
還^{げん}愚^ぐ痴^ちの聖^{ひじ}在^いませり
還^{げん}愚^ぐ痴^ちの聖^{ひじ}在^いませり

公式マスコットキャラクター

開学100周年記念事業の一環として、有志の学生グループが中心となり制作に取り組みました。学生たちの熱心な活動が実を結び、平成22年10月23日の創立記念日に公式マスコットキャラクターとして発表されました。また、ネーミングは1,400件を超える応募の中から「ぶったん」と決定しました。

ありがとうのうた「ありがとう-感謝-」

佛教大学開学100周年記念事業ありがとうプロジェクト企画

開学100周年の感謝の気持ちを表すために、ふだんなかなか言葉にできない「ありがとう」を伝えるきっかけとなるように、そのような想いで学生と教職員が一丸となり「ありがとう-感謝-」の楽曲がつけられました。



I 教育理念ならびに 教育研究に関する目的、 人材養成に関する 目的など

1. 教育理念ならびに 教育研究に関する目的、 人材養成に関する目的

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

I 教育理念など

教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的

文学研究科

文学研究科は、広い視野から専門分野の学修と研究を推し進め、多くの専門家や研究者を社会に送り出すため、これまでの人文学系8専攻を3専攻に改め、50数名の教員が指導する体制のもとで、修士課程・博士後期課程の学位取得に結びつくよう、きめ細かく充実した研究の実現を目指している。

文学研究科の目標は、建学の精神に基づき人間性豊かな、かつ現代社会の進展に応じた多彩な学問研究を推進し、その成果を社会や学界に還元することができる人材を養成することにある。高度で知的な教養のある人材（高度教養人）や高い専門性をもって社会で活躍する人材（高度専門職業人）の養成を重視するとともに、社会や学界に貢献する専門研究者を養成することを推し進めていく。

その到達目標は、以下のとおりである。

- ①大学院における学修や研究成果に基き、社会や文化などを広い視野から捉え、創造性豊かな優れた知的活動ができる能力をもっている。
- ②高度な教養と専門知識を活用して、社会・文化・教育の発展に寄与し得るさまざまな社会的活動を遂行する能力をもっている。
- ③歴史ある人間文化の深い理解に基き、高度な教養と専門知識を活用して、独創的な研究を推し進める能力をもっている。
- ④修士課程にあっては2年、博士後期課程にあっては3年の基本的在籍期間内に、課程修了論文を提出し、学位を取得する。

以上の4点の目標を実現するために、2015年度から以下の3点に留意したカリキュラムの改革を行った。第1点は、社会人のリカレント教育や生涯教育の必要性が高まっていることに鑑みて、各専攻においてコース（高度教養人コース・高度職業人コース・研究者コース）を設置し、それぞれの目的に適った履修科目を設定すること、第2点は、大学院生の基礎能力の向上を図るため、専門分野に関わる高い教養を広い視野に立って修得するための履修科目を設定すること、第3点は修士論文・博士課程修了論文をまとめ上げるために導入された複数教員による集団指導（「研究指導演習」）を研究指導科目と明確に位置づけ、集団指導の充実を図ることである。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単
位
互換制度

免
許
状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規
程

各
届
出
書

I 教育理念など 教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的

仏教学専攻

文学研究科／仏教学専攻の教育研究上の目的 <修士課程>

●人材養成の目的

- ①浄土学、仏教学、仏教文化を中心とした宗教文化・思想のいずれかに関する高度な専門知識と研究能力を持つ浄土宗教師を養成する
- ②浄土学、仏教学、仏教文化を中心とした宗教文化・思想のいずれかに関する高度な専門知識と研究能力を持つ人材を養成する
- ③浄土学、仏教学、仏教文化を中心とした宗教文化・思想のいずれかに関する高度な専門知識と研究能力を持ち、それを活かした専門職に就きうる人材を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ①浄土学に関する研究成果に基づき、将来的な研究の進展に寄与する教育課程を提供する
- ②仏教の思想と歴史に関する文献学的研究の成果に基づき、将来的な研究の進展に寄与する教育課程を提供する
- ③仏教文化を中心とした宗教文化・思想に関する研究成果に基づき、将来的な研究の進展に寄与する教育課程を提供する
- ④すでに一定の知識・能力を持っている浄土宗教師のリメディアル、ならびに知識・能力の向上に資する教育課程を提供する

2) 研究

- ①浄土学に関する研究を推進する
- ②インド・チベット・中国・日本にいたる仏教の思想および歴史の研究を推進する
- ③仏教文化を中心とした宗教文化・思想に関する研究を推進する
- ④浄土学、仏教学、仏教文化を中心とした宗教文化・思想に関する研究成果を教育へ還元する

3) 社会貢献

- ①優れた浄土宗教師ならびに研究を通して形成される優れた人材を輩出することにより社会に貢献する
- ②研究成果の学外への発信により社会に貢献する
- ③様々な学習機会・生涯学習機会の提供により社会に貢献する

文学研究科／仏教学専攻のディプロマポリシー <修士課程>

*次の1) から4) をすべて満たす者に「修士(文学)」を授与する

1) 知識

- ①浄土学・仏教学・仏教文化のうち、いずれか一つの専門領域に関する高度な専門知識を持っている
- ②専門領域以外で、近接する関連領域に関する高度な専門知識を持っている
- ③専門領域に関連して有すべきインド・中国・日本の仏教に関わる学際的知識を持っている

2) 研究技能

- ①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力を備えている
- ②研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

3) 独創性

- ①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている

- ②専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を備えている

4) 総合力

- ①当該研究を専門領域だけではなく、近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を備えている

文学研究科／仏教学専攻のカリキュラムポリシー ＜修士課程＞

1) 知識

- ①インド・チベット・中国・日本の仏教、および法然教学・浄土宗学、仏教文化に関して高度な専門的知識を総合的に提供し、各領域における研究の現状や課題の正確な把握を目指して「特殊研究」科目を開講する
- ②特定の専門領域だけに限定されず、インド・チベット・中国・日本の浄土学・仏教学・仏教文化に関する高度な専門的知識を獲得するための履修システムを提供する

2) 研究技能

- ①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力を身につけるために、浄土学・仏教学・仏教文化に関する「演習」科目を開講する
- ②研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を身につけるために浄土学・仏教学・仏教文化に関する「演習」科目を開講する

3) 独創性

- ①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を涵養するように研究指導を行う
- ②専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を涵養するように研究指導を行う

4) 総合力

- ①当該研究を専門領域だけではなく、近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を身につけるために、「研究指導」の科目を開講する
- ②当該研究が、専門領域だけではなく近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせ、多角的な視点からも、一定の水準に到達した内容をもつ研究とするために、「研究指導」を複数の教員が担当する科目として開講する

I 教育理念など

教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的

文学研究科／仏教学専攻の教育研究上の目的 ＜博士後期課程＞

●人材養成の目的

- ①浄土学、仏教学、仏教文化を中心とした宗教文化・思想のいずれかに関して、高度な専門知識を持ち、創造性豊かな優れた研究能力を持つ研究者を養成する
- ②浄土学、仏教学、仏教文化を中心とした宗教文化・思想のいずれかに関して、確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた教育者（大学教員等）を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ①浄土学、仏教学、仏教文化を中心とした宗教文化・思想のいずれかに関して、高度な専門知識を持ち、創造性豊かな優れた研究能力を持つ研究者を養成するための教育課程を提供する
- ②浄土学、仏教学、仏教文化を中心とした宗教文化・思想のいずれかに関して、確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた教育者（大学教員等）を養成するための教育課程を提供する

2) 研究

- ①浄土学に関する研究を推進する
- ②インド・チベット・中国・日本にいたる仏教の思想および歴史の研究を推進する
- ③仏教文化を中心とした宗教文化・思想に関する研究を推進する
- ④浄土学、仏教学、仏教文化を中心とした宗教文化・思想に関する研究成果を教育へ還元する

3) 社会貢献

- ①優れた研究者の輩出により社会に貢献する
- ②優れた研究成果の学外への発信により社会に貢献する

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー学位授与
基準履修
一般事項文学
研究科教育学
研究科社会学
研究科社会
福祉学
研究科課程の
修了学位
の取得文学
研究科教育学
研究科社会学
研究科社会
福祉学
研究科単位
互換制度免状
資格取得通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

文学研究科／仏教学専攻のディプロマポリシー ＜博士後期課程＞

＊次の1) から4) をすべて満たす者に「博士（文学）」を授与する

1) 知識

- ①浄土学・仏教学・仏教文化のうち、いずれか一つの専門領域に関する高度な専門知識を持っている
- ②専門領域以外で、近接する関連領域に関する高度な専門知識を持っている
- ③専門領域に関連して有すべきインド・中国・日本の仏教に関わる学際的知識を持っている

2) 研究技能

- ①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力を備えている
- ②研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

3) 独創性

- ①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている
- ②専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法を採用し、学術論文を作成し、広く学界に貢献する能力を備えている

4) 総合力

- ①当該研究を専門領域だけではなく、近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した研究として学術論文をまとめる総合的な能力を備えている

文学研究科／仏教学専攻のカリキュラムポリシー ＜博士後期課程＞

1) 知識

- ①インド・チベット・中国・日本の仏教、および法然教学・浄土宗学、仏教文化に関して高度な専門的知識を総合的に提供し、各領域における研究の現状や課題の正確な把握を目指す
- ②特定の専門領域だけに限定されず、インド・チベット・中国・日本の浄土学・仏教学・仏教文化に関する高度な専門的知識を獲得するための履修システムを提供する

2) 研究技能

- ①研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を身につけるために「研究指導演習」を開講する

3) 独創性

- ①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を涵養するように研究指導を行う
- ②専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を博士論文としてまとめる能力を涵養するように研究指導を行う

4) 総合力

- ①当該研究を専門領域だけではなく、近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した研究として博士論文にまとめる総合的な能力を身につけるために、「研究指導」の科目を開講する
- ②当該研究が、専門領域だけではなく近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせ、多角的な視点からも、一定の水準に到達した内容をもつ研究とするために、「研究指導演習」を複数の教員が担当する科目として開講する

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

学生生活

規程

各種図書

I 教育理念など 教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的

文学専攻

文学研究科／文学専攻の教育研究上の目的 ＜修士課程＞

●人材養成の目的

- ①日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関する教育者・研究者となるための基礎的能力を持った人材を養成する
- ②日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関する高度の専門知識・能力を持ち、中学・高校教員等の専門職に従事する人材を養成する
- ③日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関する高度の知識を活用して社会基盤を支える知的教養を有し、地域社会や国際社会や国際交流に貢献できる知見を備えた人材を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ①日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関する研究成果に基づき、学生の将来的な研究の進展に資する教育課程を提供する
- ②一定の知識・能力をすでに持っている中学・高校教員等の専門職業人に、さらなる知識・能力の向上に資する教育課程を提供する
- ③生涯学習として日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化を研究しようとする要望に応えるとともに、社会基盤を支える高度で知的な素養の涵養に資する教育課程を提供する

2) 研究

- ①日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関する研究を推進する
- ②日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関する研究成果を教育に還元する

3) 社会貢献

- ①優れた知識・能力を持つ中学・高校教員等の専門職業人を輩出して社会に貢献する
- ②研究成果を学外へ発信することで社会に貢献する
- ③生涯学習を含む様々な学習機会を社会に提供することで社会に貢献する

文学研究科／文学専攻のディプロマポリシー ＜修士課程＞

* 次の1) から4) をすべて満たす者に「修士（文学）」を授与する

1) 知識

- ①日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化のうち、いずれか一つの専攻領域に関する高度な専門的知識を持っている
- ②日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化のうちで専攻する領域以外において、一定の専門的知識を持っている

2) 研究技能

- ①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な言語能力を備えている
- ②研究遂行に必要な資料の収集とその分析の能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

3) 独創性

- ①専攻領域ならびに関連領域について、先行研究の状況を正しく把握した上で、自らの研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている
- ②専攻領域において、独自の観点から研究テーマを設定して研究を遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を備えている

4) 総合力

- ①専攻領域における先行研究の状況や成果を正確に把握し、自らの研究を、これとの関連性を明確にしつつ、独自性をもったものとして総合し、修士論文としてまとめる能力を備えている
- ②自らの研究を、専攻領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果とも照らし合わせ、多角的な視点をも有するものとする能力を備えている

文学研究科／文学専攻のカリキュラムポリシー ＜修士課程＞

1) 知識

- ①専攻領域に関して、高度な専門知識を提供し、研究の現状や課題を正確に把握することを目指して「特殊研究」科目を開講する
- ②専攻領域以外の隣接領域に関する専門知識を修得して、多角的視野を獲得するために専攻共通科目を開講する
- ③専攻領域におけるさらなる知識の獲得、および専攻領域に限らず、関連する領域の専門知識の獲得のために関連科目を開講する

2) 研究技能

- ①種々の研究対象へのアプローチ方法や研究方法を具体的に提示し、研究への基礎的理解力を涵養するために、「研究基礎」科目を開講する
- ②研究遂行の基礎となる各種文献への理解を深め、さらにこれを解読するために必要な能力を涵養するために、「演習」科目を開講する
- ③研究遂行に必要な資料の収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を身につけるために、「演習」科目を開講する

3) 独創性

- ①専攻領域ならびに関連領域について、先行研究の状況を正しく把握した上で、自らの研究の目的・意義を正確に位置づける能力を涵養することを目指して、研究指導を行う
- ②専攻領域において、自らの研究を独自の観点から遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を涵養することを目指して、研究指導を行う

4) 総合力

- ①先行研究の状況や成果を正確に把握して、自らの研究を、これとの関連性を明確にしつつ、独自の観点を有した研究として総合し、修士論文としてまとめる能力を涵養することを目指して、研究指導を行う
- ②自らの研究を、専攻領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果とも照らし合わせ、多角的な視点をも有した内容をもつものとするために、「研究指導」科目を開講する。通学課程においては複数教員の担当する科目として開講する

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

I 教育理念など 教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的

文学研究科／文学専攻の教育研究上の目的 ＜博士後期課程＞

●人材養成の目的

- ①日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関して高度な専門的知識を持ち、創造性豊かな優れた研究能力を持つ研究者を養成する
- ②日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関して確かな教育能力と研究能力とを兼ね備えた教育者を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ①日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関して高度な専門的知識を持ち、創造性豊かな優れた研究能力を持つ研究者を養成するための教育課程を提供する
- ②日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関して確かな教育能力と研究能力とを兼ね備えた教育者を養成するための教育課程を提供する

2) 研究

- ①日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関する研究を推進する
- ②日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関する研究成果を教育に還元する

3) 社会貢献

- ①すぐれた研究者・教育者を輩出して社会に貢献する
- ②研究成果を学外に発信することで社会に貢献する

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の
修了学位
の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

文学研究科／文学専攻のディプロマポリシー ＜博士後期課程＞

＊次の1) から4) をすべて満たす者に「博士（文学）」を授与する

1) 知識

- ①日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化のいずれかの領域に関して、すぐれて高度な専門的知識を持っている
- ②専攻領域のみならず、近接する関連領域に関しても広範な学際的知識を持っている

2) 研究技能

- ①研究の対象となる文献を解読するために必要とされる言語能力を備えている
- ②研究遂行に必要な資料の収集とその分析の能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

3) 独創性

- ①専攻領域ならびに近接する関連領域の研究状況を確実に把握した上で、自らの研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている
- ②自らの研究が専攻領域において独創性を備えたものとなっている
- ③研究遂行のために真に独創的な研究方法が導入されている

4) 総合力

- ①自らの研究を、すぐれて独創的な内容を持ち、かつ独立した新しい研究として公表するに足る水準で遂行する能力を備えている
- ②自らの研究を、広範な領域にわたる専門的知識を応用して展開し、すぐれて高い水準で遂行する能力を備えている
- ③自らの研究を、上記の二点を踏まえながら博士論文としてまとめる能力を備えている

文学研究科／文学専攻のカリキュラムポリシー ＜博士後期課程＞

1) 知識

- ①日本、中国、英米の言語・文学・思想・文化に関して、高度な専門的知識を総合的に提供し、かつ各領域における研究の現状や課題を正確に把握するために「研究指導」科目を開講する

2) 研究技能

- ①研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を身につけるために「研究指導」科目を開講する

3) 独創性

- ①専攻領域ならびに近接する関連領域の研究状況を確実に把握した上で、自らの研究の目的・意義を正確に位置づける能力を涵養するために研究指導を行う
- ②自らの研究を、専攻領域において独自の視点を備えたものにするために研究指導を行う
- ③研究遂行のために真に独創的な研究方法を導入できるように研究指導を行う

4) 総合力

- ①自らの研究を、すぐれて独創的な内容を持ち、かつ独立した新しい研究としてまとめることのできる能力を涵養するために、研究指導を行う
- ②専攻領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果とも照らし合わせた上で、自らの研究を高度な研究内容を備えた博士論文としてまとめることのできる能力を涵養するために、「研究指導」科目を複数教員の担当する科目として開講する

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許資格取得

通信課程聴講履修

学生生活

規程

各種出書

I 教育理念など 教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的

歴史学専攻

文学研究科／歴史学専攻の教育研究上の目的 <修士課程>

●人材養成の目的

- ①歴史学に関する創造性豊かな優れた知的活動を支えるための基礎的能力を持つ人材を養成する
- ②歴史学に関する広汎で高度な専門的知識や分析・研究の技能を活用できる人材を養成する
- ③世界的視野をもって現代を見つめ、知的基盤社会を支える高度で知的な社会活動が実践できる人材を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ①歴史学に関する研究成果に基き、高度な専門知識と研究能力の涵養に資する教育課程を提供する
- ②歴史学に関する研究成果に基き、高度で知的な社会活動を実践する能力を涵養することに資する教育課程を提供する
- ③生涯学習として歴史学に関する研究をしようとする要望に応えるとともに、高度な教養の涵養に資する教育課程を提供する

2) 研究

- ①日本、中国・朝鮮を中心とする北東アジア、ヨーロッパなどの歴史、および相互の交流史など、歴史学に関する研究を推進する
- ②日本、中国・朝鮮を中心とする北東アジア、ヨーロッパなどの歴史、および相互の交流史など、歴史学に関する研究成果を社会に還元する

3) 社会貢献

- ①歴史学に関する高い教養を備えた人材を養成して、社会に貢献する
- ②歴史学に関する研究成果を学界のみならず広く社会に発信して、社会に貢献する
- ③さまざまな学修機会および生涯学習の機会を提供し、社会に貢献する

文学研究科／歴史学専攻のディプロマポリシー <修士課程>

歴史学専攻では専攻が定めるカリキュラムに則り所定の単位数以上を修得し、高度専門職業人コースにおいては「研究指導演習」を受講したうえで、「修士論文」または「課題研究」を提出し、研究者コースにおいては「研究指導演習」および「論文指導演習」を受講したうえで「修士論文」を提出し、それぞれ審査に合格し、かつ以下の要件を満たしていると認めた場合に、「修士（文学）」の学位を授与する

1) 知識

- ①歴史学の中で専門とする領域について高度な専門的知識を持っている
- ②専門領域以外で、近接する分野の各関連領域に関する高度な知識と、専門領域に関わる学際的知識を持っている

2) 研究技能

- ①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力がある
- ②研究遂行に必要な資料収集・分析能力をもっている
- ③研究成果を学界・社会に対して発信することができる

3) 独創性

- ①歴史学の中で専門とする領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づけることができる

- ②歴史学の中で専門とする領域を研究するとき、関連する学問分野に関する豊富な知識を持ち、独自のあるいは独創的な研究方法に基づいて遂行できる

4) 総合力

[高度専門職業人コース]

- ①当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域や学際的領域における広範な知識を応用して遂行できる
 ②研究の成果を一定水準に到達した内容を持つ課題研究としてまとめることができる
 ③研究を通して修得した歴史学に関する広汎で高度な専門的知識や技能をさまざまな社会的活動に活用し、また社会活動から修得した知識や技能を研究に活かすことができる
 [研究者コース]

- ①当該研究を、専門領域だけでなく、近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で、独創的に遂行できる
 ②研究の成果を一定水準に到達した研究として、修士論文としてまとめる総合的な能力を備えている
 ③研究の過程で修得した歴史学に関する広汎で高度な専門的知識や技能を基盤に、創造的な知見を切り開き、それを学界や社会に対して発信できる

文学研究科／歴史学専攻のカリキュラムポリシー <修士課程>

1) 知識

- ①古代から近現代にいたる多様な研究分野に対応できる、高度な専門的知識を総合的に提供する
 ②歴史学における研究の基礎となる知識や研究法の基礎を習得するために「研究基礎」を開講する
 ③歴史学の研究を幅広くすすめていくうえで不可欠の関連分野を体系的に学修するために「特殊研究」科目を開講する
 ④専門領域に関連して有すべき学際的知識を獲得するために関連科目群を設定し、文学研究科の他の専攻の科目を任意に選択ができるような履修システムを提供する
 ⑤すでに一定の知識・能力を持っている中学・高校教員・学芸員、その他の専門職業人にいっそうの知識・能力の向上に資する科目を提供する
 ⑥生涯学習として、歴史学を研究しようとする要望に応えるとともに、知識基盤社会を支える高度で知的な素養の涵養に資する科目を提供する

2) 研究技能

- ①これまでの史学史・学説史を踏まえて、研究対象を構造的に把握することに力点をおいた研究指導をする
 ②文献史料に基づく実証的な研究方法を重視し、専門知識や資料の分析・利用の方法を修得するための「特殊研究」、また原史料や古文書・古記録の読解力を高めるための「演習」科目を開講する
 ③人間の営為がつくりあげた多様な「モノ」に関する専門知識や資料の分析・利用の方法を修得するために、「特殊研究」あるいは資料の読解能力を高めるための「演習」を開講する
 ④歴史学に関する広汎で高度な専門的知識に基づいて現代を見つめ、実践の場としての社会を客観的に把握し、また必要な情報を収集し、分析・考察する能力を涵養するために、フィールドワーク（活動実践）科目を開講する

3) 独創性

- ①学生が主体的に選んだテーマについて、具体的な研究方法などの助言・指導を行う
 ②専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を涵養するための研究指導を行う

I 教育理念など 教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的

4) 総合力

[高度専門職業人コース]

- ①研究が専門領域だけでなく、近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせ、多角的な視点からも、一定の水準に到達した内容を持つ研究とするため、複数の教員が担当する「研究指導演習」を開講する
- ②高度な知識や能力を社会に還元し、かつそれらを社会から学び取るための方法や実践的な能力を涵養するための科目を開講する

[研究者コース]

- ①研究が専門領域だけでなく、近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせ、多角的な視点からも、一定の水準に到達した内容をもつ研究とするため、複数の教員が担当する「研究指導演習」を開講する
- ②専門領域において、明確な独自性、あるいは独創的な研究方法に基づいて研究を遂行し、その成果を修士論文ないし課題研究としてまとめる総合的な能力を涵養するため「論文指導演習」を開講する

文学研究科／歴史学専攻の教育研究上の目的 <博士後期課程>

●人材養成の目的

- ①歴史学に関する優れて高度な専門知識をもち、独創性豊かな優れた研究能力と優れた教育能力を兼ね備えた人材を養成する
- ②歴史学に関する独創性豊かな優れた研究成果を学界のみならず広く社会に発信し、還元できる人材を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ①歴史学に関するより高度な専門知識をもち、創造性豊かな優れた研究能力の涵養に資する教育課程を提供する
- ②歴史学に関するより高度な研究能力のみならず、教育能力の向上に資する教育課程を提供する

2) 研究

- ①日本、中国・朝鮮を中心とする北東アジア、ヨーロッパなどの歴史、および相互の交流史などに関する研究を推進する
- ②日本、中国・朝鮮を中心とする北東アジア、ヨーロッパなどの歴史、および相互の交流史などに関する研究成果を教育に還元する

3) 社会貢献

- ①優れた研究能力や教育能力をもつ教員・学芸員、その他の専門的職業人を養成し、社会に貢献する
- ②研究成果を学内・学界にとどまらず、広く社会に発信して社会に貢献する

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

文学研究科／歴史学専攻のディプロマポリシー ＜博士後期課程＞

歴史学専攻では専攻が定めるカリキュラムに則り必要な単位数以上を修得したうえで、「博士論文」を提出して審査に合格し、かつ、以下の1) から4) のすべてを満たす者に「博士（文学）」の学位を授与する

1) 知識

- ①歴史学のなかで、専門とする領域について優れて高度な専門知識をもっている
- ②専門領域に近接する諸領域について高度な専門知識をもっている
- ③専門領域に関連して、歴史学に関わる広範な学際的知識をもっている

2) 研究技能

- ①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要とされる高度な語学力をもっている
- ②研究遂行に必要な資料を的確に収集・分析できる

3) 独創性

- ①専門領域および関連諸領域の研究状況を正しく把握したうえで、当該研究の目的・意義を正確に位置づけている
- ②専門領域において当該研究が独自のあるいは独創的内容をもっている

4) 総合力

- ①広範な領域にわたる、優れて高度な専門知識に基づいて研究を遂行する能力をもっている
- ②専門領域において当該研究が独自のあるいは独創的な研究方法に基づいて遂行されている
- ③上記の二点を踏まえながら、研究成果を博士論文としてまとめることができる
- ④専門領域に関する研究成果を、学界及び社会に対して広く発信し、社会に還元できる

文学研究科／歴史学専攻のカリキュラムポリシー ＜博士後期課程＞

1) 知識

- ①専門とする領域の優れて高度な専門知識を総合的に提供するとともに、研究状況や研究課題を正しく把握するために、「研究指導演習」を開講する
- ②専門領域に近接する諸領域の高度な専門知識を多角的な視点から提供するために、「研究指導演習」を開講する

2) 研究技能

- ①専門領域および近接諸領域の優れて高度な専門知識に基づいて、研究を遂行するために必要な、より高度な資料の収集・分析能力を涵養するために、「研究指導演習」を開講する
- ②専門領域に関する研究等の成果を、学界にとどまらず、広く社会に発信する高い能力を涵養するために、「研究指導演習」を開講する

3) 独創性

- ①専門とする領域の研究目的・意義を正確に位置づけ、研究の独創性を涵養するために「研究指導演習」を開講する
- ②専門とする領域の研究状況や研究課題、自らの研究の目的・意義に照らして、視点や研究方法の独創性を高めるために、「研究指導演習」を開講する

4) 総合力

- ①自らの研究が独創的かつ高度な内容を持ち、その成果を博士論文にまとめることができる能力を涵養するために、「研究指導演習」を開講する
- ②自らの研究が専門とする領域だけでなく、近接する諸領域からみても独創的かつ高度な研究内容を備えた博士論文としてまとめることができる能力を涵養するために、「研究指導演習」を開講する

I 教育理念など

教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的

教育学研究科

教育学研究科では変化する知識基盤社会の中で、時代に求められ、社会に貢献できる高度な専門知識を有する教員、臨床心理士を輩出し、その人材養成に重要となるカリキュラム改革を進めています。また、時代の要請に即応し、平成29年に国家資格として施行された公認心理師法に基づき、公認心理師育成のためのカリキュラムも開設しています。

生涯教育専攻では、理論と実践を融合したカリキュラムにより、学校現場で活躍できる高度な教員養成を行うと共に、教育学の研究者として博士号取得を希望する人のための研究指導を充実した体制の下で行っています。

臨床心理学専攻では、学部で学ぶ基礎心理学・臨床心理学の知識・技能をさらに高度化し、教育・医療・福祉・司法矯正・行政・企業などの分野において、心に関わる諸問題の解決・支援に貢献できる人材を育成するためのカリキュラムを設けると共に、臨床心理学、心理臨床学において、創造性豊かで確かな研究能力を有する研究者や大学教員を養成する研究指導を充実した体制の下で行っています。

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

学生生活

規程

各種出書

I 教育理念など 教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的

生涯教育専攻

教育学研究科／生涯教育専攻の教育研究上の目的 ＜修士課程＞

●人材養成の目的

- ①教育学に関する高度な専門的知識、能力をもち、人間の生に寄り添って支援しようとする高度専門職業人を養成する
- ②教育学に関する創造性豊かな優れた研究者・教育者となるための基礎的能力を持つ人材を養成する
- ③教育学に関する高度な知識と技能をもって、地域社会を支える高度で知的な素養のある人間性豊かな人材を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ①教育保育現場や生涯学習施設において業務をコーディネートしながら遂行するとともに協働して諸問題の解決に貢献しうる人材を養成するための教育課程を提供する
- ②教育学の研究者としての基礎的な資質と能力を身につける教育課程を提供する
- ③知識基盤社会を支える高度で知的な素養の涵養に資する教育課程を提供することにより、生涯学習の機会を提供する

2) 研究

- ①教育学の研究を推進する
- ②教育学の実践に関する研究を推進する
- ③教育学における研究成果を教育へ還元する

3) 社会貢献

- ①教育学の高度な知識と資質と能力をもった人材の輩出により社会に貢献する
- ②研究成果の学外への発信により社会に貢献する
- ③教育現場や生涯学習施設における様々な教育活動により、社会に貢献する

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の
修了学位
の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位
互換制度

免状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

教育学研究科／生涯教育専攻のディプロマポリシー ＜修士課程＞

＊次の1) から4) をすべて満たす者に「修士（教育学）」を授与する

1) 知識

- ①教育学領域に関する高度な専門的知識をもち、十分な実践技能を身につけている
- ②近接関連領域に関する高度な専門的知識を持っている

2) 研究技能

- ①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力を備えている
- ②研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

3) 独創性

- ①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている
- ②専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を備えている

4) 総合力

- ①当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した独立した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を備えている

教育学研究科／生涯教育専攻のカリキュラムポリシー ＜修士課程＞

1) 知識

- ①教育学領域に関して、高度な専門的知識を総合的に提供し、各領域における研究の現状や課題の正確な把握を目指して「特殊研究」を開講する
- ②近接の専門領域に関する高度な専門的知識を獲得するための履修システムを提供する
- ③高度専門職業人としての実践と研究に資するカリキュラムを提供する

2) 研究技能

- ①研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を身につけるためのカリキュラムを提供する
- ②教育活動の実践研究に関して、複数教員による指導カリキュラムを提供する

3) 独創性

- ①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を涵養するように研究指導を行う
- ②専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を涵養するように研究指導を行う

4) 総合力

- ①当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した独立した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を身につけさせるために、「研究指導」の科目を開講する
- ②当該研究が、専門領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせ、多角的な視点からも、一定の水準に到達した内容をもつ研究とするために、「研究指導」を複数の教員が担当する科目として提供する

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

学生生活

規程

各種図書

I 教育理念など 教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的

教育学研究科／生涯教育専攻の教育研究上の目的 ＜博士後期課程＞

●人材養成の目的

- ①教育学に関する高度な専門的知識を持ち、創造性豊かな優れた研究能力を持つ研究者を養成する
- ②教育学に関して、確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた教育者（大学教員等）を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ①教育学に関する高度な専門的知識を持ち、創造性豊かな優れた研究能力を持つ研究者を養成するための教育課程を提供する
- ②教育学に関する確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた教育者（大学教員等）を養成するための教育課程を提供する

2) 研究

- ①教育学の理論と実践に関する専門的研究を推進する
- ②教育学における新たな実践研究成果を教育へ還元する

3) 社会貢献

- ①優れた研究者の輩出により社会に貢献する
- ②優れた研究成果の学外への発信により社会に貢献する

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の
修了学位
の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位
互換制度

免状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

教育学研究科／生涯教育専攻のディプロマポリシー ＜博士後期課程＞

＊次の1) から4) をすべて満たす者に「博士（教育学）」を授与する

1) 知識

- ①教育学領域に関する優れて高度な専門的知識を持っている
- ②専門領域全般の研究に精通し、近接領域を含めた広範な学際的知識を持っている

2) 研究技能

- ①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要とされる高度な語学力を備えている
- ②研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

3) 独創性

- ①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている
- ②専門研究領域において当該研究が優れて新たな独自性を持っている
- ③研究遂行のために優れて独創的な研究方法を採用している

4) 総合力

- ①当該研究が優れて独創的な内容を持ち、独立した新しい研究として公表するに相応しい高い水準で遂行する能力を備えている
- ②当該研究が広範な領域にわたる専門的知識を応用して展開され、優れて高い水準で遂行する能力を備えている
- ③上記の二点を踏まえながら、当該研究を博士論文としてまとめる能力を備えている

教育学研究科／生涯教育専攻のカリキュラムポリシー ＜博士後期課程＞

1) 知識

- ①教育学に関して、優れて高度な専門的知識を総合的に提供し、各領域における研究の現状や課題の正確な把握を目指して「特殊研究」科目を開講する

2) 研究技能

- ①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要とされる高度な語学力を身につけるために広義の教育学に関する「演習」科目を開講する
- ②研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する高い能力を身につけるために、広義の教育学に関する「演習」科目を開講する

3) 独創性

- ①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を涵養するように研究指導を行う
- ②専門研究領域において当該研究が優れて新たな独自性を備えるように研究指導を行う
- ③研究遂行のために優れて独創的な研究方法を採用できるように研究指導を行う

4) 総合力

- ①当該研究が完全に独創的な内容を持ち、独立した新しい研究として博士論文にまとめることができる優れた能力を身につけさせるために、「研究指導」の科目を開講する
- ②当該研究が、専門領域だけでなく、近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上でも、高度な研究内容を備えた博士論文としてまとめることができる優れた能力を身につけさせるために、「研究指導」を複数の教員が担当する科目として開講する

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

学生生活

規程

各種出書

I 教育理念など 教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的

臨床心理学専攻

教育学研究科／臨床心理学専攻の教育研究上の目的 ＜修士課程＞

●人材養成の目的

- ①高度専門職業人としての「臨床心理士・公認心理師」を養成する
- ②臨床心理学、心理臨床学に関する創造性豊かな優れた研究者・教育者となるための専門領域における基礎的能力を持つ人材を養成する
- ③臨床心理学、心理臨床学に関する高度な知識と技能を活用しながら、地域社会を支える、高度で知的な素養のある人間性豊かな人材を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ①「臨床心理士・公認心理師」養成に必要な教育課程を提供する
- ②現在までに蓄積された臨床心理学、心理臨床学に関する研究成果に基づき、将来的な研究の進展に寄与する教育課程を提供する
- ③「臨床心理士・公認心理師」もしくは心理学の専門家として、教育および福祉、医療分野およびその他のリエゾン分野における心理臨床活動および地域社会に貢献しうる教育課程を提供する

2) 研究

- ①臨床心理学、心理臨床学の研究を推進する
- ②教育、医療、福祉その他のリエゾン分野における心理臨床実践に関する研究を推進する
- ③臨床心理学、心理臨床学における研究成果を教育へ還元する

3) 社会貢献

- ①優れた「臨床心理士・公認心理師」資格をもつ人材の輩出により社会に貢献する
- ②研究成果の学外への発信により社会に貢献する
- ③大学付設の臨床心理学研究センター、相談施設における様々な心理臨床活動、地域社会の学校、医療機関、福祉施設などにおける心理臨床活動により、社会に貢献する

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の
修了学位
の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位
互換制度

免状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

教育学研究科／臨床心理学専攻のディプロマポリシー ＜修士課程＞

＊次の1) から4) をすべて満たす者に「修士（教育学）」を授与する

1) 知識

- ①臨床心理学、心理臨床学領域に関する高度な専門的知識をもち、「臨床心理士・公認心理師」の資格を得るに十分な実践技能を身につけている
- ②臨床心理学領域の近接関連領域に関する高度な専門的知識を持っている

2) 研究技能

- ①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力を備えている
- ②研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

3) 独創性

- ①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている
- ②専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を備えている

4) 総合力

- ①当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した独立した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を備えている

教育学研究科／臨床心理学専攻のカリキュラムポリシー ＜修士課程＞

1) 知識

- ①臨床心理学、心理臨床学領域に関して、高度な専門的知識を総合的に提供し、各領域における研究の現状や課題の正確な把握を目指して講義科目を開講する
- ②近接の専門領域に関する高度な専門的知識を獲得するための履修システムを提供する
- ③「臨床心理士・公認心理師」養成課程に必修科目および独自の選択科目を提供することにより、高度専門職業人としての実践技能と研究に資するカリキュラムを提供する

2) 研究技能

- ①研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を身につけるためのカリキュラムを提供する
- ②心理臨床活動の実践研究に関して、複数教員による指導カリキュラムを提供する

3) 独創性

- ①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を涵養するように研究指導を行う
- ②専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を修士論文としてまとめる能力を涵養するように研究指導を行う

4) 総合力

- ①当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した独立した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を身につけさせるために、「研究指導」の科目を開講する
- ②心理臨床活動の実践能力を身につけるため、教員の指導とともに、外部指導者（スーパーバイザーと称する）の個別指導を受けることができるシステムを提供する

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

学生生活

規程

各種出書

I 教育理念など 教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的

教育学研究科／臨床心理学専攻の教育研究上の目的 ＜博士後期課程＞

●人材養成の目的

- ①臨床心理学、心理臨床学に関する高度な専門的知識を持ち、創造性豊かな優れた研究能力を持つ研究者を養成する
- ②臨床心理学、心理臨床学に関して、確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた教育者（大学教員等）を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ①臨床心理学、心理臨床学に関する高度な専門的知識を持ち、創造性豊かな優れた研究能力を持つ研究者を養成するための教育課程を提供する
- ②臨床心理学、心理臨床学に関する確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた教育者（大学教員等）を養成するための教育課程を提供する

2) 研究

- ①臨床心理学、心理臨床学の理論と実践に関する専門的研究を推進する
- ②臨床心理学、心理臨床学における新たな実践研究成果を教育へ還元する

3) 社会貢献

- ①優れた研究者の輩出により社会に貢献する
- ②優れた研究成果の学外への発信により社会に貢献する

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の
修了学位
の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位
互換制度

免状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

教育学研究科／臨床心理学専攻のディプロマポリシー ＜博士後期課程＞

＊次の1) から4) をすべて満たす者に「博士（教育学）」を授与する

1) 知識

- ①臨床心理学、心理臨床学領域に関する優れて高度な専門的知識を持っている
- ②専門領域全般の研究に精通し、近接領域を含めた広範な学際的知識を持っている

2) 研究技能

- ①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要とされる高度な語学力を備えている
- ②研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

3) 独創性

- ①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を備えている
- ②専門研究領域において当該研究が優れて新たな独自性を持っている
- ③研究遂行のために優れて独創的な研究方法を採用している

4) 総合力

- ①当該研究が優れて独創的な内容を持ち、独立した新しい研究として公表するに相応しい高い水準で遂行する能力を備えている
- ②当該研究が広範な領域にわたる専門的知識を応用して展開され、優れて高い水準で遂行する能力を備えている
- ③上記の二点を踏まえながら、当該研究を博士論文としてまとめる能力を備えている

教育学研究科／臨床心理学専攻のカリキュラムポリシー ＜博士後期課程＞

1) 知識

- ①臨床心理学、心理臨床学に関して、優れて高度な専門的知識を総合的に提供し、各領域における研究の現状や課題の正確な把握を目指して「研究指導演習」科目を開講する

2) 研究技能

- ①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要とされる高度な語学力を身につけるために臨床心理学、心理臨床学に関する「演習」科目を開講する
- ②研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する高い能力を身につけるために、臨床心理学、心理臨床学に関する「演習」科目を開講する

3) 独創性

- ①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置づける能力を涵養するように研究指導を行う
- ②専門研究領域において当該研究が優れて新たな独自性を備えるように研究指導を行う
- ③研究遂行のために優れて独創的な研究方法を採用できるように研究指導を行う

4) 総合力

- ①当該研究が完全に独創的な内容を持ち、独立した新しい研究として博士論文にまとめることができる優れた能力を身につけさせるために、「研究指導」の科目を開講する
- ②当該研究が、専門領域だけでなく、近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上でも、高度な研究内容を備えた博士論文としてまとめることができる優れた能力を身につけさせるために、「研究指導」を複数の教員が担当する科目として開講する

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

博士
後期
課程

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

各
届出書

I 教育理念など

教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー学位授与
基準履修
一般事項文学
研究科教育学
研究科社会学
研究科社会
福祉学
研究科課程の
修了学位
の取得文学
研究科教育学
研究科社会学
研究科社会
福祉学
研究科単位
互換制度免状
資格取得通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

社会学研究科

社会学専攻

社会学研究科／社会学専攻の教育研究上の目的 ＜修士課程＞

●人材養成の目的

- ①社会学系の文化、社会情報、共生・臨床、ソーシャル・マネジメント系の環境、地域に関する高度な知識を活用しながら、知識基盤社会を支える、高度で知的な素養のある人材を養成する
- ②新しい社会状況に対応し得る、高度な学問的分析と政策提言のできる高度専門職業人を養成する
- ③社会学系の文化、社会情報、共生・臨床の3領域、ソーシャル・マネジメント系の環境、地域の2領域に関する創造性豊かな優れた研究者・教育者となるための基礎的能力を持つ人材を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ①社会学系の文化、社会情報、共生・臨床、ソーシャル・マネジメント系の環境、地域の研究領域に関する研究成果に基づき、将来的な研究の進展に寄与する教育課程を提供する
- ②生涯学習として社会学系の文化、社会情報、共生・臨床、ソーシャル・マネジメント系の環境、地域の研究領域を研究しようとするニーズに応えらるとともに、知識基盤社会を支える高度で知的な素養の涵養に資する教育課程を提供する

2) 研究

- ①社会学系の文化、社会情報、共生・臨床領域の研究を推進する
- ②ソーシャル・マネジメント系の環境、地域領域の研究を推進する

3) 社会貢献

- ①社会理論と現実社会の諸課題を連結させる研究の成果を発信することにより社会に貢献する
- ②社会問題解決のための具体的な政策提言を行うことで社会に貢献する
- ③様々な学習機会・生涯学習機会の提供により社会に貢献する

社会学研究科／社会学専攻のディプロマポリシー ＜修士課程＞

*次の1) から4) をすべて満たす者に「修士(社会学)」を授与する

1) 知識

- ①社会学理論あるいはソーシャル・マネジメント理論を学修した上で、文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の領域のうち、いずれか一つの専門領域に関する高度な専門的知識を持っている
- ②専門領域以外で、近接する文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の各関連領域に関する高度な専門的知識を持っている

③専門領域に関連して様々な社会問題に関わる学際的知識を持っている

2) 研究技能

①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な能力を備えている

②研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

3) 独創性

[修士論文選択の場合]

①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置付けるとともに、様々な社会問題を深く専門的・理論的に考察する能力を備えている

②専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を位置づける能力を備えている

[課題研究選択の場合]

①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置付けるとともに、様々な社会問題に適切な問題解決策を案出する能力を備えている

②専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を課題研究としてまとめる能力を備えている

4) 総合力

[修士論文選択の場合]

①当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した独立した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を備えている

[課題研究選択の場合]

①当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域や、学際的領域における広範な知識を応用して遂行し、様々な社会問題に適切な問題解決策を案出し、その成果を一定の水準に到達した内容をもって課題研究としてまとめる総合的な能力を備えている

社会学研究科／社会学専攻のカリキュラムポリシー ＜修士課程＞

1) 知識

①研究の現状や課題の正確な把握を目指して、社会学系ならびにソーシャル・マネジメント系に「基礎科目」を開講する

②社会学系では、文化、社会情報、共生・臨床の3研究領域において、また、ソーシャル・マネジメント系では、環境、地域研究領域において高度な専門的知識を獲得するための「特殊研究」ならびに「演習」の科目を提供する

③専門領域に関連して様々な社会問題に関わる学際的知識を獲得し、社会理論と現実的な諸課題を連結させること、また、社会問題の解決のための具体的な政策提言を行うことができるようなカリキュラムを提供する

2) 研究技能

①各自の問題意識をもとにした修士論文や課題研究を作成するための社会学的方法を十分習得するために「研究指導」の科目を開講する

②研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な能力を身につけるために「特殊研究」の科目を開講する

③研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を身につけるために「演習」の科目を開講する

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許資格取得

通信課程聴講履修

学生生活

規程

各種届出書

I 教育理念など 教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的

3) 独創性

- ① 専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置付ける能力を涵養するように研究指導を行う
- ② 専門領域において、当該研究を明確な独自性あるいは独創的な研究方法に基づいて遂行し、その成果を修士論文ないしは課題研究としてまとめる能力を涵養するように研究指導を行う

4) 総合力

- ① 当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上で独創的に遂行し、その成果を一定の水準に到達した独立した研究として修士論文にまとめる総合的な能力を身につけさせるために、「研究指導」の科目を開講する
- ② 当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域や、学際的領域における広範な知識を応用して遂行し、その成果を一定の水準に到達した内容をもって課題研究としてまとめる総合的な能力を身につけさせるために、「研究指導」の科目を開講する
- ③ 当該研究を、専門領域だけでなく近接する関連領域の研究状況や研究成果を照らし合わせ、多角的な視点からも、一定の水準に到達した内容をもつ研究とするために、「研究指導」を複数の教員が担当する科目として開講する

社会学研究科／社会学専攻の教育研究上の目的 <博士後期課程>

●人材養成の目的

- ① 社会学における文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の研究領域に関して、専門的でかつ先端的な課題に取り組み、高度な研究能力を持つ研究者を養成する
- ② 社会学における文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の研究領域に関して、確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた教育者（大学教員等）を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ① 社会学における文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の研究領域に関して、専門的でかつ先端的な課題に取り組み、高度な研究能力を持つ研究者を養成するための教育課程を提供する
- ② 社会学における文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の研究領域に関して、確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた教育者（大学教員等）を養成するための教育課程を提供する

2) 研究

- ① 社会学における文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の領域に関する研究を推進する
- ② 社会学における文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の領域における研究成果を教育へ還元する

3) 社会貢献

- ① 問題の発見と解決ができる自立した研究能力を身につけ、主体的な研究を可能とする優れた研究者の輩出により社会に貢献する
- ② 優れた研究成果の学外への発信により社会に貢献する

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー学位授与
基準履修
一般事項文学
研究科教育学
研究科社会学
研究科社会
福祉学
研究科課程の
修了学位
の取得文学
研究科教育学
研究科社会学
研究科社会
福祉学
研究科単位
互換制度免許状
資格取得通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

社会学研究科／社会学専攻のディプロマポリシー ＜博士後期課程＞

＊次の1) から4) をすべて満たす者に「博士（社会学）」を授与する

1) 知識

- ①社会学における文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の研究領域に関する優れて高度な専門的知識を持っている
- ②専門領域に関連して様々な社会問題に関わる広範な学際的知識を持っている

2) 研究技能

- ①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要な語学力を備えている
- ②研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する能力を備えている

3) 独創性

- ①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置付けるとともに、様々な社会問題を深く専門的・理論的に考察する能力を備えている
- ②専門領域において、当該研究が完全に新たな独自性を持っている
- ③研究遂行のために完全に独創的な研究方法を採用している

4) 総合力

- ①当該研究が完全に独創的な内容を持ち、独立した新しい研究として公表するに相応しい高い水準で遂行する能力を備えている
- ②当該研究が広範な領域にわたる専門的知識を応用して展開され、優れて高い水準で遂行する能力を備えている
- ③上記の二点を踏まえながら、当該研究を博士論文としてまとめる能力を備えている

社会学研究科／社会学専攻のカリキュラムポリシー ＜博士後期課程＞

1) 知識

- ①社会学における文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の研究領域に関して、優れて高度な専門的知識を総合的に提供し、各領域における研究の現状や課題の正確な把握を目指して「研究指導」の科目を開講する

2) 研究技能

- ①研究遂行の基礎となる文献を読解するために必要とされる高度な能力を身につけるために文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の研究領域に関する「研究指導」の科目を開講する
- ②研究遂行に必要な資料収集・分析能力、および研究成果を整理・発信する高い能力を身につけるために文化、社会情報、共生・臨床、環境、地域の研究領域に関する「研究指導」の科目を開講する

3) 独創性

- ①専門領域ならびに近接する関連領域の研究状況を正しく把握した上で、当該研究の目的・意義を正確に位置付ける能力を涵養するように研究指導を行う
- ②専門領域において、当該研究が完全に新たな独自性を備えるように研究指導を行う
- ③研究遂行のために完全に独創的な研究方法を採用できるように研究指導を行う

4) 総合力

- ①当該研究が完全に独創的な内容を持ち、独立した新しい研究として博士論文にまとめることができる優れた能力を身につけさせるために、「研究指導」の科目を開講する
- ②当該研究が、専門領域だけでなく、近接する関連領域の研究状況や研究成果と照らし合わせた上でも、高度な研究内容を備えた博士論文としてまとめることができる優れた能力を身につけさせるために、「研究指導」を複数の教員が担当する科目として開講する

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

学生生活

規程

各種届出書

社会福祉学研究科

社会福祉学専攻

社会福祉学研究科／社会福祉学専攻の教育研究上の目的 ＜修士課程＞

●人材養成の目的

- ①社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関する高度な専門的知識・能力を持つ社会福祉関係高度専門職業人を養成する
- ②社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関する創造性豊かな研究者・教育者となるための基礎的能力を持つ人材を養成する
- ③社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関する高度な知識を活用しながら、福祉社会を支える高度で知的な素養のある人材を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ①学士課程における社会福祉学に関する知識・能力をふまえ、社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関するさらに高度な専門的知識・能力の向上を図る教育課程を提供する
- ②少人数教育の長所を活かし、演習的要素を重視した各教科及び修士論文指導を通じて、研究能力を養成する教育課程を提供する
- ③社会福祉機関・施設等で活躍する社会福祉専門職従事者のニーズに応えるとともに、福祉社会を支える高度で知的な素養の涵養に資する教育課程を提供する

2) 研究

- ①社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関する社会福祉学研究を推進する
- ②社会福祉学各領域をカバーする豊富な教員陣を有する本研究科の利点を駆使し、共同研究を進めるとともに、比較福祉研究をさらに充実させる
- ③社会福祉学研究の成果を教育に還元するとともに、社会貢献に反映する

3) 社会貢献

- ①高度な専門的知識・能力を持つ社会福祉関係高度専門職・教養人の養成により社会に貢献する
- ②研究成果を学外に発信することにより社会に貢献する
- ③地方自治体や社会福祉関係機関・施設との共同研究や委託研究を進め、社会に貢献する

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

社会福祉学研究科／社会福祉学専攻のディプロマポリシー ＜修士課程＞

＊次の1) から4) をすべて満たす者に「修士（社会福祉学）」を授与する

1) 知識

- ①社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関わるいずれか1つの専門領域に関し、高度な専門的知識を持っている
- ②専攻する専門領域以外で、近接する社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関する専門的知識を持っている

2) 研究技能

- ①研究課題に関して科学的に分析し、論理的に思考する能力があり、それらを再構成して適切に表現する能力を有している
- ②研究を遂行するために必要な調査技法を習得し、適切な調査を遂行する能力がある
- ③研究を遂行するために必要な語学力を持っている

3) 独創性

- ①研究課題に関し、先行研究を把握した上で、自らの研究の目的・意義を位置づけることができる
- ②研究課題に関し、先行研究をふまえて、適切な研究方法により修士論文としてまとめることができる

4) 総合力

- ①研究課題に関する高度な専門的知識と、関連領域に関する専門知識、適切な研究技能、さらに独創性を有し、その成果を修士論文に集大成する総合的な能力を備えている

社会福祉学研究科／社会福祉学専攻のカリキュラムポリシー ＜修士課程＞

1) 知識

- ①社会福祉学研究における基礎的知識・方法の獲得のため「基礎科目」を配置する
- ②社会福祉学各領域における基礎的知識の獲得のため「特殊研究科目」を配置する
- ③専攻科目として、①各ライフステージにおける人間の発達・自立をめざし、当事者・家族・地域課題へどう対応するか、②グローバルな視角から地域に包括される福祉諸課題等を検証しつつ、福祉開発指向をふまえた福祉政策・実践をどう展望するか、について専門的・総合的に研究するために「特殊研究科目」を配置する
- ④特殊研究科目・演習とも履修方法を弾力化し、関連領域の専門的知識を獲得できる履修システムを提供する
- ⑤本学大学院における研究の基礎的知見獲得のため「関連科目」を配置する

2) 研究技能

- ①大学院担当教員全員が修士論文を指導するための科目を、初年度からセメスターごとに開講し、研究技能の向上を図る
- ②研究を遂行するために必要な調査能力・分析能力・論理的思考力・表現力を獲得するために、学生の課題報告とそれに対する教員のコメント及び相互のディスカッション等の過程を通じて鍛錬する「演習科目」を開講する
- ③研究遂行に必要な語学力を獲得するための科目を、特殊研究科目、演習科目において開講する

3) 独創性

- ①初年度から開講する研究指導演習を通じて研究指導を継続的に徹底することにより、先行研究をフォローし、それとの関連で自らの研究課題を正確に位置づけるとともに、先行研究に対する独自性を明確にし、研究方法に関して独創性を追求するなど、独創性の涵養を図る

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

学生生活

規程

各種出書

I 教育理念など 教育理念ならびに教育研究に関する目的、人材養成に関する目的

4) 総合力

- ①研究指導演習を通じて研究指導を継続的に徹底することにより、修士課程の学びをふまえて、その集大成として修士論文に仕上げる指導を行い、独立した研究として一定の水準を達成することをめざし、総合力の涵養を図る

社会福祉学研究科／社会福祉学専攻の教育研究上の目的 <博士後期課程>

●人材養成の目的

- ①社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関する高度な専門的知識を持ち、創造性豊かな研究能力を持つ研究者を養成する
- ②社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関して、確かな教育力と研究力を兼ね備えた教育者（大学教員等）を養成する

●その他の教育研究上の目的

1) 教育

- ①社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関する高度な専門的知識を持ち、創造性豊かな研究能力を持つ研究者を養成するための教育課程を提供する
- ②社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関して、確かな教育力と研究力を兼ね備えた教育者（大学教員等）を養成するための教育課程を提供する

2) 研究

- ①社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関する社会福祉学研究を推進する
- ②社会福祉学各領域をカバーする豊富な教員陣を有する本研究科の利点を駆使し、共同研究を進めるとともに、比較福祉研究をさらに充実させる
- ③社会福祉学研究の成果を教育に還元するとともに、社会貢献に反映する

3) 社会貢献

- ①高度な専門的知識・能力を持つ研究者・教育者の養成により社会に貢献する
- ②研究成果を学外に発信することにより社会に貢献する
- ③地方自治体や社会福祉関係機関・施設との共同研究や委託研究を進め、社会に貢献する

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

社会福祉学研究科／社会福祉学専攻のディプロマポリシー ＜博士後期課程＞

＊次の1)から4)をすべて満たす者に「博士（社会福祉学）」を授与する

1) 知識

- ①社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関わるいずれか1つの専門領域に関し、優れて高度な専門的知識を持っている
- ②専攻する専門領域以外で、近接する社会福祉思想・社会福祉史・社会福祉原理論・社会福祉政策論・社会福祉経営論・社会福祉方法論・社会福祉実践論等に関する高度な専門的知識を持っている

2) 研究技能

- ①研究課題に関して科学的に分析し、論理的に思考する能力があり、それらを再構成して適切に表現する優れた能力を有している
- ②研究を遂行するために必要な調査技法を習得、適切に調査を遂行する能力がある
- ③研究を遂行するために必要な高度な語学力を持っている

3) 独創性

- ①研究課題に関し、先行研究を把握した上で、自らの研究の目的・意義を位置づけることができる
- ②研究課題に関し、先行研究をふまえて、適切な研究方法により博士論文としてまとめることができる

4) 総合力

- ①研究課題に関する高度な専門的知識と、関連領域に関する専門知識、適切な研究技能、さらに独創性を有し、その成果を博士論文に集大成する優れて総合的な能力を備えている

社会福祉学研究科／社会福祉学専攻のカリキュラムポリシー ＜博士後期課程＞

1) 知識

- ①博士論文指導担当教員全員が「研究指導演習」を開講し、社会福祉学各領域の高度な専門的知識の提供及び研究の現状や課題の正確な把握をめざす

2) 研究技能

- ①博士論文指導担当教員全員がそれぞれ各セメスターごとに「研究指導演習」を開講し、学生の課題報告とそれに対する教員のコメント及び相互のディスカッション等の過程を通じて、研究を遂行するために必要な調査能力・分析能力・論理的思考力・表現力の獲得と研究技能のさらなる向上を図る
- ②「研究指導演習」を通して、研究遂行に必要な高度な語学力を獲得する

3) 独創性

- ①初年度から開講する「研究指導演習」を通じて研究指導を継続的に徹底することにより、先行研究をフォローし、それとの関連で自らの研究課題を正確に位置づけるとともに、先行研究に対する独自性を明確にし、研究方法に関して独創性を追求するなど、独創性のいっそうの涵養を図る

4) 総合力

- ①「研究指導演習」を通じて研究指導を継続的に徹底し、博士後期課程の学びをふまえて、その集大成として博士論文に仕上げる指導を行い、独立した研究として高度の水準を達成することをめざし、総合力のさらなる涵養を図る

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

博士
後期
課程

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

2. 学位授与基準

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

修士課程
文学研究科
教育学研究科
社会学研究科
社会福祉学研究科
課程の
修了学位
の取得

博士後期課程
文学研究科
教育学研究科
社会学研究科
社会福祉学研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

I 教育理念など

学位授与基準

文学研究科

仏教学専攻

文学研究科／仏教学専攻 学位授与基準 ＜修士課程＞

以下の要件をすべて充足した者に修士の学位を授与する。

1. 「ディプロマポリシー」に掲げる要件をすべて満たしていること。
2. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
3. 修士論文を提出して審査に合格すること。
4. 修士論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) 設定したテーマを明示し、そのテーマが研究史に照らして妥当であること。
 - (2) テーマに関する先行研究について十分把握していること。
 - (3) テーマに関して独創的見解を含んでいること。
 - (4) 文献資料の解釈が正確であること。
 - (5) 論証の内容に説得力があること。
 - (6) 論旨が明確であり、整合性と一貫性を有していること。

文学研究科／仏教学専攻 学位授与基準 ＜博士後期課程＞

以下の要件をすべて充足した者に博士の学位を授与する。

1. 在学中に、毎年「報告論文」または「研究経過報告書」を提出すること（学位請求論文を提出した年度は除く）。
2. 「ディプロマポリシー」に掲げる要件をすべて満たしていること。
3. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
4. 「論文提出要件」を満たした上で、学位請求論文を提出して審査に合格すること。
5. 学位請求論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) 設定したテーマを明示し、そのテーマが研究史に照らして妥当であること。
 - (2) テーマに関する先行研究について十分把握していること。
 - (3) テーマが独創的であり、学界に寄与する内容を持っていること。
 - (4) 文献資料の解釈が正確であること。
 - (5) 論証の内容に説得力があること。
 - (6) 論旨が明確であり、整合性と一貫性を有していること。

教育理念
教育研究上
の目的と
3ポリシー学位授与
基準履修
一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の
修了単位
の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位
互換制度免許状
資格取得通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

文学専攻

文学研究科／文学専攻 学位授与基準 ＜修士課程＞

以下の要件をすべて充足した者に修士の学位を授与する。

1. 「ディプロマポリシー」を満たしていること。
2. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
3. 修士論文を提出して審査に合格すること。
4. 修士論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) テーマの設定・選択が研究史に照らして妥当であること。
 - (2) テーマに関する先行研究について十分把握していること。
 - (3) テーマに関して独自の観点からの叙述あるいは独創的見解を含んでいること。
 - (4) 分析や論証の内容に説得力があること。
 - (5) 文献資料の解釈が正確であること。
 - (6) 論旨が明確であり、整合性と一貫性を有していること。

文学研究科／文学専攻 学位授与基準 ＜博士後期課程＞

以下の要件をすべて充足した者に博士の学位を授与する。

1. 在学中に、毎年「報告論文」または「研究経過報告書」を提出すること（学位請求論文を提出した年度は除く）。
2. 「ディプロマポリシー」を満たしていること。
3. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
4. 「論文提出要件」を満たした上で、学位請求論文を提出して審査に合格すること。
5. 学位請求論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) テーマの設定・選択が研究史に照らして妥当であること。
 - (2) テーマに関する先行研究について十分把握していること。
 - (3) テーマが独創的であり、学界に寄与する内容を持っていること。
 - (4) 文献資料の解釈が正確であること。
 - (5) 論証の内容に説得力があること。
 - (6) 論旨が明確であり、整合性と一貫性を有していること。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

I 教育理念など 学位授与基準

歴史学専攻

文学研究科／歴史学専攻 学位授与基準 ＜修士課程＞

以下の要件をすべて充足した者に修士の学位を授与する

1. 「ディプロマポリシー」に掲げる要件をすべて満たしていること。
2. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
3. 修士論文ないしは課題研究を提出して審査に合格すること。
4. 修士論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) 設定したテーマを明示し、そのテーマが研究史に照らして妥当であること。
 - (2) テーマに関する先行研究について十分把握していること。
 - (3) テーマに関して独創的見解を含んでいること。
 - (4) 文献資料の解釈が正確であること。
 - (5) 論証の内容に説得力があること。
 - (6) 論旨が明確であり、整合性と一貫性を有していること。
5. 課題研究については、以下の要件のうち3件以上を満たしていること。
 - (1) 自身の経験や実践に基づいてテーマを設定し、そのテーマが学術的意義を有していること。
 - (2) テーマに関する先行研究について十分把握していること。
 - (3) 研究成果を適切な方法で提示していること。
 - (4) 文献資料の解釈が正確であること。
 - (5) 論証の内容に説得力があること。
 - (6) 論旨が明確であり、整合性と一貫性を有していること。

文学研究科／歴史学専攻 学位授与基準 ＜博士後期課程＞

以下の要件をすべて充足した者に博士の学位を授与する。

1. 在学中に、毎年「報告論文」または「研究経過報告書」を提出すること（学位請求論文を提出した年度は除く）。
2. 「ディプロマポリシー」に掲げる要件をすべて満たしていること。
3. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
4. 「論文提出要件」を満たした上で、学位請求論文を提出して審査に合格すること。
5. 学位請求論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) 設定したテーマを明示し、そのテーマが研究史に照らして妥当であること。
 - (2) テーマに関する先行研究について十分把握していること。
 - (3) テーマが独創的であり、学界に寄与する内容を持っていること。
 - (4) 文献資料の解釈が正確であること。
 - (5) 論証の内容に説得力があること。
 - (6) 論旨が明確であり、整合性と一貫性を有していること。

教育学研究科

生涯教育専攻

教育学研究科／生涯教育専攻 学位授与基準 ＜修士課程＞

以下の要件をすべて充足した者に修士の学位を授与する。

1. 「ディプロマポリシー」に掲げる要件をすべて満たしていること。
2. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
3. 修士論文を提出して審査に合格すること。
4. 修士論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) テーマの設定理由が明確で、研究に一定の意義が認められること。
 - (2) テーマに関する先行研究を十分にふまえていること。
 - (3) 自己の研究の位置づけが明確で、オリジナリティをもっていること。
 - (4) 文献資料や調査データの取り扱いが適切であり、解釈や分析が妥当であること。
 - (5) 論旨が明確で、整合性と一貫性があり、説得力をもっていること。
 - (6) 「佛教大学研究倫理指針」「佛教大学研究公正管理規程」および「佛教大学『人を対象とする研究』倫理規程」を遵守していること。

教育学研究科／生涯教育専攻 学位授与基準 ＜博士後期課程＞

以下の要件をすべて充足した者に博士の学位を授与する。

1. 在学中に、毎年「報告論文」または「研究経過報告書」を提出すること（学位請求論文を提出した年度は除く）。
2. 「ディプロマポリシー」に掲げる要件をすべて満たしていること。
3. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
4. 「論文提出要件」を満たした上で、学位請求論文を提出して審査に合格すること。
5. 学位請求論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) テーマの設定理由が明確で、研究に十分な意義が認められること。
 - (2) テーマに関する先行研究を十分にふまえていること。
 - (3) 自己の研究の位置づけが明確で、オリジナリティをもっていること。
 - (4) 文献資料や調査データの取り扱いが適切であり、解釈や分析が妥当であること。
 - (5) 論旨が明確で整合性と一貫性があり、説得力をもっていること。
 - (6) 「佛教大学研究倫理指針」「佛教大学研究公正管理規程」および「佛教大学『人を対象とする研究』倫理規程」を遵守していること。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

臨床心理学専攻

教育学研究科／臨床心理学専攻 学位授与基準 <修士課程>

以下の要件をすべて充足した者に修士の学位を授与する。

1. 「ディプロマポリシー」に掲げる要件をすべて満たしていること。
2. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
3. 修士論文を提出して審査に合格すること。
4. 修士論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) テーマの設定理由が明確で、研究に一定の意義が認められること。
 - (2) テーマに関連する先行研究を十分にふまえていること。
 - (3) 自己の研究の位置づけが明確で、オリジナリティーをもっていること。
 - (4) 文献資料や調査データの取り扱いが適切であり、解釈や分析が妥当であること。

教育学研究科／臨床心理学専攻 学位授与基準 <博士後期課程>

以下の要件をすべて充足した者に博士の学位を授与する。

1. 在学中に、毎年「報告論文」または「研究経過報告書」を提出すること（学位請求論文を提出した年度は除く）。
2. 「ディプロマポリシー」に掲げる要件をすべて満たしていること。
3. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
4. 「論文提出要件」を満たした上で、学位請求論文を提出して審査に合格すること。
5. 学位請求論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) テーマの設定理由が明確で、研究に十分な意義が認められること。
 - (2) テーマに関連する先行研究を十分にふまえていること。
 - (3) 自己の研究としてのオリジナリティーをもっていること。
 - (4) 文献資料や調査データの取り扱いが適切であり、解釈や分析が妥当であること。
 - (5) 臨床心理学の研究論文として、提出時期の学問的レベルが維持されていること。

社会学研究科

社会学専攻

社会学研究科／社会学専攻 学位授与基準 ＜修士課程＞

以下の要件をすべて充足した者に修士の学位を授与する。

1. 「ディプロマポリシー」に掲げる要件をすべて満たしていること。
2. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
3. 修士論文あるいは課題研究を提出して審査に合格すること。
4. 修士論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) 論旨が明確であり、論理的に展開されていること。
 - (2) 先行研究の理解が十分であること。
 - (3) 文献資料の解釈、あるいはデータの処理が正確であること。
 - (4) 論文としての形式が整っていること。
5. 課題研究については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) 論旨が明確であり、論理的に展開されていること。
 - (2) 課題解決の具体策、あるいは方向性を提示していること。
 - (3) 文献資料の解釈、あるいはデータの処理が正確であること。
 - (4) 論文としての形式が整っていること。

社会学研究科／社会学専攻 学位授与基準 ＜博士後期課程＞

以下の要件をすべて充足した者に博士の学位を授与する。

1. 在学中に、毎年「報告論文」または「研究経過報告書」を提出すること（学位請求論文を提出した年度は除く）。
2. 「ディプロマポリシー」に掲げる要件をすべて満たしていること。
3. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
4. 「論文提出要件」を満たした上で、学位請求論文を提出して審査に合格すること。
5. 学位請求論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) 論旨が明確であり、論理的に展開されていること。
 - (2) 独創的見解を含んでいること。
 - (3) 先行研究の理解が十分であること。
 - (4) 文献資料の解釈、あるいはデータの処理が正確であること。
 - (5) 論文としての形式が整っていること。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

修士課程
文学研究科
教育学研究科
社会学研究科
社会福祉学研究科
課程の
修了学位
の取得

博士後期課程
文学研究科
教育学研究科
社会学研究科
社会福祉学研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

社会福祉学研究科

社会福祉学専攻

社会福祉学研究科／社会福祉学専攻 学位授与基準 ＜修士課程＞

以下の要件をすべて充足した者に修士の学位を授与する。

1. 「ディプロマポリシー」に掲げる要件をすべて満たしていること。
2. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
3. 修士論文を提出して審査に合格すること。
4. 修士論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) 設定したテーマの研究の意義・目的が適切で説得力があること。
 - (2) テーマに関する先行研究について十分把握していること。
 - (3) テーマに関して独創的見解を含んでいること。
 - (4) テーマにふさわしい研究方法が採用されていること。
 - (5) 文献資料の解釈が正確であること。
 - (6) 論証の内容が的確で説得力があること。
 - (7) 論旨が明確であり、整合性と一貫性を有していること。

社会福祉学研究科／社会福祉学専攻 学位授与基準 ＜博士後期課程＞

以下の要件をすべて充足した者に博士の学位を授与する。

1. 「ディプロマポリシー」に掲げる要件をすべて満たしていること。
2. 所定の研究指導を受け、修了に必要な単位を修得していること。
3. 本研究科の「学位請求論文審査要領」に定める「学位論文提出基準」を満たした上で、学位請求論文を提出して審査に合格すること。
4. 学位請求論文については、以下の要件をすべて満たしていること。
 - (1) 設定したテーマの研究の意義・目的が適切で説得力があること。
 - (2) テーマに関する先行研究について十分把握していること。
 - (3) テーマが独創的であり、学界に寄与する内容を持っていること。
 - (4) テーマにふさわしい研究方法が採用されていること。
 - (5) 文献資料の解釈が正確であること。
 - (6) 論証の内容が的確で説得力があること。
 - (7) 論旨が明確であり、整合性と一貫性を有していること。

I

履修要項

1. 履修一般事項

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

規程

各種
届出書

Ⅱ 履修要項

履修一般事項

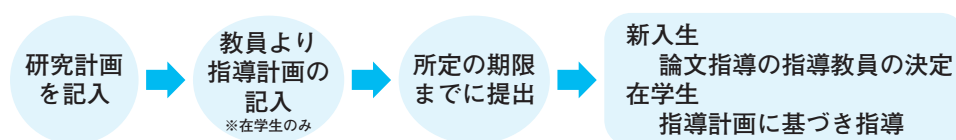
研究指導

研究指導は、論文の作成を目指し、各専攻領域の専門性を探るため、専攻ごとに複数教員により指導が行われます。

研究計画と指導教員

「研究指導計画書」(巻末の所定用紙)に在学中に研究するテーマ等を記入し、毎年度4月15日までに提出します(秋学期復学者は9月末日)。

新入生は研究予定テーマの内容により論文指導の指導教員が決定されます。



セメスター制

セメスター(学期)制とは、15週(6カ月)を単位に1年を春学期と秋学期に分け、学期ごとに履修登録から単位認定までを完結させる制度です。

履修登録

履修登録とは、自身の学修計画にもとづいた授業を受けるため、最初に行う手続きです。

履修登録は、定められた期間および方法以外で行うことはできません。

したがって、オリエンテーション中のガイダンスには必ず出席し、各専攻の指導や指示事項、シラバスおよび本書の内容をもれなく確認することが大切です。

なお、履修登録を行わないと単位認定されません。

履修登録の留意事項

- ・履修登録期間以外の登録や定められた方法以外での登録は受け付けません。
- ・履修登録・修正期間を過ぎると科目の追加・取消は認められません。
- ・病気または事故などで、期間中に登録できない場合は、学生支援課に連絡し、その指示にしたがってください。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー学位授与
基準履修
一般事項文学
研究科教育学
研究科社会学
研究科社会福祉学
研究科課程の
修了学位
の取得文学
研究科教育学
研究科社会学
研究科社会福祉学
研究科単位
互換制度免状
資格取得通信課程
聴講履修

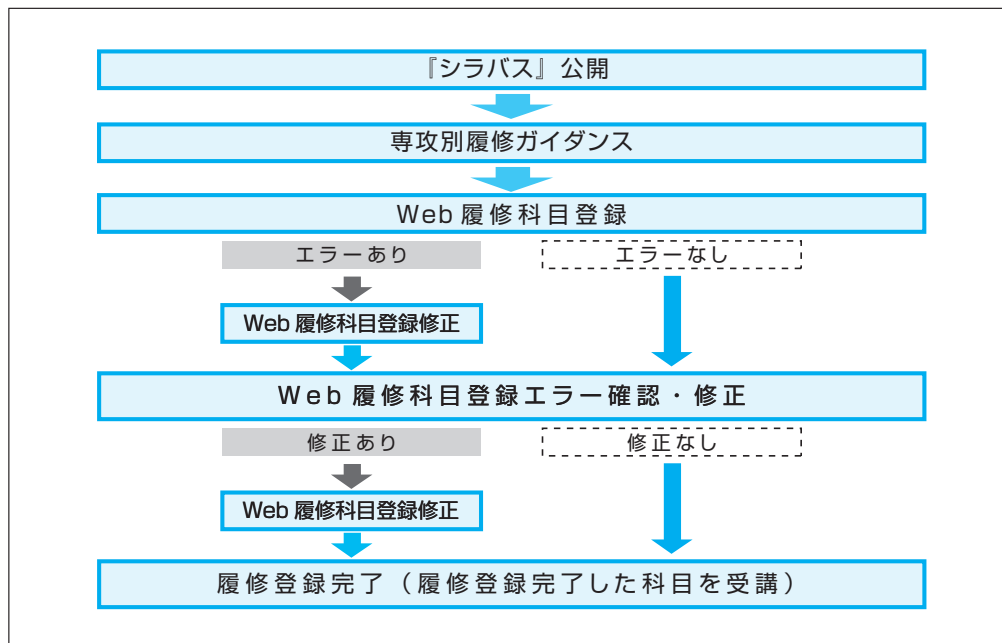
学生生活

規程

各種
届出書

Ⅱ 履修要項 履修一般事項

履修登録の流れ



履修登録の流れ	オリエンテーション期間中の行事等	行事等の概要
学修の計画	『シラバス』公開	・『シラバス』をもとに学修計画を立てる
履修登録の手続き	専攻別履修ガイダンス	・クラス指定表等の資料が配付される ・各専攻からの注意事項等の説明がある
	Web履修科目登録	・専攻別履修ガイダンスでの指導内容に基づき、自身で学修計画を修正する ・B-netで履修する科目の登録を行う
履修登録状況の確認	Web履修科目登録エラー確認・修正	・指定日時以降にB-netで履修登録した科目にエラーがないかを確認する ・エラー修正や科目変更は、期限までにB-netで履修科目登録修正を行う ・自身で登録した科目と相違なく、エラー表示もなければ履修登録完了
履修登録の完了	—————	・履修登録した授業に出席することができる ・授業教室はB-netで確認することができる

オリエンテーション期間中の行事日については、別途B-netにてお知らせします。秋学期のオリエンテーション期間中に実習等(公欠)の期間が含まれる場合は、別途指示される内容にしたがうようにしてください。ただし、公欠に該当しない理由でのオリエンテーション行事欠席については、一切認められません。したがって、欠席による不利益については、各自の責任となりますので、スケジュール管理には充分に注意してください。

※学部授業科目はB-netで履修登録できません。

授業科目と開講科目

「授業科目」と「開講科目」の関係は、履修すべき科目が「授業科目」であり、その授業科目を実際に授業として実施する科目が「開講科目」となります。

「授業科目」と「開講科目」の関係は次のとおりです。

学期中に授業を受けている間の科目名称は、開講科目が用いられますが、授業が終了し、単位を修得したものが成績表に記載されるのは授業科目となります。

(例)

授業科目	開講科目	備考
仏教学演習Ⅰ	仏教学演習ⅠH a	「H」は春学期開講を示します。「a」はクラス名を示します。
	仏教学演習ⅠA	「A」は秋学期開講を示します。
	仏教学演習ⅠS	「S」は集中講義日開講を示します。

※「仏教学演習ⅠH a」、「仏教学演習ⅠA」、「仏教学演習ⅠS」は同じ授業科目です。

シラバス

開講科目の授業テーマ・内容、到達目標や成績評価の基準、使用するテキストなど、授業に関する詳細な情報が書かれたものです。開講学期や曜日・講時、科目担当者も掲載されています。シラバスで科目の内容を必ず事前に確認し、学修計画を立ててください。シラバスはB-netより閲覧が可能です。

シラバスは、学期途中であってもやむを得ない事情により変更される場合があります。定期的に確認してください。

シラバスに掲載されている内容

授業のテーマ、授業の概要、授業の目的・ねらい、毎回の授業のテーマ・内容、到達目標、授業時間外の学修についての具体的な指示、受講にあたっての留意事項、成績評価の基準、テキスト、参考文献

シラバス確認の際は以下の点に注意してください。

- ・B-netでは全ての科目のシラバス検索が可能です。したがって、履修できない科目やクラスも表示されます。
- ・テキストの購入前には最新のシラバスにて、使用テキストを確認してください。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

Ⅱ 履修要項 履修一般事項

科目ナンバリング（大学院）

1. 科目ナンバリングとは

本学では、科目の属性や望ましい授業方法や難易度を明示し、より順次的で段階的な研究計画を立てることを目的に全開講科目に科目ナンバーを付与しています。

2. 科目ナンバリングの見方

（例）mhi01-1001-ocAC6の場合、以下のような意味となります。

mhi 01 - 1 001 - oc AC 6

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

修士課程 専攻科目 履修推奨 セメスター 通し番号 対面授業 演習科目 難易度6

① [科目所属研究科・専攻]

本学で開講している科目を開講している研究科・専攻を示しています。

研究科	専攻	コード
文学研究科 修士課程	仏教学専攻	mbu
	文学専攻（共通）	mlu
	文学専攻（日本文学系）	mlj
	文学専攻（中国文学系）	mlc
	文学専攻（英米文学系）	mle
教育学研究科 修士課程	歴史学専攻	mhi
	生涯教育専攻	med
社会学研究科 修士課程	臨床心理学専攻	mcl
	社会学専攻	mso
社会福祉学研究科 修士課程	社会学専攻	mso
	社会福祉学専攻	mwe
	仏教学専攻	pbu
文学研究科 博士後期課程	文学専攻	pli
	歴史学専攻	phi
	生涯教育専攻	ped
教育学研究科 博士後期課程	臨床心理学専攻	pcl
	社会学専攻	pso
社会福祉学研究科 博士後期課程	社会福祉学専攻	pwe

② [科目区分]

その科目を開講するカリキュラムの中で、どの区分に配置されている科目かを示します。

区分	コード
専攻科目	01
関連科目	02

③ [履修推奨セメスター]

学部では順次的な履修を促すため、履修推奨セメスターを指定していますが、修士課程の研究指導演習以外の科目においては、自律的に研究を進めてもらうことを目的に、履修推奨セメスターを設けず「1」を指定しています。

④ [ナンバー]

カリキュラム表の科目区分における通し番号です。

⑤ [授業形態]

対面授業や遠隔授業といった授業形態を示します。現在は、全ての科目が対面授業となっています。

授業形態	コード
対面授業	oc
遠隔授業（オンデマンド）	ol
遠隔授業（同時双方向）	in
対面授業と遠隔授業（オンデマンド）のハイブリッド	hb
対面授業と遠隔授業（同時双方向）が選択できるハイフレックス	hf
その他	ot

⑥ [授業方法]

各科目がどのような授業方法で実施されるのかを示しています。科目によっては、複数の授業方法を織り交ぜて実施している科目もありますが、その場合は、主な授業方法を示しています。

授業方法	教授法	コード
講義	主に教員が知識や情報の伝達を目的に講演する教授法	LE
講読	書物や論文を学問的に正確に読解し学ぶ教授法	RE
演習・実験・実技	実験・演習・フィールドワークなど、座学ではなくディスカッションや作業を通じて学ぶ教授法	AC
実習	法令上規定された病院実習、施設実習など、学外施設で学ぶ科目	PR
研究指導演習	修士論文・博士論文の研究指導演習	RW

⑦ [難易度]

各科目のカリキュラム上の難易度を示しています。この情報を参考に、体系的な履修計画を立ててください。ただし、基礎的な内容だからといって、単位取得が容易な訳ではありません。

難易度	基準	コード
基礎的な内容	修士課程の研究の基礎となる科目です。1年生で履修することを推奨します。	5
発展的な内容	修士課程の発展的レベルの科目です。1・2年次で履修することを推奨します。基礎をかためた上で履修することが理想的です。主に演習・研究・実習科目でより研究を深めることを目的とした科目です。	6
高度な内容	修士課程・博士後期課程の研究成果となる論文を指導する研究指導演習を指します。	7

Ⅱ 履修要項 履修一般事項

学部授業科目の履修

修士論文作成や免許・資格を取得する目的のために学部授業科目(スポーツ理論・スポーツ実技、コンピュータ・リテラシー以外の全学共通科目を除く)を履修することができます。なお、学部授業科目の履修を行うためには、巻末の「学部授業科目の聴講願」に必要事項を記入し所属の専攻主任、指導教員の指導・承認(押印)を得てから、オリエンテーション期間中の提出期限までに学生支援課へ提出し許可を得なければなりません。

また、1セメスターで16単位を超えて履修することはできません。(浄土宗教師資格取得目的の場合は除く)

「学部授業科目の聴講願」に記入



所属の専攻主任、
指導教員の指導・承認
(押印)



オリエンテーション
期間中の提出期限までに
学生支援課へ提出

※B-netで履修登録はできません。

通信教育課程の科目の履修

通信教育課程の専門科目の履修および免許科目の履修(併修履修)をすることができます。

詳細は、専門科目の履修については「通信教育課程聴講履修制度」(p.132)を、免許科目の履修(併修履修)については「通信教育課程との併修履修制度(免許併修)」(p.130)を確認してください。

履修登録状況の確認

履修登録手続き後は、オリエンテーション期間中、B-netの「学生時間割表」に、履修登録をおこなった科目が正しく登録されているかを必ず確認してください。「学生時間割表」で確認された登録間違いやエラーは、オリエンテーション期間中の指定された「履修科目登録修正期間」に登録修正が必要です。必ず「学生時間割表」を閲覧し、各自で責任を持って確認してください。

●エラー記載がなくても、履修登録状況の確認は、必ず各自で責任を持って行ってください。

履修取消し制度

「授業内容が想定していたものと異なっていた」、「授業についていけるだけの知識が不足していた」など、そのままでは単位を修得することが難しいと判断した場合、履修取消し期間内であれば、履修登録を取消することができます。

ただし、履修登録の取消しができる科目は、選択科目とし、必修科目は原則として履修取消しができません。なお、履修登録後に当該セメスターに休学の申し出があった場合は、原則として当該セメスターの授業は、履修取消し扱いとします。

履修取消しの申請手続き

申請期間：授業開始より7週目終了後から、原則5日間

※集中講義科目は、開講初日の翌日の正午まで

申請方法：学生支援課より、B-netにてお知らせします。

※注意事項※

履修取消し期間以外の申請は原則認めませんが、病気等のやむを得ない事由で、履修取消しの申請ができなかった場合は、申請期間外であっても履修取消しを認めることがあります。

授業カレンダー

春学期、秋学期の各授業開始・終了日や授業実施日、定期試験実施期間等はB-netにてお知らせする「授業カレンダー」にて確認してください。

授業時間

授業は以下の時間帯で行います。

講時	1	2	3	4	5	6
時間	9:00 }	10:40 }	12:50 }	14:30 }	16:10 }	17:50 }
	10:30	12:10	14:20	16:00	17:40	19:20

集中講義・実習

B-netの「学生時間割表」にて示される「集中講義」「実習」は特定の曜日講時で実施されない科目です。以下のいずれかに該当します。

1. 通年で開講する科目(S)

表記方法	科目名 + S
開講時期	通年 ※授業カレンダーに記載されている集中講義期間(9月上旬)で多くは開講される。ただし、科目によっては異なるので、シラバス等必ず確認すること。
履修登録時期	春学期科目の履修登録と同じタイミング
単位認定時期	秋学期科目の単位認定と同じタイミング

2. 個別の日程で行われる講義(H・A)

表記方法	科目名 + H もしくは A
開講時期	履修登録した学期 ※一定の連続した期間や、不規則な日程で開講される。詳細な日程については、シラバスやB-netで通知されるので確認すること。
履修登録時期	各学期の履修登録と同じタイミング
単位認定時期	各学期の単位認定と同じタイミング

3. 遠隔授業(H・A)

表記方法	科目名 + H もしくは A
開講時期	履修登録した学期 ※オンデマンド型の遠隔授業
履修登録時期	各学期の履修登録と同じタイミング
単位認定時期	各学期の単位認定と同じタイミング

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

Ⅱ 履修要項 履修一般事項

休 講

本学または担当者にやむを得ない事情が発生した場合には、授業を休講することがあります。休講になる科目については、B-netの「休補講・教室変更」にて連絡します。

休講掲示がなく、20分経過しても授業が行われない場合は、必ず学生支援課に連絡し、その指示にしたがってください。なお、**自動的に休講とはなりません。**

補 講

補講とは、休講により授業日数が不足する場合や授業が予定の範囲まで終了しなかった場合に、それを補うために行う授業です。実施する場合は、所定の補講日(授業カレンダー参照)に行い、詳細はB-netにてお知らせします。

授業欠席

病気または事故等により授業を欠席した場合は、所定の「授業欠席届」(巻末にあるものを複写して使用、またはB-netよりダウンロードして印刷)に必要な事項を記入し、欠席事由を証明する書類(診断書等)を添えて、担当者(教員)へ届け出てください。

「授業欠席届」に
必要事項を記入



証明する書類
(診断書等)



担当者(教員)へ提出

●「授業欠席届」は公欠として取り扱われるものではありません。

公 欠

公欠とは、カリキュラム上必要とされる実習等によって、やむを得ず授業を欠席しなければならない場合に適用されるものです。担当者(教員)へは、各学期末に通知されます。

しかし、公欠は出席としての扱いを保証されるものではありません。授業を欠席するという状況には変わりないので、当該授業日の授業内容、課題等を十分に確認し、授業に遅れをとらないよう留意することが必要です。

大学院については、次に該当する事由において期間中に授業を欠席する場合は、公欠として取り扱います。ただし、本学の当該免許・資格取得課程受講者に限ります。

介護等体験

教育実習

伝宗伝戒道場入行

図書館実習

博物館実習

臨床心理実習

心理実践実習

●なお、インターンシップ・課外活動・就職活動・ボランティア等は、公欠として取り扱いません。

※学校感染症罹患時の取り扱い(p.61)をあわせて確認してください。

定期試験

定期試験は、セメスターごとに行われます。定期試験の実施方法には、教室試験(筆記試験)、レポート試験および実技試験等によるものがあります。

また、定期試験の実施方法は定期試験期間の開始1ヵ月前頃に、時間割は開始1週間前頃にB-netにてお知らせします。

原則として、授業の曜日・講時と同一の曜日・時限で実施されますが、授業時間割とは異なる曜日・時限で実施される場合がありますので、注意してください。

教室試験

(1) 定期試験時間

時 限	1	2	3	4	5	6
時 間	9:15~10:15	10:30~11:30	12:30~13:30	13:45~14:45	15:00~16:00	16:15~17:15

(2) 受験資格

次の事項に該当する場合は、受験資格がありません。

- ①学生証または仮学生証を携帯していない場合。
- ②履修登録していない場合。
- ③科目の総授業日数の3分の1以上欠席した場合。
- ④学費未納の場合。

(3) 受験上の注意

- ①試験会場(教室)は当日、B-netで確認してください。
- ②試験会場では必ず「学生証」を机上の通路側においてください。
携帯していない場合は、試験開始前に学生支援課で「仮学生証」の発行を受けてください。
ただし、「仮学生証」は発行日のみ有効(当日返却が必須)で、毎回手数料(300円)が必要です。
- ③試験会場では、所持しているスマートフォン等通信機器の電源を切ってください。
時計としての代用はできません。
- ④試験開始後30分(30分00秒)以降退出することができます。
- ⑤試験会場では、試験監督者の指示にしたがってください。
- ⑥試験の遅刻は、20分(20分00秒)を経過すると、いかなる理由があっても入室できません。
- ⑦次の場合は不正行為とみなし、学則により処分を行い当該学期に履修登録した科目の一部、もしくは全てがN評価(無効・評価対象外)となります。
 - a)私語や態度について注意を与えても改めないとき。
 - b)許可なくして物品や教科書・ノート類を貸借したとき。
 - c)許可された以外のものを参照したとき。
 - d)身代わり受験をおこなったとき。または、おこなわせたとき。
 - e)その他、監督者の指示に直ちにしがわかないとき。

Ⅱ 履修要項

履修一般事項

レポート試験

レポート試験課題はGoogle Classroomにて確認してください。

課題、提出期限等は定期試験期間の開始2週間前頃までに掲出されます。

提出は ①Google Classroom上での提出、②担当者に直接提出のいずれかとなります。

出題時の指示に従い、期限内に提出してください。

実技試験

科目によって、実技をともなう試験を行う場合があります。

実技試験の有無については、B-netやGoogle Classroomを確認してください。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

追 試 験

正当な事由で定期試験(対面試験)を受験できなかった場合、願い出により欠席の妥当性が承認された場合に限り、追試験を受験することができます。

なお、寝過ごし、交通機関への乗り遅れ、自転車、バイク等の故障等、自己の責任による事由、および自宅療養等により医師の診断書等がない場合は、追試験受験許可事由となりません。

また、受験資格は定期試験の受験資格に準じます。正当な事由と手続き方法は次のとおりです。

(1) 追試験受験許可事由

事 由	添 付 す る 書 類	受 験 許 可 対 象 期 間
公欠に該当する実習等	添付書類不要	実習期間および実習地への往復に要すると判断される期間
交通機関の遅延	当該の交通機関が発行した遅延証明書を添付	遅延した当日限り
病気又は傷病	安静加療を要し、登校不能な状態である旨を明記した医師の診断書を添付	診断書に記載された期間
忌引き	3親等までの親族に限る。死亡に関する証明書(会葬礼状等日時が明示されたもの)を添付	7日以内とする(3親等の場合は3日)。帰省等のための往復に要する期間を別途含める
自己の責めによらない不慮の事故または災害	公共機関が発行する事故証明書または罹災証明書を添付	必要として認める期間
進路に関する試験 ※任意参加のセミナー等は不可	就職先・進学先等の証明書(受験票の写し等日時が明示されたもの)を添付	必要として認める期間
その他	本学がやむを得ないと認める場合は、指定する証明書を添付	必要として認める期間

(2) 手続き

- ①欠席した当該科目試験終了後、指定された期日以内に、指定された方法(詳細はB-netにてお知らせ)にて必要事項を入力し、証明する書類(診断書等)を添えて、申請してください。
- ②学生支援課より指定された日時に受験の可否確認をしてください。
- ③受験を許可され追試験を受験する場合は、受験手数料(1科目500円)の納入が必要です。ただし、公欠もしくは、学校感染症罹患(p.61)による欠席(診断書提出必須)に該当する場合の受験手数料は不要です。
- ④追試験日は「学年暦」により定められています。その日に受験できない場合は、事由のいかんに関わらず、当該科目の受験資格を失います。

Ⅱ 履修要項 履修一般事項

緊急時における授業・試験の取り扱い

交通機関の不通、特別警報もしくは暴風警報発令時における授業および定期試験の取り扱いは、次のとおりです。

休講および定期試験休止

次の(1)～(3)のいずれかの状況が発生した場合は、ただちに休講および定期試験の休止とします。

- (1) 交通機関の不通の場合(aまたはbのいずれかの条件を満たす場合とします)
 - a)京都市営バスと地下鉄が同時に全路線・全区間で不通
 - b)下表の4交通機関(JR・阪急・京阪・近鉄)のうち、2交通機関の指定区間において、全てまたは一部が不通

交通機関	指定区間(路線)
J R ※JRの指定区間(5路線)において複数路線が不通となった場合でも、1交通機関とする。	京都～米原(琵琶湖線)
	京都～大阪(京都線)
	京都～堅田(湖西線)
	京都～奈良(奈良線)
	京都～園部(嵯峨野線)
阪 急	京都河原町～大阪梅田(京都線)
京 阪	出町柳～淀屋橋(京阪本線)
近 鉄	京都～奈良(京都線・奈良線)

- (2) 京都府南部(南丹・京丹波、京都・亀岡、山城中部、山城南部のいずれか)に特別警報もしくは暴風警報(大雨・洪水・波浪・大雪警報は対象外)が発表された場合
- (3) その他の状況において、休講および定期試験を休止することが適切であると学長が認めた場合

休講および定期試験休止の解除

交通機関の運行再開および特別警報、暴風警報解除の場合は、下表のとおり取り扱います。

運行再開または警報解除の時刻	授業の取り扱い	定期試験の取り扱い
午前6時30分まで	1講時から授業実施	1時限から定期試験実施
午前10時00分まで	3講時から授業実施	3時限から定期試験実施
午前10時01分以降	終日休講	終日休止

その他の事項

- (1) 授業中もしくは定期試験の実施中に、特別警報、暴風警報等が発表された場合は、その都度、警報の緊急性および交通機関の運行状況等を考慮の上、休講および定期試験の休止の実施時刻を指示します。
- (2) 上記以外で、自身の居住地域に係る交通機関の不通および特別警報もしくは暴風警報等が発表された場合は、自身の判断で安全確保に努め、欠席については、後日「授業欠席届」を担当者(教員)へ届け出てください。
- (3) 「特別警報」が発表された場合、ただちに命を守る行動をとってください。

学校感染症罹患により欠席した授業・試験の取り扱い

学校保健安全法施行規則第18条・19条に基づき、下表の学校感染症に罹患した場合は、医師の指示に従い静養に努めてください。

治癒後、医師の診断書等を学生支援課へ提出し受理された場合、公欠と同等の扱いと証明できる「欠席事由確認証(感染症)」が交付されます。

但し第3種、その他の感染症に関しては、医師より登校禁止を指示された場合に限りです。

分類	感染症の種類
第1種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ベスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎(ポリオ)、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARS)、中東呼吸器症候群(MERS)、特定鳥インフルエンザ、指定感染症
第2種	インフルエンザ(鳥インフルエンザ(H5N1)を除く)、百日咳、麻疹(はしか)、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)、風しん(三日はしか)、水痘(水ぼうそう)、咽頭結膜熱(プール熱)、結核、髄膜炎菌性髄膜炎、新型コロナウイルス感染症
第3種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎(はやり目)、急性出血性結膜炎、その他の感染症[溶連菌感染症(しょうこう熱)、ウイルス性肝炎、手足口病、伝染性紅斑(りんご病)、ヘルパンギーナ(夏かぜ)、マイコプラズマ肺炎、感染性胃腸炎、流行性嘔吐下痢症など]
感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第6条第7項から第9項までに規定する新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び新感染症は、第1種の感染症とみなす。	

静養を要する期間に出席できなかった授業

「授業欠席届」(p.56参照)に「欠席事由確認証(感染症)」、診断書等を添えて、当該の開講科目担当教員に提出してください。

静養を要する期間に受験できなかった試験(定期試験)

「試験欠席届」に「欠席事由確認証(感染症)」、診断書等を添えて、学生支援課に提出し、追試験の手続きを行ってください(この場合追試験受験手数料は不要です)。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

Ⅱ 履修要項 履修一般事項

成績

成績評価は、シラバスに記載された成績評価の基準に基づいて行われます。評価は以下の通りです。

「成績証明書」には合格科目のみが記載され、評価はS、A、B、C、認定のみが記載されます。なお、単位認定は学期末となります。

点数	成績通知書の表示	成績証明書の表示	評価の基準	判定
100～90	S	S	到達目標をほぼ完全に達成しており、極めて優秀な成績を修めている	合格
89～80	A	A	到達目標を十分に達成し、優秀な成績を修めている	
79～70	B	B	不十分な点があるが、到達目標を相応に達成している	
69～60	C	C	到達目標の最低限は満たしている	
59～0	D	表示されない	到達目標を達成できていない 単位を与えるためにはさらに学修が必要である	不合格
未受験・未提出	X		定期試験未受験、レポート試験未提出、などの場合	
評価対象外	N		評価対象外などの場合	
認定	認定	認定	※入学前に修得した単位が認定されたもの、および入学後に他大学等において修得したもの	合格
履修取消	—	表示されない		

※「認定」：入学前に修得した単位が認定されたもの、および入学後に他大学において修得したもの

成績の確認

成績の確認は、次学期オリエンテーション1週間前を目途にB-netにて確認することができます(成績の開示日は、B-netにてお知らせします)。なお、春学期に履修登録をおこなう通年集中講義科目の成績確認は、秋学期の扱いとなります。

成績に関する調査申請（成績疑義）について

開示された成績について正当でないと考えられる場合、調査依頼を申請することができます。

申請について

申請可能期間：評価当該学期の成績発表を含め5日以内
(例：6月5日が成績発表日の場合、成績発表日の6月5日から6月9日までの5日間)
申請方法：B-netにて案内

※注意事項※

- 申請によって成績が変更されることを保証するものではありません。
- 申請前には、自身に過失がないか、本当に成績に疑問があるのか十分に確認してください。

GPA 制度

GPA(Grade Point Average)制度とは、科目ごとの成績評価からそれぞれのグレードポイント(GP)を求め、単位あたりの平均値を算出したものです。学期ごとおよび在籍期間中の通算のGPAを成績通知書、成績証明書に記載します。

このGPA制度の導入によって、学期ごとの学修成果と推移がより明確となり、さらに細やかな学習指導への活用と、学習意欲の向上、無理な履修計画や安易な履修登録の自己規制につながることを目的として導入しています。

本学の成績評価とグレードポイント(GP)との関係は次のとおりです。

点 数	成績評価	G P
100 ～ 90	S	4
89 ～ 80	A	3
79 ～ 70	B	2
69 ～ 60	C	1
59 ～ 0	D	0
未受験	X	
評価対象外	N	
認定	認定	対象外
履修取消	-	対象外

GPA (Grade Point Average) の算出方法

履修した科目の成績評価を上記のGPに置き換え算出します。算出方法については次のとおりです。

$$\text{学期 GPA} = \frac{(\text{当該学期の履修科目のGP} \times \text{当該科目の単位数})\text{の総和}}{\text{当該学期の履修科目の総単位数}}$$

$$\text{通算 GPA} = \frac{(\text{全学期の履修科目のGP} \times \text{当該科目の単位数})\text{の総和}}{\text{全学期の履修科目の総単位数}}$$

※計算値は小数点以下第3位を四捨五入して表記

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科
教育学研究科
社会学研究科
社会福祉学研究科
課程の修了学位の取得

文学研究科
教育学研究科
社会学研究科
社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

GPA 算出科目と算出除外科目について

履修登録したすべての科目をGPAの算出対象科目とします。ただし、次にあげる科目は、GPA算出除外科目とします。

※通信教育課程聴講履修制度により履修した科目はGPA算出対象となります。

- ①入学及び再入学前に修得し、単位認定された授業科目
- ②他大学等で履修(単位互換協定に基づく授業科目含む)し、単位認定された授業科目
- ③学部聴講科目
- ④履修取消しを申請した科目
- ⑤その他研究科専攻毎に定める授業科目

なお、GPA算出対象科目は不合格となった場合でも、算出対象となります。したがって、自らの履修(履修登録を含む)に対して、より真剣に取り組むことが求められます。

2. 履修科目表

● 修士課程

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科
教育学
研究科
社会学
研究科
社会
福祉学
研究科
課程の
修了学位
の取得

文学
研究科
教育学
研究科
社会学
研究科
社会
福祉学
研究科
博士後
期課程

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

●文学研究科修士課程 仏教学専攻

系 列	授 業 科 目				
	授 業 科 目 名 称		単 位	必修・選択区分	専修免許状対象科目
専攻 科 目	基 礎 目	仏教学研究基礎 1	2	選	○
		仏教学研究基礎 2	2	選	○
	特 殊 研 究 科 目	法然教学特殊研究	2	選	○
		浄土教学特殊研究 1	2	選	○
		浄土教学特殊研究 2	2	選	○
		仏教学特殊研究 1	2	選	○
		仏教学特殊研究 2	2	選	○
		仏教学特殊研究 3	2	選	○
		仏教文化特殊研究	2	選	○
	演 習 科 目	法然教学演習 1	2	選	○
		法然教学演習 2	2	選	○
		浄土教学演習 1	2	選	○
		浄土教学演習 2	2	選	○
		仏教学演習 1	2	選	○
		仏教学演習 2	2	選	○
		仏教学演習 3	2	選	○
		仏教学演習 4	2	選	○
		仏教文化演習 1	2	選	○
		仏教文化演習 2	2	選	○
		仏教文化演習 3	2	選	○
		仏教文化演習 4	2	選	○
	研 究 指 導 科 目	仏教学研究指導演習 1	2	必	
		仏教学研究指導演習 2	2	必	
		仏教学研究指導演習 3	2	必	
		仏教学研究指導演習 4	2	必	
関連科目	仏教学特論 1		2	選	○
	仏教学特論 2		2	選	○

- (1) 基礎科目 2 単位以上、特殊研究科目 6 単位以上、演習科目 8 単位以上、研究指導科目 8 単位、計 30 単位以上修得すること。
- (2) 「修士論文」を提出して、その審査に合格すること。
- (3) 第 1 学年の履修登録上限単位数は、年間 22 単位とする。

〔専修免許状取得について〕

専修免許状対象科目欄に○印の付されている科目より、24 単位以上修得すること。

●文学研究科修士課程 文学専攻

系 列		授 業 科 目						
		授 業 科 目 名 称	単 位	必修・選択区分		専修免許状対象科目		
						中専・高専 (国語)	中専・高専 (中国語)	中専・高専 (英語)
専攻科目	基礎科目	文学研究基礎	2	必				
		日本文学研究基礎	2		選	○		
		中国文学研究基礎	2		選		○	
		英米文学研究基礎	2		選			○
	日本文学系	日本文学特殊研究 1	2		選	○		
		日本文学特殊研究 2	2		選	○		
		日本文学特殊研究 3	2		選	○		
		日本文学特殊研究 4	2		選	○		
		日本語学特殊研究	2		選	○		
		日本文学演習 1	2		選	○		
		日本文学演習 2	2		選	○		
		日本文学演習 3	2		選	○		
		日本文学演習 4	2		選	○		
		日本語学演習	2		選	○		
	中国文学系	中国文学特殊研究 1	2		選		○	
		中国文学特殊研究 2	2		選		○	
		中国文学特殊研究 3	2		選		○	
		中国語学特殊研究	2		選		○	
		中国思想特殊研究	2		選		○	
		中国文学演習 1	2		選		○	
		中国文学演習 2	2		選		○	
		中国文学演習 3	2		選		○	
		中国語学演習	2		選		○	
		中国思想演習	2		選		○	
	英米文学系	英米文学特殊研究 1	2		選			○
		英米文学特殊研究 2	2		選			○
		英語学特殊研究	2		選			○
		英米言語文化特殊研究	2		選			○
		英米文学演習 1	2		選			○
		英米文学演習 2	2		選			○
		英語学演習 1	2		選			○
		英語学演習 2	2		選			○
		英米作家研究 1	2		選			○
		英米作家研究 2	2		選			○
	専攻共通科目	日本語表現史研究	2		選	○		
		現代中国研究	2		選		○	
		日英対照言語学研究	2		選			○
		書道研究	2		選	○ (中専のみ※)		
		漢文学研究	2		選	○		
		異文化接触研究 (中国)	2		選		○	
		異文化接触研究 (英米)	2		選			○
	研究指導科目	文学研究指導演習 1	1	必				
		文学研究指導演習 2	1	必				
関連科目		日本言語文化研究	2		選	○		
		中国近現代思想研究	2		選		○	
		英語教育研究	2		選			○
		書道文化研究	2		選	○ (中専のみ※)		
		日本文学研究	2		選	○		
		中国文学研究	2		選		○	
		英米文学研究	2		選			○

- (1) 主専攻科目は、「日本文学系」「中国文学系」「英米文学系」の3学系からいずれか1つを選択し、その学系の科目を履修すること。
- (2) 主専攻とした学系以外の2学系の科目を履修した場合、専攻共通科目の単位としてみなす。
(高度専門職業人コース)
・基礎科目4単位、主専攻科目14単位(特殊研究6単位、演習8単位)、専攻共通科目4単位、研究指導科目2単位、関連科目6単位、計30単位以上修得すること。
- (高度教養人コース)
・基礎科目4単位、主専攻科目12単位(特殊研究4単位、演習8単位)、専攻共通科目6単位、研究指導科目2単位、関連科目6単位、計30単位以上修得すること。
- (3) 「修士論文」を提出して、その審査に合格すること。
- (4) 第1学年の履修登録上限単位数は、年間22単位とする。

〔専修免許状取得について〕

専修免許状対象科目欄に○印の付されている科目より、24単位以上修得すること。

※印を付す科目は高等学校教諭専修免許状(国語)には使用できません。高等学校教諭専修免許状(国語)取得希望者は、※印を除く科目より24単位以上修得してください。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科
教育学
研究科
社会学
研究科
社会
福祉学
研究科
課程の
修了学位
の取得

文学
研究科
教育学
研究科
社会学
研究科
社会
福祉学
研究科
博士後期
課程

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

●文学研究科修士課程 歴史学専攻

系 列	授 業 科 目				
	授 業 科 目 名 称		単 位	必修・選択区分	専修免許状対象科目
専攻科目	基礎科目	歴史学研究基礎 1	2	必	○
		歴史学研究基礎 2	2	必	○
		基礎外国語文献研究	2	必	○
		基礎文献研究	2	必	○
	専門科目	歴史学史料演習 1	2		選 ○
		歴史学史料演習 2	2		選 ○
		歴史学特殊研究 1	2		選 ○
		歴史学特殊研究 2	2		選 ○
		歴史学特殊研究 3	2		選 ○
		歴史文化資料演習 1	2		選 ○
		歴史文化資料演習 2	2		選 ○
		歴史文化特殊研究 1	2		選 ○
		歴史文化特殊研究 2	2		選 ○
		歴史文化特殊研究 3	2		選 ○
		歴史学特別演習 1	1		選
		歴史学特別演習 2	1		選
		歴史学特別演習 3	1		選
		歴史学特別演習 4	1		選
	研究指導科目	歴史学研究指導演習 1	1	必	
		歴史学研究指導演習 2	1	必	
		歴史学研究指導演習 3	1	必	
		歴史学研究指導演習 4	1	必	
	関連科目	歴史学フィールドワーク	2		選 ○
		外国語文献研究	2		選 ○
		フィールドワーク研究	2		選 ○
		歴史情報と社会	2		選 ○
		歴史情報基礎論	2		選 ○
		歴史情報資源論	2		選 ○

(1) 以下の所定の30単位を修得すること。

(高度専門職業人コース)

・基礎科目8単位、専門科目から「演習」4単位以上、「特殊研究」4単位以上を含み8単位以上、研究指導科目4単位、関連科目4単位以上、計30単位以上修得すること。

(研究者コース)

・基礎科目8単位、専門科目から「演習」4単位以上、「特殊研究」4単位以上、「特別演習」4単位を含み12単位以上、研究指導科目4単位、関連科目4単位以上、計30単位以上修得すること。

(2) 「修士論文」または「課題研究」のどちらかを提出して、その審査に合格すること。

(3) 第1学年の履修登録上限単位数は、年間22単位とする。

〔専修免許状取得について〕

専修免許状対象科目欄に○印の付されている科目より、24単位以上修得すること。

●教育学研究科修士課程 生涯教育専攻

系 列	授 業 科 目			
	授 業 科 目 名 称	単 位	必修・選択区分	専修免許状対象科目
専攻科目	生涯教育原論特殊研究 1	2	選	○
	生涯教育原論特殊研究 2	2	選	○
	生涯教育心理学特殊研究 1	2	選	○
	生涯教育心理学特殊研究 2	2	選	○
	生涯教育制度学特殊研究 1	2	選	○
	生涯教育制度学特殊研究 2	2	選	○
	生涯教育方法学特殊研究 1	2	選	○
	生涯教育方法学特殊研究 2	2	選	○
	生涯教育評価論特殊研究 1	2	選	○
	生涯教育評価論特殊研究 2	2	選	○
	生涯教育原論演習 1	2	選	○
	生涯教育原論演習 2	2	選	○
	生涯教育心理学演習 1	2	選	○
	生涯教育心理学演習 2	2	選	○
	生涯教育制度学演習 1	2	選	○
	生涯教育制度学演習 2	2	選	○
	生涯教育方法学演習 1	2	選	○
	生涯教育方法学演習 2	2	選	○
	生涯教育研究指導	1	選	
関連科目	教育哲学特殊研究 1	2	選	○
	教育哲学特殊研究 2	2	選	○
	教育史特殊研究 1	2	選	○
	教育史特殊研究 2	2	選	○
	教育心理学特殊研究 1	2	選	○
	教育心理学特殊研究 2	2	選	○
	学校教育特殊研究 1	2	選	○
	学校教育特殊研究 2	2	選	○
	社会教育特殊研究 1	2	選	○
	社会教育特殊研究 2	2	選	○
	児童教育特殊研究 1	2	選	○
	児童教育特殊研究 2	2	選	○
	図書館学特殊研究 1	2	選	
	図書館学特殊研究 2	2	選	
	健康教育特殊研究 1	2	選	
	健康教育特殊研究 2	2	選	
	文学教育特殊研究 1	2	選	
	文学教育特殊研究 2	2	選	
	環境教育特殊研究 1	2	選	
	環境教育特殊研究 2	2	選	
	法教育特殊研究 1	2	選	
	法教育特殊研究 2	2	選	
	国語科教育特殊研究	2	選	
	算数・数学科教育特殊研究	2	選	
	理科教育特殊研究	2	選	
	社会科教育特殊研究	2	選	
	特別支援教育特殊研究	2	選	
	人権教育特殊研究 1	2	選	
	人権教育特殊研究 2	2	選	
	消費者教育特殊研究 1	2	選	
	消費者教育特殊研究 2	2	選	

- (1) 専攻科目から特殊研究 4 科目 8 単位以上、演習 6 科目 12 単位以上、研究指導 4 科目 4 単位、関連科目から 4 科目 8 単位以上、合計 32 単位以上を登録履修すること。
- (2) 「修士論文」を提出して、その審査に合格すること。
- (3) 「生涯教育研究指導」を除き、重複履修しても、修了要件の単位に算入できない。
- (4) 第 1 学年の履修登録上限単位数は、年間 24 単位とする。

〔専修免許状取得について〕

専修免許状対象科目欄に○印の付されている科目より、24 単位以上修得すること。
なお、同一科目の重複履修により修得した単位を 24 単位に含めることはできない。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

●教育学研究科修士課程 臨床心理学専攻

系 列		授 業 科 目			
		授 業 科 目 名 称	単位	必修・選択区分	
専 攻 科 目		臨床心理学特論1	2	必	
		臨床心理学特論2	2	必	
		臨床心理面接特論1	2	必	
		臨床心理面接特論2	2	必	
		臨床心理査定演習1（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2	必	
		臨床心理査定演習2	2	必	
		臨床心理査定演習3	2		選
		臨床心理基礎実習1	1	必	
		臨床心理基礎実習2	1	必	
		心理実践実習1	1		選
		心理実践実習2	4		選
		臨床心理実習1（心理実践実習5）	1	必	
		臨床心理実習2（心理実践実習6）	1		選
		臨床心理実習3（心理実践実習3）	4	必	
		臨床心理実習4（心理実践実習4）	4		選
		臨床心理実習5	2		選
		臨床心理学研究指導演習1	1	必	
		臨床心理学研究指導演習2	1	必	
		臨床心理学研究指導演習3	1	必	
		臨床心理学研究指導演習4	1	必	
関 連 科 目	A群	心理学研究法特論	2		選
		臨床心理学研究法特論	2		選
		心理統計法特論	2		選
	B群	認知心理学特論	2		選
		生涯発達心理学特論	2		選
	C群	家族臨床心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2		選
		犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2		選
		人間関係学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2		選
		障害心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2		選
	D群	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2		選
		精神薬理学特論	2		選
		学校臨床心理学特論	2		選
	E群	投映法特論	2		選
		心理療法特論	2		選
		教育分野に関する理論と支援の展開	2		選
		心理支援に関する理論と実践	2		選
		心の健康教育に関する理論と実践	2		選
		心理学特別演習1	2		選
心理学特別演習2		2		選	

- (1) 専攻科目より必修14科目を含んで23単位以上、関連科目はA～Eの各群からそれぞれ2単位以上、計10単位以上、合計33単位以上修得すること。
- (2) 「修士論文」を提出して、その審査に合格すること。
- (3) 第1学年の履修登録上限単位数は、年間28単位とするが、臨床心理士および公認心理師の両受験資格取得を希望する者は年間32単位とする。

●社会学研究科修士課程 社会学専攻

系 列			授 業 科 目				
			授 業 科 目 名 称	単位	必修・選択区分		専修免許状対象科目
専攻科目	基礎科目	社会学系	社会学理論研究	2		選	○
		ソーシャルマネジメント系	ソーシャルマネジメント理論研究	2		選	○
	特殊研究科目	社会学系	社会学特殊研究 1（社会文化）	2		選	○
			社会学特殊研究 2（社会文化）	2		選	○
			社会学特殊研究 3（社会情報）	2		選	○
			社会学特殊研究 4（社会情報）	2		選	○
			社会学特殊研究 5（共生臨床）	2		選	○
			社会学特殊研究 6（共生臨床）	2		選	○
		ソーシャルマネジメント系	ソーシャルマネジメント特殊研究 1（環境）	2		選	○
			ソーシャルマネジメント特殊研究 2（環境）	2		選	○
			ソーシャルマネジメント特殊研究 3（環境）	2		選	○
			ソーシャルマネジメント特殊研究 4（地域）	2		選	○
			ソーシャルマネジメント特殊研究 5（地域）	2		選	○
			ソーシャルマネジメント特殊研究 6（地域）	2		選	○
	演習科目	社会学系	社会学演習 1（社会文化）	2		選	○
			社会学演習 2（社会情報）	2		選	○
			社会学演習 3（共生臨床）	2		選	○
			社会学演習 4（社会理論）	2		選	○
		ソーシャルマネジメント系	ソーシャルマネジメント演習 1（環境）	2		選	○
			ソーシャルマネジメント演習 2（環境）	2		選	○
			ソーシャルマネジメント演習 3（地域）	2		選	○
			ソーシャルマネジメント演習 4（地域）	2		選	○
	研究指導科目	社会学系	社会学研究指導演習 1	1		選	
			社会学研究指導演習 2	1		選	
			社会学研究指導演習 3	1		選	
			社会学研究指導演習 4	1		選	
		ソーシャルマネジメント系	ソーシャルマネジメント研究指導演習 1	1		選	
			ソーシャルマネジメント研究指導演習 2	1		選	
ソーシャルマネジメント研究指導演習 3			1		選		
ソーシャルマネジメント研究指導演習 4			1		選		
関 連 科 目			社会調査論	2		選	○
			社会調査演習 1	2		選	○
			社会調査演習 2	2		選	○
			社会調査演習 3	2		選	○
			地域公共政策論	2		選	○
			地域公共政策演習 1	2		選	○
			地域公共政策演習 2	2		選	○
			地域公共政策演習 3	2		選	○

- （1）専攻科目は「社会学系」「ソーシャルマネジメント系」の2学系からいずれか1つを選択し、履修すること。
- （2）専攻科目は選択した学系より基礎科目2単位、特殊研究科目8単位以上、演習科目4単位以上、研究指導科目4単位、計18単位以上修得すること。
- （3）専攻科目、関連科目より計30単位以上修得すること。
- （4）「修士論文」または「課題研究」のどちらかを提出して、その審査に合格すること。
- （5）第1学年の履修登録上限単位数は、年間22単位とする。

〔専修免許状取得について〕

専修免許状対象科目欄に○印の付されている科目より、24単位以上修得すること。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文 学
研究科
教育学
研究科
社会学
研究科
社会福祉学
研究科
課程の
修了学位
の取得

文 学
研究科
教育学
研究科
社会学
研究科
社会福祉学
研究科
博士後期課程

単 位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規 程

各 種
届 出 書

●社会福祉学研究科修士課程 社会福祉学専攻

系 列		授 業 科 目				
		授 業 科 目 名 称	単 位	必修・選択区分		専修免許状対象科目
専攻科	基礎科目	社会福祉学研究基礎 1	2	必		○
		社会福祉学研究基礎 2	2	必		○
	特殊研究 科目 (A群)	社会福祉原理論研究	2	必		○
		社会福祉方法論研究	2	必		○
		社会福祉政策論研究	2		選	○
		社会福祉史研究	2		選	○
		比較福祉研究	2		選	○
	特殊研究 科目 (B群)	乳幼児保育特殊研究	2		選	
		児童福祉特殊研究	2		選	○
		障害者福祉特殊研究	2		選	○
		高齢者福祉特殊研究	2		選	○
		精神保健福祉特殊研究	2		選	○
		医療福祉特殊研究	2		選	○
		地域福祉特殊研究	2		選	○
		現代社会福祉問題特殊研究	2		選	
	演習科目	乳幼児保育特殊演習	2		選	
		児童福祉特殊演習	2		選	○
		障害者福祉特殊演習	2		選	○
		高齢者福祉特殊演習	2		選	○
		精神保健福祉特殊演習	2		選	○
		医療福祉特殊演習	2		選	○
		地域福祉特殊演習	2		選	○
	研究指導 科目	社会福祉学研究指導演習 1	1	必		
		社会福祉学研究指導演習 2	1	必		
		社会福祉学研究指導演習 3	1	必		
		社会福祉学研究指導演習 4	1	必		
	関連科目	共生とケア 1	2		選	○
		共生とケア 2	2		選	○
		福祉の国際比較	2		選	○

(1) 基礎科目より4単位、特殊研究科目(A群)より必修4単位を含み6単位以上、特殊研究科目(B群)より6単位以上、演習科目より6単位以上、研究指導科目より4単位、計30単位以上修得すること。

(2) 「修士論文」を提出して、その審査に合格すること。

(3) 第1学年の履修登録上限単位数は、年間22単位とする。

〔専修免許状取得について〕

専修免許状対象科目欄に○印の付されている科目より、24単位以上修得すること。

3. 課程の修了と 学位の取得

- 修士課程

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

Ⅱ 履修要項

課程の修了と学位の取得

本学大学院を修了するための要件は、佛教大学大学院学則、佛教大学修学規程、佛教大学学位規程、佛教大学学位規程細則に定められています。それぞれの規程は巻末に記載がありますので、各自で熟読の上、履修計画を立ててください。

● 修士課程 ●

- ・ **(修学年限)** 修学年限は2年以上とし、4年を超えて在学することはできません。休学期間(最長2年)がある場合はこの限りではありません。また本学では長期履修制度は設けていません。
- ・ **(修了要件)** 修士課程の修了は、修士課程に2年以上在学し(休学期間は「在学」に含みません)、所定の単位数以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえ、「修士論文」または「課題研究」を提出し、その審査および最終試験に合格しなければなりません。課程修了の認定には、その研究に必要な外国語によく通ずることが求められます。
- ・ **(履修登録)** 授業科目はこれを2年間で履修できるように計画をたて、履修登録を行ってください。
- ・ **(研究指導計画書)** 在学中は、各専攻の指導に基づいて、毎年、本学所定様式の佛教大学大学院(修士・博士後期課程)研究指導計画書を使用し、毎年4月15日までに、学生支援課に提出しなければなりません。(秋学期復学者は、9月末日)
- ・ **(学位)** 修士課程修了生には各々専攻に応じた「修士(文学)」、「修士(教育学)」、「修士(社会学)」、「修士(社会福祉学)」の学位が授与されます。

「修士論文」および「課題研究」について

修士論文

修士論文は、修士課程での学修・研究の成果として、広い視野に立つ精深な学識をそなえたうえで、専攻分野において優れて独創的な研究能力を有することを立証するに足るものでなければなりません。そのため当該研究領域の先行研究成果に関する整理や問題点の提示、あるいは客観的な論証手続き等を用いた独創的視点に立つ論述が必須となります。

課題研究

【文学研究科 歴史学専攻 「高度職業人コース」】

「課題研究」とは、大学院設置基準第16条第2項および佛教大学大学院学則第44条第2項に基づいて、「特定の課題についての研究の成果」と規定されており、修士論文に代わるものです。修士課程での学修・研究の成果として、修士論文と同様に、大学院担当教員による審査を経て、修了判定を受けます。

各自の専攻領域に関わるテーマを、指導教員と十分に協議して設定し、その指導の下で「課題研究」(分量は「課題研究の体裁」ページ参照)をまとめてください。

テーマとしては、たとえば

- 専門分野における文献にかかわる調査・研究
- 専門分野におけるフィールドワークによる調査・研究
- 専門分野に関する教授法についての調査・研究
- 専門分野における重要文献の注釈、翻訳、解題
- 博物館・資料館等における展示等に関する調査・研究

などの多様なものが考えられます。

「課題研究」は、修士課程の修了要件としての「修士論文」に代わるものですが、「修士論文」のように独創的な研究と成果を求めるものではありません。ただし、修士課程での専攻分野に関する学修・研究の成果として、高度の専門性が要求される職業等に必要とされる能力を有することを立証するに足るものでなければなりません。

【社会学研究科】

課題研究の成果(Project Research Report)は、ケース・スタディやフィールド・ワークあるいは特定の組織やプロジェクトを観察・調査し、それに関する詳細なレポート等々、実践的、実学的な研究成果内容も含まれますが、修士論文と同等の内容が求められます。

課題研究とは、「特定の課題についての研究の成果」(大学院設置基準第16条第2項 佛教大学大学院学則第44条第2項)であり、修士論文の枠には収まらない特殊な研究です。たとえば、特定領域における問題発見とその解決のための施策等の立案・策定を志向する研究などがこれに該当します。このような研究とその成果報告は、従来の枠組みでいえば修士論文としての要件を満たしていないとも考えられますが、社会学研究という学問分野には、このような社会的諸問題の個別具体的な事象に対する解決策の提示が要請されてもおり、研究の価値は低くありません。社会学研究科では、これを修士論文としてではなく、課題研究の成果として認定・評価する制度を設け、主たる指導教員の指導の下に研究を進め、その成果を提出し、修士論文と同様の審査を経て修了認定を行います。

①修士論文・課題研究提出資格

- 本大学院に2年以上在学し、大学院学則所定の単位を修得見込みのこと
- 学費を完納していること

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学研究科
教育学研究科
社会学研究科
社会福祉学研究科
課程の
修了学位
の取得

文学研究科
教育学研究科
社会学研究科
社会福祉学研究科
博士後期課程

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

Ⅱ 履修要項 課程の修了と学位の取得

②修士論文作成スケジュール

文学研究科仏教学専攻 研究指導要領

修士課程

○指導教員

2年間における学生の個人研究と科目履修について、専門的な立場から指導を行なう。

○集団指導体制

仏教学研究指導演習は、大学院仏教学専攻教員全員が科目担当となり、学生があらゆる分野の専門家からさまざまな指導を受けることで、より多角的な視点から研究を推進する。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

		演習・特殊研究	研究発表	大目標	小目標
1年目	春学期	ガイダンス		研究計画の策定	先行研究の整理 研究課題の明確化 構想の具体化
	秋学期	研究に必要な知識・ 技能の習得	春期中間発表会参加		
2年目	秋学期		秋期中間発表会参加	研究の遂行	中間成果の報告
	春学期	研究に必要な知識・ 技能の習得	春期および秋期 中間発表会で発表	研究の遂行 修士論文の執筆	中間発表会への準備
	秋学期			修士論文の提出	
				□頭試問	

文学研究科文学専攻(日本文学系) 研究指導要領

修士課程

○指導教員

2年間における学生の個人研究と科目履修について、専門的な立場から指導を行なう。

○集団指導体制

文学研究指導演習は、大学院文学専攻教員全員が科目担当となり、学生があらゆる分野の専門家からさまざまな指導を受けることで、より多角的な視点から研究を推進する。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

4月～6月の目標：研究史の整理と問題点の明確化	
4月	上旬：新入生オリエンテーション・「研究指導計画書」提出 必要な科目の履修登録
5月	指導教員の決定 指導計画の策定(院生との面談を伴う)
6月	研究の進捗確認と指導
7月～10月の目標：具体的研究課題の策定	
7月	中間発表会参加 夏季休暇中の研究計画提出・コメント
8月	メール等による研究の進捗確認と指導
9月	下旬：必要な科目の履修登録 下旬：夏季休暇中の研究報告・コメント
10月	研究の進捗確認と指導
11月～2月の目標：具体的成果報告(中間発表会<基礎>)	
11月	研究の進捗確認と指導
12月	中間発表会<基礎>の発表計画提出・コメント
1月	中間発表会<基礎>の準備状況の確認と指導
2月	中間発表会<基礎>研究発表・コメント
3月	メール等による研究の進捗確認と指導

1
年
目

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科
教育学
研究科
社会学
研究科
社会
福祉学
研究科
課程の
修了学位
の取得

文学
研究科
教育学
研究科
社会学
研究科
社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

Ⅱ 履修要項

課程の修了と学位の取得

2年目	4月～7月の目標：具体的成果報告	
	4月	～4/15研究指導計画書の提出 指導計画の策定 必要な科目の履修(～7月下旬)
	5月	中間発表会の発表計画提出・コメント 5/31修士論文課題研究の題目登録届提出期限
	6月	修士論文の進捗確認と指導
	7月	中間発表会研究発表・コメント 夏季休暇中の研究計画提出・コメント 7/31修士論文-課題研究提出期限 ※3年目以降の9月修了予定者
	8月～12月の目標：修士論文の構成策定と執筆	
	8月	下旬～口頭試問 ※3年目以降の9月修了予定者
	9月	下旬：必要な科目の履修(～1月下旬) 下旬：修了証書授与式 ※3年目以降の9月修了予定者
	10月	上旬：修士論文の構成と概要の確認・コメント 10/31論文題目変更届提出期限 ※3月修了予定者
	11月	修士論文の進捗確認と指導
	12月	12/20修士論文提出期限 ※3月修了予定者
	1月	修士論文作成報告と反省
	2月	上旬～中旬：口頭試問 ※3月修了予定者
	3月	3/18修了証書授与式 ※3月修了予定者

※詳細は、各専攻で定められたスケジュールに従ってください。

※このスケジュールの他、指導教員の指導に基づく研究活動の他、先行研究や関連領域の調査研究・学会参加・論文投稿等にも継続的に取り組んでください。

文学研究科文学専攻(中国文学系) 研究指導要領

修士課程

○指導教員

2年間における学生の個人研究と科目履修について、専門的な立場から指導を行なう。

○集団指導体制

文学研究指導演習は、大学院文学専攻教員全員が科目担当となることにより、学生があらゆる分野の専門家からさまざまな指導を受けることを可能にするための科目である。当科目の受講を通じて、学生はさらに多角的な視点から研究を推進できるようになる。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限の例)〉

		文学特別演習(個人指導)・文学指導演習(集団指導)	大目標	小目標
1 年 目	春学期	インフォメーションおよび指示 ▼ 個別報告とコメントおよび指示(個人指導) ▼ 個別報告とコメント(集団指導) ▼ 個別報告とコメントおよび指示(個人指導) ▼ まとめおよび指示(個人指導)	研究計画の策定	研究史の整理と問題点の提起
	秋学期	個別報告とコメントおよび指示(個人指導) ▼ 個別報告とコメントおよび指示(個人指導) ▼ 個別報告とコメント(集団指導) ▼ 個別報告とコメントおよび指示(個人指導)	研究の実施	具体的研究課題の策定 具体的成果報告

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会科学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会科学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許資格取得

通信課程聴講履修

学生生活

規程

各種出書

Ⅱ 履修要項

課程の修了と学位の取得

		文学特別演習(個人指導)・文学指導演習(集団指導)	大目標	小目標
2年目	春学期	個別報告とコメント(集団指導)		具体的成果報告
		▽		
		個別報告とコメントおよび指示(個人指導)	研究の実施	中間報告
		▽		
2年目	秋学期	進捗の報告とコメントおよび指示(個人指導)		中間報告
		▽		
		個別報告とコメント(集団指導)		修士論文の執筆
		▽		
2年目	秋学期	まとめおよび指示(個人指導)	修士論文の執筆	
		修士論文の提出		
		▽		
2年目	秋学期	口頭試問		

文学研究科文学専攻(英米文学系) 研究指導要領

修士課程

○指導教員

2年間における学生の個人研究と科目履修について、専門的な立場から指導を行なう。

○集団指導体制

文学研究指導演習は、大学院文学専攻教員全員が科目担当となり、学生があらゆる分野の専門家からさまざまな指導を受けることで、より多角的な視点から研究を推進する。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

	文学専攻(英米文学系)	文学専攻(英米文学系) 指導演習(集団指導)	大目標	小目標
1年目	春学期 個別的オリエンテーション・研究の方向性の確認 ▼ 研究テーマに沿った個別指導・文献指示 ▼ 予備中間発表の準備状況の確認 ▼ 修士論文の構成についての個別指導・文献指示 ▼ 中間発表に向けての個別指導	オリエンテーション・指導教員の決定 ▼ 大学院予備中間発表会 ▼ 大学院春学期中間発表会	研究計画の策定	研究テーマの適否の確認 研究テーマの決定 論文作成の基礎的研究 基礎研究に関する発表
	秋学期 章・節の構成の作成・予備中間発表に向けた個別指導 ▼ 修士論文の構成と中間発表に向けた個別指導 ▼ 中間発表で明確となった問題点の整理と新たな課題についての個別指導 ▼ 草稿作成(英文)に向けての準備的指導	大学院予備中間発表会 ▼ 大学院秋学期中間発表会	研究の実践	テーマに沿った基礎研究の発展 独自の論点の設定とその論拠の探究

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科
教育学研究科
社会学研究科
社会福祉学研究科
課程の修了学位取得

文学研究科
教育学研究科
社会学研究科
社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

学生生活

規程

各種出書

Ⅱ 履修要項

課程の修了と学位の取得

		文学専攻（英米文学系）	文学専攻（英米文学系）指導演習（集団指導）	大目標	小目標
2年目	春学期	タイトル・章立てを含む 全体的観点からの確認と 指導 ▼ 予備中間発表の準備状況の 確認と指導 ▼ 草稿作成（英文）に向けての 実践的指導 ▼ 中間発表に向けての 個別指導	大学院予備中間発表会 大学院春学期中間発表会	修士論文の草稿の作成	独自の論点の評価 論点・論拠の展開
	秋学期	予備中間発表の準備状況の確認 ▼ 中間発表に向けての 個別指導 ▼ 章・節構成と残された問題点の 整理および解決法に向けた個別 指導 ▼ 進捗状況の確認および注・文献 表の正確な作成に関する指導 ▼ 修士論文の作成に向けた 最終的な指導 ▼ 口頭発表に向けた指導	大学院予備中間発表会 大学院秋学期中間発表会 修士論文の発表	修士論文の執筆	章立ての確認と 論文の執筆 論文の完成 論文の 評価

文学研究科歴史学専攻 研究指導要領

修士課程

○指導教員

2年間における学生の個人研究と科目履修について、専門的な立場から指導を行なう。

○集団指導体制

歴史学研究指導演習は、大学院歴史学専攻教員全員が科目担当となり、学生があらゆる分野の専門家からさまざまな指導を受けることで、より多角的な視点から研究を推進する。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

		歴史学特別演習(個人指導)・歴史学指導演習(集団指導)	大目標	小目標
1 年 目	春学期	インフォメーションおよび指示 ▼ 個別報告とコメントおよび指示(個人指導) ▼ 個別報告とコメント(集団指導) ▼ 個別報告とコメントおよび指示(個人指導) ▼ まとめおよび指示(個人指導)	研究計画の策定	研究史の整理と問題点の提起
	秋学期	個別報告とコメントおよび指示(個人指導) ▼ 個別報告とコメントおよび指示(個人指導) ▼ 個別報告とコメント(集団指導) ▼ 個別報告とコメントおよび指示(個人指導)	研究の実施	具体的研究課題の策定 具体的成果報告

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学研究科
教育学研究科
社会学研究科
社会福祉学研究科
課程の修了学位の取得

文学研究科
教育学研究科
社会学研究科
社会福祉学研究科

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

Ⅱ 履修要項

課程の修了と学位の取得

		歴史学特別演習(個人指導)・歴史学指導演習(集団指導)	大目標	小目標
2年目	春学期	個別報告とコメント(集団指導)		具体的成果報告
		▽ 個別報告とコメントおよび指示(個人指導)		
		▽ 進捗の報告とコメントおよび指示(個人指導)	研究の実施	中間報告
		▽ 個別報告とコメント(集団指導) ▽ まとめおよび指示(個人指導)		
	秋学期	個別報告とコメント(集団指導)		中間報告
		▽ 個別報告とコメントおよび指示(個人指導)		
		▽	修士論文の執筆	
		修士論文の提出 ▽ 口頭試問		

教育学研究科生涯教育専攻 研究指導要領

修士課程

○指導教員による指導

入学時、専攻主任が窓口となり、学生の研究テーマと教員の専門領域を考慮して指導教員を決定する。学生は、演習や特殊研究の科目を履修し、専門的な研究を進めるのにふさわしい知識や方法論を習得し、個々の研究に関する指導を受ける。

○専攻全体としての指導

生涯教育研究指導は、大学院生涯教育専攻の全教員が科目を担当する。春学期と秋学期に通信課程と合同で行われる中間発表会では、修士論文や博士論文の構想発表とそれらに対する各分野の教員からの質問・助言をとおして、個々の研究を深めるための示唆を得ることができる。

以下は、研究を進めていく上での基本的な流れを示したものである。実際には、学生個人の状況に配慮し、指導教員との意思疎通に基づいて、柔軟に計画される。

なお、修士論文を提出するためには、提出年次の春学期(7月頃)か秋学期(9月頃)に開催される中間発表会で中間結果を発表しなければならない。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

		演習・特殊研究	研究発表	大目標	小目標
1年目	春学期	ガイダンス		研究計画の策定	先行研究の整理 研究課題の明確化 構想の具体化
	秋学期	研究に必要な知識・ 技能の習得	春期中間発表会参加		
2年目	春学期		秋期中間発表会参加	研究の遂行	中間成果の報告
	秋学期	研究に必要な知識・ 技能の習得	春期もしくは秋期 中間発表会で発表	研究の遂行 修士論文の執筆	中間発表会への準備
	秋学期			修士論文の提出 口頭試問	

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

Ⅱ 履修要項 課程の修了と学位の取得

教育学研究科臨床心理学専攻 研究指導要領

修士課程

○指導教員による指導

入学時、専攻主任が窓口となり、学生の研究テーマと教員の専門領域を考慮して指導教員を決定する。学生は、臨床心理学研究指導演習の科目を履修し、専門的な研究を進めるのにふさわしい知識や方法論を習得し、個々の研究に関する指導を受ける。

○専攻全体としての指導

臨床心理学研究指導演習では、指導教員とは異なる別分野の教員から、学期ごとに複数回の指導を受けることができる。複数の教員による指導は、多角的な視点から研究を深める機会となる。さらに、春学期に全教員が出席して行われる中間発表会では、修士論文の構想発表とそれらに対する各分野の教員からの質問・助言をととして、個々の研究を深めるための示唆を得ることができる。

以下は、研究を進めていく上での基本的な流れを示したものである。実際には、学生個人の状況に配慮し、指導教員との意思疎通に基づいて、柔軟に計画される。

なお、修士論文を提出するためには、提出年次の春学期(7月頃)に開催される中間発表会で中間結果を発表しなければならない。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

		研究指導演習	研究発表	大目標	小目標
1年目	春学期	ガイダンス		研究計画の策定	先行研究の整理 研究課題の明確化 構想の具体化
	秋学期	研究に必要な知識・ 技能の習得	春期中間発表会参加	研究の遂行	中間成果の報告
2年目	春学期	研究に必要な知識・ 技能の習得	春期中間発表会で 発表	研究の遂行 修士論文の執筆	中間発表会への準備
	秋学期			修士論文の提出	
				口頭試問	

社会学研究科社会学専攻 研究指導要領

修士課程

○指導教員

2年間における学生の個人研究と科目履修について、専門的な立場から指導を行う。その際、テキストの読解力、論文執筆の方法、社会調査の技法、プレゼンテーションの技能、グループディスカッションの能力など、研究者としての資質の育成を図る指導を実施する。

○集団指導体制

社会学研究指導演習は、大学院社会学研究科教員全員が担当する。学生はあらゆる分野の専門家から指導を受けることで、多角的な視点から研究を推進する。また、本研究科の集団指導は本演習の機会だけにとどまらず、修士論文の中間発表会、佛教大学社会学会の大会でも実施し、手厚く学生の指導を行うものである。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

		社会学研究指導演習 (ソーシャルマネジメント研究指導演習)	社会学研究指導演習	大目標	小目標
1年目	春学期	指導教員の決定 研究計画の策定 進捗状況の報告に対する コメントと指導① 進捗状況の報告に対する コメントと指導②	個別報告とコメント	研究計画の策定	先行研究の整理と研究テーマの決定
	秋学期	進捗状況の報告に対する コメントと指導① 修士論文中間発表会への出席 進捗状況の報告に対する コメントと指導② 佛教大学社会学会大会での発表 進捗状況の報告に対する コメントと指導③ 翌年度の調査・研究の方針に関 するコメントと指導	修士論文中間発表会での指導 佛教大学社会学会大会での指導	研究の実施	テキスト読解や社会調査の実施

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

Ⅱ 履修要項

課程の修了と学位の取得

		社会学研究指導演習 (ソーシャルマネジメント研究指導演習)	社会学研究指導演習	大目標	小目標
2年目	春学期	進捗状況の報告に対する コメントと指導① ▼ 進捗状況の報告に対する コメントと指導②	個別報告とコメント	研究の実施と 修士論文の執筆	研究成果の報告
	秋学期	中間発表会の発表に対する コメントと指導 ▼ 修士論文中間発表会での発表 ▼ 進捗状況の報告に対する コメントと指導 (以降、随時、指導を受ける) ▼ 佛教大学社会学会大会への出席 ▼ 修士論文の提出 ▼ 口頭試問	修士論文中間発表会での指導 ▼ 佛教大学社会学会大会での指導	修士論文の執筆	中間報告

社会福祉学研究科社会福祉学専攻 研究指導要領

修士課程

○指導教員

2年間における学生の科目履修と個人研究について、専門的立場から指導を行う。

○集団指導体制

社会福祉学研究指導演習は、大学院社会福祉学専攻教員全員が科目担当となり、学生が多様な分野の専門家から様々な指導を受けることで、より多角的な視点から研究を推進する。

また、中間報告会では学生が一堂に会し、研究の進捗を報告しディスカッションを行い、多様な分野の教員からスーパーバイズを受けることで新たな知見を得る。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

2年間におけるコースワークの計画的履修

基礎科目および特別研究科目の履修を通じて社会福祉学の基盤と研究方法を獲得する。

各自の研究領域を中心に特殊研究科目・演習科目の履修を通じて社会福祉学の到達点を踏まえ問題意識を醸成する。

1年目	春学期	社会福祉学研究指導演習1において個別報告を行い教員から個別指導及び集団指導を受けることで、各自の研究計画を策定する。 大学院研究会および中間報告会への参加を通じ、他の院生による研究成果報告を聞きディスカッションを行うことで問題意識を更に醸成させ、具体的な研究課題を策定する。
	秋学期	社会福祉学研究指導演習2において個別報告を行い教員から個別指導及び集団指導を受けることで、年度末までに具体的な研究成果を報告する。
2年目	春学期	社会福祉学研究指導演習3において個別報告を行い教員から個別指導及び集団指導を受けることで、研究を進める。 中間報告会において研究の進捗状況を報告し、多角的な観点からコメントを受けることで更なる研究の推進を図る。
	秋学期	社会福祉学研究指導演習4において個別報告を行い教員から個別指導及び集団指導を受けることで、研究を進め修士論文を執筆する。

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科
教育学研究科
社会学研究科
社会福祉学研究科
課程の修了学位の取得

文学研究科
教育学研究科
社会学研究科
社会福祉学研究科

単位互換制度

免許資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

Ⅱ 履修要項

課程の修了と学位の取得

③修士論文・課題研究の体裁

専攻ごとの注意事項と全専攻に共通する注意事項をまとめています。

専攻別修士論文および課題研究の体裁

論文の体裁等は、各専攻の指導に基づく様式となります。専攻ごとに体裁についての注意事項をとりまとめているので、確認のうえ提出してください。

<文学研究科>

専攻	種別	執筆方法	用紙	文字方向	体裁	原稿枚数
仏教学	修士論文	手書き	専用用紙 市販用紙	縦書き 横書き	—	400字 × 100枚程度
		ワープロ	A4用紙	縦書き 横書き	40字 × 30行	33枚程度
文学 (日本文学系)	修士論文	手書き	専用用紙 市販用紙	縦書き 横書き	—	400字 × 80枚程度
		ワープロ	A4用紙	縦書き 横書き	40字 × 30行	27枚程度
文学 (中国文学系)	修士論文	手書き	専用用紙 市販用紙	縦書き 横書き	—	400字 × 80枚程度
		ワープロ	A4用紙	縦書き 横書き	40字 × 30行	27枚程度
文学 (英米文学系)	修士論文	ワープロ	A4用紙	横書き	■英語の場合 66字 (半角英) ×25行 ■日本語の場合 40字 × 30行 (注)	30枚程度

(注)仏教学 規定の表紙「KOKUYO ツ67A4-S」を使用して綴じること。

(注)文学(英米文学系)

[修士論文] ※修士論文の使用言語は英語を推奨するが、日本語も可とする。

【英語の場合】 1,000字程度の日本語の論文要旨を提出すること。

【日本語の場合】 66字×25行×4枚程度の英語の論文要旨を提出すること。

専攻	種別	執筆方法	用紙	文字方向	体裁	原稿枚数
歴史学	修士論文	手書き	専用用紙 市販用紙	縦書き 横書き	—	■研究者コース 400字× 80枚以上 (本文のみ) ※図表を含め 全体で100枚程度
		ワープロ	A4用紙	縦書き 横書き	40字 × 30行	■研究者コース 27枚以上 ※図表を含め 全体で34枚程度
	課題研究	手書き	専用用紙 市販用紙	縦書き 横書き	—	■高度専門 職業人コース 400字× 80枚程度
		ワープロ	A4用紙	縦書き 横書き	40字 × 30行	■高度専門 職業人コース 27枚程度

<教育学研究科>

専攻	種別	執筆方法	用紙	文字方向	体裁	原稿枚数
生涯教育	修士論文	ワープロ	A4用紙	横書き	40字 × 30行	34枚程度
臨床心理学	修士論文	ワープロ	A4用紙	横書き	40字 × 30行	34枚以内 ※本文と引用・ 参考文献までで 34枚以内。 ※文字の大きさは 10.5ポイント

※規定の表紙「KOKUYO ツ67A4-S」(横書き・左綴じ用)に綴じ、1枚目を中表紙、2枚目を論文要旨、3枚目を目次とする。なお、論文要旨の文字数は1,000字以上1,200字以内とし、1枚でおさめるようにすること。学生支援課への提出とは別に、専攻保管用として1部、教育学部資料室に提出すること。

<社会学研究科>

専攻	種別	執筆方法	用紙	文字方向	体裁	原稿枚数
社会学	修士論文	ワープロ	A4用紙	横書き	40字 × 30行	30枚程度 ※本文最初の ページから ページ番号を 付与すること。
	課題研究	ワープロ	A4用紙	横書き	40字 × 30行	30枚以上 ※本文最初の ページから ページ番号を 付与すること。

※表紙には指導教員名、論題、氏名を記入し、英文タイトルもつける。扉の次に目次をつける。簡易ファイルで提出すること。学生支援課への提出とは別に、閲覧用として1部、社会学研究科専攻主任に提出すること。

<社会福祉学研究科>

専攻	種別	執筆方法	用紙	文字方向	体裁	原稿枚数
社会福祉学	修士論文	ワープロ	A4用紙	横書き	40字 × 30行	40枚以上 ※本文最初の ページから ページ番号を 付与すること。

※指導教員の指示がある場合は、縦書きおよび手書きも可。
表紙には、指導教員名、論題、氏名を記入し、英文タイトルもつける。扉の次に目次をつける。簡易ファイルで提出すること。学生支援課への提出とは別に、閲覧用として1部、社会福祉学研究科専攻主任に提出すること。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

課程の
修了学位の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

Ⅱ 履修要項 課程の修了と学位の取得

各専攻共通注意事項

- 論文の表紙は以下の(論文表紙サンプル)に準じ、作成してください。
- 論文表紙には「提出ラベル」を添付しなければなりません。
- 「提出ラベル」は修士論文提出年度に指導教員より配付を受けてください。
- 論文題目は「論文題目届」により届け出た内容と一字一句違わないようにしてください。
- 論文題目に副題を付す時は論文題目登録時、「論文題目届」に記入しておいてください。
- 本論文以外に必要な応じて副論文(別冊)の添付を認めます。

(論文表紙サンプル)

●縦書き

指導教員〇〇〇〇教授
論文題目
〇〇研究科修士課程〇〇専攻
学籍番号
氏名
提出ラベル

●横書き

指導教員〇〇〇〇教授
論文題目
〇〇研究科修士課程〇〇専攻
学籍番号
氏名
提出ラベル

④提出時の注意

論文提出にあたっては、指導教員の承諾を得たうえで手続きを行ってください。

・提出期限

	3月修了予定	9月修了予定
修士論文 課題研究 提出期限	12月20日	7月31日

※提出期限の締切時刻は、窓口開室時間に準拠します。

※提出期限が休日の場合は、B-netおよび掲示にて指示します。

・提出書類

○修士論文または課題研究…1冊(体裁等は、各専攻の指導に基づく様式としてください)

○論文要旨…(1,000字程度)1部

文学専攻(英米文学系)は、p.90に記載の通り作成すること。

○複写本…(正本を複写し、正本同様に製本したもの)2冊

●複写本には表紙の上部空白箇所に●と記入してください。

○複写論文要旨…(原本を複写したもの)2部

・提出先

学生支援課

●期限日および前日の提出受付は、掲示およびB-netにてお知らせする特設会場となります。

口頭試問

- 口頭試問は、修士課程の修了判定の最終試験として、提出された修士論文または課題研究について3月修了予定者は2月上旬、9月修了予定者は8月下旬～9月上旬に実施します。
- 口頭試問は、原則として大学院担当教員の中より、3名以上の審査員を選定して行います。

修士課程の修了

- 修士課程に2年以上在学し、大学院学則所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文または課題研究を提出して、その審査および最終試験に合格することで、修了となります。
- 修士課程修了の認定は、大学院研究科教授会がおこないます。
- 口頭試問の結果が不合格となった場合、修士課程を修了することはできません。

研究倫理教育eラーニングの受講について

本学では佛教大学研究公正管理規程により、研究活動に関わる者を対象に研究倫理教育を実施することとしています。修士論文や博士論文の作成、学内外への論文投稿、研究活動に係る経費の執行をする前に研究倫理を正しく理解していただくよう、全ての大学院生の方は、日本学術振興会の研究倫理eラーニングコースを受講してください。

受講にあたっては、担当部署(学術支援課)よりB-netにて受講の案内をします。
(案内時期：6月頃)

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単
位
互換制度

免
許
状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規
程

各
種
届
出
書

4. 課程の修了と 学位の取得・履修科目表

- 博士後期課程

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科
教育学
研究科
社会学
研究科
社会福祉学
研究科
課程の
修了学位
の取得

文学
研究科
教育学
研究科
社会学
研究科
社会福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

Ⅱ 履修要項

課程の修了と学位の取得

本学大学院を修了するための要件は、佛教大学大学院学則、佛教大学修学規程、佛教大学学位規程、佛教大学学位規程細則に定められています。それぞれの規程は巻末に記載がありますので、各自で熟読の上、履修計画を立ててください。

●博士後期課程●

- ・(修学年限) 修学年限は3年とし、6年を超えて在学することはできません。ただし、前記の期間に休学期間は含みません。
- ・(履修登録) 博士後期課程の教育は、主として研究指導によるものとします。
- ・(研究指導計画書) 在学中は、各専攻の指導に基づいて、毎年、本学所定様式の佛教大学大学院(修士・博士後期課程)研究指導計画書を使用し、毎年4月15日までに、学生支援課に提出しなければなりません。(秋学期復学者は、9月末日)
- ・(報告論文など) 在学中は各専攻の指導に基づいて、毎年、報告論文または研究経過報告書を本学所定様式の博士後期課程研究経過報告書(兼報告論文提出付票)を使用し、毎年1月末日までに、学生支援課に提出しなければなりません。(秋学期半期休学者は、9月末日)
- ・(修了要件) 博士の学位を得ようとする学生は、その博士後期課程において所定の単位を修得したのち、学位請求論文を提出し、最終試験に合格しなければなりません。課程修了の認定にはその研究に必要な外国語によく通ずることを条件とします。
- ・(学位請求論文) 博士学位請求論文は、その専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うのに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を有することを立証するに足るものでなくてはなりません。
- ・(学位) 博士後期課程修了生には「博士(文学)」、「博士(教育学)」、「博士(社会学)」、「博士(社会福祉学)」の学位が授与されます。

博士学位請求論文〈博士論文〉作成・提出

①論文提出資格

- ・修士課程を修了し博士後期課程に3年以上在学し、大学院学則所定の単位を修得見込みのこと。
- ・各専攻の指導教員の指導に基づいて、毎年、報告論文または研究経過報告書を提出していること。
- ・学費を完納していること。

②論文提出要件

博士学位請求論文を提出するためには、上記論文提出資格を満たしていることに加えて、各専攻により定められている提出要件を満たしていることが必要です。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー学位授与
基準履修
一般事項文学
研究科教育学
研究科社会学
研究科社会
福祉学
研究科課程の
修了学位
の取得文学
研究科教育学
研究科社会学
研究科社会
福祉学
研究科単位
互換制度免許
資格取得通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

Ⅱ 履修要項 課程の修了と学位の取得

文学研究科仏教学専攻 研究指導要領

博士後期課程

○指導教員

3年にわたり、学生が博士論文を執筆する過程に関与し、学生が研究者としての資質を高めるために指導。ディベートやディスカッションの能力を養うために議論をリードし、学会での発表に耐えうる能力を培う。

○集団指導体制

同分野の教員の指導のみならず、隣接・他分野の教員の指導や議論によって、自分の研究の客観性や独自性を高め、学生の研究に新たな視点をもたらせ、研究者としてのレベル向上に資する。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

		演習	研究発表	大目標	小目標
1年目	春学期	ガイダンス		研究計画の策定	先行研究の整理 課題・学位論文構想の明確化 論文執筆と投稿
	秋学期	研究に必要な知識・技能の習得	春期中間発表会参加		
2年目	春学期	研究に必要な知識・技能の習得	秋期中間発表会で発表	研究の遂行	公刊された論文の報告または研究経過報告書の提出
	秋学期		春期および秋期中間発表会で発表		
3年目	春学期	学位請求論文執筆	春期および秋期中間発表会で発表	学期末に草稿を指導教員に提出	全国学会で発表・論文投稿、および学内雑誌に論文投稿
	秋学期			11月上旬までに修正版を指導教員に再提出	
				大学の学位審査プロセスに従い大学に学位請求論文を提出	
			公開口頭試問		

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了と学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

学生生活

規程

各種出書

文学研究科博士後期課程 仏教学専攻 履修科目表

系 列	授 業 科 目		
	授 業 科 目 名 称	単 位	必修・選択区分
専攻科目	仏教学研究指導演習Ⅰ	1	必
	仏教学研究指導演習Ⅱ	1	必
	仏教学研究指導演習Ⅲ	1	必
	仏教学研究指導演習Ⅳ	1	必
	仏教学研究指導演習Ⅴ	1	必
	仏教学研究指導演習Ⅵ	1	必

・「仏教学研究指導演習Ⅰ～Ⅵ」6科目6単位を修得すること。

博士学位請求論文の提出要件

文 学 研 究 科	専 攻	論 文 提 出 要 件
	仏教学	①博士課程入学後に日本学術会議協力学術研究団体に登録された全国学会における1回以上の口頭発表。 ②学内の査読付学術出版物に投稿された1点、および日本学術会議協力学術研究団体に登録された全国学会の刊行する査読付学術出版物に博士課程入学後に投稿された1点を含む2点以上の学術論文を有していること。 ③学位請求論文の枚数は、400字×300枚以上。

※提出時の注意はp.120も参照のこと。

文学研究科文学専攻(日本文学系) 研究指導要領

博士後期課程

○指導教員

3年にわたり、学生が博士論文を執筆する過程に関与し、学生が研究者としての資質を高めるために指導。ディベートやディスカッションの能力を養うために議論をリードし、学会での発表に耐えうる能力を培う。

○集団指導体制

同分野の教員の指導のみならず、隣接・他分野の教員の指導や議論によって、自分の研究の客観性や独自性を高め、学生の研究に新たな視点をもたらせ、研究者としてのレベル向上に資する。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

学年	学生		指導教員
	授業科目の履修	博士論文の作成	
1	必要な科目の履修	- オリエンテーション時「研究指導計画書」提出 - 修士論文の改変と学術雑誌への投稿 - 論文中間報告・発表 1月末日「研究経過報告書」提出	- 指導教員の決定 - 研究計画の立案指導 - 研究計画の了承 (研究、論文作成指導) - 論文作成指導 - 次年度の研究計画の指導
2	必要な科目の履修	4月15日「研究指導計画書」提出 - 論文中間報告・発表 - 学会で口頭発表 - 学術雑誌への投稿 1月末日「研究経過報告書」提出	- 学会での口頭発表を指導 - 学術雑誌(学会誌を含む)への投稿 「博士論文」の概要了承 - 次年度の研究計画の指導
3	必要な科目の履修	4月15日「研究指導計画書」提出 「博士論文」執筆 - 論文中間報告・発表 11月30日「博士論文」の提出 1月下旬～2月中旬 口頭試問	- 学内外の研究発表の評価および批判に基づき、研究指導 「博士論文」提出了承 (研究科教授会に審査請求)

※本スケジュールは基本モデルです。特に2年次以降においては、学外学会での口頭発表や学術雑誌(学会誌を含む)への投稿等、指導教員の指導を受けつつ、積極的な取り組みが望まれます。

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

学生生活

規程

各種図書

文学研究科博士後期課程 文学専攻 履修科目表

系 列	授 業 科 目			
	授 業 科 目 名 称	単 位	必修・選択区分	
専攻科目	文学研究指導演習Ⅰ	1	必	
	文学研究指導演習Ⅱ	1	必	
	文学研究指導演習Ⅲ	1	必	
	文学研究指導演習Ⅳ	1	必	
	文学研究指導演習Ⅴ	1	必	
	文学研究指導演習Ⅵ	1	必	

・「文学研究指導演習Ⅰ～Ⅵ」6科目6単位を修得すること。

博士学位請求論文の提出要件

専 攻	論 文 提 出 要 件	
	文学	●日本文学系
文学研究科	①提出する学位請求論文は、全体で400字300枚前後であること。 ②公刊された学術論文2本以上を有し、そのうち1本以上は査読制度のある学術雑誌に査読を経て掲載されたものであること。 ③提出半年前までに中間発表を行うこと。	

※提出時の注意はp.120も参照のこと。

Ⅱ 履修要項 課程の修了と学位の取得

文学研究科文学専攻(中国文学系) 研究指導要領

博士後期課程

○指導教員

3年にわたり、学生が博士論文を執筆する過程に関与し、学生が研究者としての資質を高めるために指導。ディベートやディスカッションの能力を養うために議論をリードし、学会での発表に耐える能力を培う。

○集団指導体制

同分野の教員の指導のみならず、隣接・他分野の教員の指導や議論によって、研究の客観性や独自性を高めるとともに、研究に新たな視点をもたらせ、研究者としてのレベル向上に資する。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

		文学研究指導演習(個人指導)	大目標	小目標
1年目	春学期	インフォメーションおよび指示 ▼ 個別報告とコメントおよび指示 ▼ 個別報告とコメント ▼ 個別報告とコメントおよび指示 ▼ まとめおよび指示	研究計画の策定	研究史の整理と問題点の提起 具体的研究課題の策定
	秋学期	個別報告とコメントおよび指示 ▼ 個別報告とコメントおよび指示 ▼ 個別報告とコメント ▼ 個別報告とコメントおよび指示	研究の実施	具体的成果報告

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了と学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

学生生活

規程

各種出書

教育理念 教育研究上の目的と3ポリシー	
学位授与基準	
履修一般事項	
文学研究科	修士課程
教育学研究科	
社会学研究科	
社会福祉学研究科	
課程の修了学位の取得	
文学研究科	博士後期課程
教育学研究科	
社会学研究科	
社会福祉学研究科	
単位互換制度	
免許状資格取得	
通信課程聴講履修	
学生生活	
規程	
各種届出書	

		文学研究指導演習(個人指導)	大目標	小目標
2年目	春学期	インフォメーションおよび指示 ▼ 個別報告とコメントおよび指示 ▼ 個別報告とコメント ▼ 個別報告とコメントおよび指示 ▼ まとめおよび指示		研究史の整理と 問題点の提起
	秋学期	個別報告とコメントおよび指示 ▼ 個別報告とコメントおよび指示 ▼ 個別報告とコメント ▼ 個別報告とコメントおよび指示		具体的研究課題の策定
3年目	春学期	個別報告とコメント ▼ 個別報告とコメントおよび指示 ▼ 進捗の報告とコメントおよび指示 ▼ 個別報告とコメント ▼ まとめおよび指示	博士論文の執筆	具体的成果 報告
	秋学期	個別報告とコメント ▼ 個別報告とコメントおよび指示 ▼ 博士論文の提出 ▼ 口頭試問		中間報告 中間報告

文学研究科博士後期課程 文学専攻 履修科目表

系 列	授 業 科 目		
	授 業 科 目 名 称	単 位	必修・選択区分
専攻科目	文学研究指導演習Ⅰ	1	必
	文学研究指導演習Ⅱ	1	必
	文学研究指導演習Ⅲ	1	必
	文学研究指導演習Ⅳ	1	必
	文学研究指導演習Ⅴ	1	必
	文学研究指導演習Ⅵ	1	必

・「文学研究指導演習Ⅰ～Ⅵ」6科目6単位を修得すること。

博士学位請求論文の提出要件

専 攻	論 文 提 出 要 件
文学 ●中国文学系	①提出する学位請求論文は、全体で400字300枚前後であること。 ②公刊された学術論文2本以上を有し、そのうち1本以上は学外の学術雑誌に査読を経て掲載されたものであること。 ③提出半年前までに中間発表を行うこと。

※提出時の注意はp.120も参照のこと。

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

学生生活

規程

各種届出書

Ⅱ 履修要項 課程の修了と学位の取得

文学研究科文学専攻(英米文学系) 研究指導要領

博士後期課程

○指導教員

3年にわたり、学生が博士論文を執筆する過程に関与し、学生が研究者としての資質を高めるために指導。ディベートやディスカッションの能力を養うために議論をリードし、学会での発表に耐えうる能力を培う。

○集団指導体制

同分野の教員の指導のみならず、隣接・他分野の教員の指導や議論によって、自分の研究の客観性や独自性を高め、学生の研究に新たな視点をもたらせ、研究者としてのレベル向上に資する。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

		文学専攻(英米文学系)	文学専攻(英米文学系) 指導演習(集団指導)	大目標	小目標
1年目	春学期	個別的オリエンテーション・研究の方向性の確認 ▼ 研究テーマに沿った個別指導・文献指示・学外の学会発表へ向けての指導 ▼ 予備中間発表の準備状況の確認 ▼ 学外での学会発表へ向けての個別指導 ▼ 中間発表に向けての個別指導	オリエンテーション・指導教員の決定 ▼ 大学院予備中間発表会 ▼ 大学院春学期中間発表会	研究計画の策定	研究テーマの確認 全国学会(およびそれに準ずる学会)での ☐ 頭発表に向けて準備・応募
	秋学期	予備中間発表および学外での学会発表に向けた個別指導 ▼ 中間発表に向けた個別指導 ▼ 学外での学会発表で明確となった問題点の整理と新たな課題についての個別指導 ▼ 査読付き学会誌への投稿論文作成のための個別指導	大学院予備中間発表会 ▼ 大学院秋学期中間発表会	研究の実践	☐ 頭発表に向けての準備 全国学会(およびそれに準ずる学会)での 学会発表後の問題点の整理と 学会誌への投稿論文の作成

		文学専攻（英米文学系）	文学専攻（英米文学系）指導演習（集団指導）	大目標	小目標
2年目	春学期	査読付き学会誌への投稿論文作成のための個別指導 ▼ 予備中間発表の準備状況の確認と指導 ▼ 学外での学会発表へ向けての個別指導 ▼ 中間発表に向けての個別指導	大学院予備中間発表会 ▼ 大学院春学期中間発表会	研究の展開（学会誌への投稿を含む）	学会誌への投稿論文の完成（第一論文） 全国学会およびそれに準ずる学会での口頭発表に向けての準備（第二回目）
	秋学期	予備中間発表の準備状況の確認 ▼ 中間発表に向けての個別指導 ▼ 学外での学会発表へ向けての個別指導 ▼ 博士論文作成のための中間的な整理と指導 ▼ 学会誌への投稿論文の準備指導 ▼ 査読付き学会誌への投稿論文作成のための個別指導	大学院予備中間発表会 ▼ 大学院秋学期中間発表会	研究の展開（学会誌への投稿を含む）	全国学会およびそれに準ずる学会での口頭発表に向けての準備（第二回目） 学会発表後の問題点の整理と学会誌への投稿論文の作成

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

学生生活

規程

各種出書

Ⅱ 履修要項

課程の修了と学位の取得

		文学専攻（英米文学系）	文学専攻（英米文学系）指導演習（集団指導）	大目標	小目標
3年目	春学期	査読付き学会誌への投稿論文作成のための個別指導 ▼ 学会誌への投稿論文の点検 ▼ 予備中間発表の準備状況の確認 ▼ 博士論文の構成・問題点についての個別指導 ▼ 中間発表に向けての個別指導	大学院予備中間発表会 ▼ 大学院春学期中間発表会	博士論文の執筆	学会誌への投稿論文の完成（第一論文） 既発表論文に基づく博士論文の準備 博士論文の草稿の点検
	秋学期	博士論文の作成・予備中間発表に向けた個別指導 ▼ 博士論文の作成と中間発表に向けた個別指導 ▼ 中間発表で明確となった残された問題点の整理とその解決法についての個別指導 ▼ 博士論文の完成に向けての個別指導 ▼ 博士論文の公表に向けての準備指導	大学院予備中間発表会 ▼ 大学院秋学期中間発表会	博士論文の完成	博士論文の本論作成 博士論文の細部の点検 博士論文の完成 問題点の整理と今後の展望

文学研究科博士後期課程 文学専攻 履修科目表

系 列	授 業 科 目		
	授 業 科 目 名 称	単 位	必修・選択区分
専攻科目	文学研究指導演習Ⅰ	1	必
	文学研究指導演習Ⅱ	1	必
	文学研究指導演習Ⅲ	1	必
	文学研究指導演習Ⅳ	1	必
	文学研究指導演習Ⅴ	1	必
	文学研究指導演習Ⅵ	1	必

・「文学研究指導演習Ⅰ～Ⅵ」6科目6単位を修得すること。

博士学位請求論文の提出要件

専 攻	論 文 提 出 要 件
文学 ●英米文学系	①提出する学位請求論文は、全体で400字300枚前後であること。 ②公刊された学術論文2本以上を有し、そのうち1本以上は学外の学術雑誌に査読を経て掲載されたものであること。 ③提出半年前までに中間発表を行うこと。

※提出時の注意はp.120も参照のこと。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履 修
一般事項

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社 会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社 会
福祉学
研究科

単 位
互換制度

免 許 状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規 程

各 種
届 出 書

文学研究科歴史学専攻 研究指導要領

博士後期課程

○指導教員

3年にわたり、学生が博士論文を執筆する過程に関与し、学生が研究者としての資質を高めるために指導。ディベートやディスカッションの能力を養うために議論をリードし、学会での発表に耐えうる能力を培う。

○集団指導体制

同分野の教員の指導のみならず、隣接・他分野の教員の指導や議論によって、自分の研究の客観性や独自性を高め、学生の研究に新たな視点をもたせ、研究者としてのレベル向上に資する。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

		歴史学特別演習(個人指導)	歴史学指導演習(集団指導)	大目標	小目標
1年目	春学期	インフォメーション および指示 ▼ 個別報告とコメント および指示	インフォメーション ▼ 個別報告とコメント	研究計画の策定	研究史の整理と 問題点の提起
		▼ 個別報告とコメント および指示 ▼ まとめおよび指示			具体的研究課題の策定
	秋学期	個別報告とコメント および指示 ▼ 個別報告とコメント および指示 ▼ 個別報告とコメント および指示	個別報告とコメント	研究の実施	具体的成果 報告

Ⅱ 履修要項

課程の修了と学位の取得

		歴史学特別演習(個人指導)	歴史学指導演習(集団指導)	大目標	小目標
2年目	春学期	インフォメーション および指示 ▼ 個別報告とコメント および指示 ▼ 個別報告とコメント および指示 ▼ まとめおよび指示	インフォメーション ▼ 個別報告とコメント		研究史の整理と 問題点の提起
	秋学期	個別報告とコメント および指示 ▼ 個別報告とコメント および指示 ▼ 個別報告とコメント および指示	個別報告とコメント		具体的研究課題の策定
					具体的成果報告
3年目	春学期	個別報告とコメント および指示 ▼ 進捗の報告とコメント および指示 ▼ まとめおよび指示	個別報告とコメント ▼ 個別報告とコメント	博士論文の執筆	具体的成果 報告
	秋学期	個別報告とコメント および指示	個別報告とコメント		中間報告
					中間報告
			博士論文の提出 □頭試問		

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

文学研究科博士後期課程 歴史学専攻 履修科目表

系 列	授 業 科 目			
	授 業 科 目 名 称	単 位	必修・選択区分	
専攻科目	歴史学研究指導演習Ⅰ	1	必	
	歴史学研究指導演習Ⅱ	1	必	
	歴史学研究指導演習Ⅲ	1	必	
	歴史学研究指導演習Ⅳ	1	必	
	歴史学研究指導演習Ⅴ	1	必	
	歴史学研究指導演習Ⅵ	1	必	

・「歴史学研究指導演習Ⅰ～Ⅵ」6科目6単位を修得すること。

博士学位請求論文の提出要件

専 攻	論 文 提 出 要 件	
	専 攻	論 文 提 出 要 件
文学研究科	歴史学	①学位請求論文提出(11月末提出の場合は10月末、5月末提出の場合は4月末)までに、2本以上の審査付論文を刊行済みであること。
		②提出予定年度に、専攻の「中間報告会」(公開)において報告し、専攻会議で提出について承認を得ること。
		③博士学位請求論文は、400字250枚程度とする。

※提出時の注意はp.120も参照のこと。

教育学研究科生涯教育専攻 研究指導要領

博士後期課程

○指導教員による指導

修士課程から進学する場合は、同一の教員が指導を担当することが多いが、進学時に専攻主任が窓口となり、指導教員を決定する。学生は、演習や特殊研究の科目を履修し、専門的な研究を進めるのにふさわしい知識や方法論を習得し、個々の研究に関する指導を受ける。

○専攻全体としての指導

春学期と秋学期に通信課程と合同で行われる中間発表会では、博士論文の構想あるいは中間結果の発表とそれらに対する各分野の教員からの質問・助言をとおして、個々の研究を深めるための示唆を得ることができる。

以下は、研究を進めていく上での基本的な流れを示したものである。実際には、学生個人の状況に配慮し、指導教員との意思疎通に基づいて、柔軟に計画される。下記の流れは3月修了の場合を示し、9月修了の場合は1セメスターずれる。

学位請求論文を提出するためには、査読論文2点以上を有し、提出予定時期の1セメスター前の中間発表会で構想あるいは中間結果を発表しなければならない。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

		演習・特殊研究	研究発表 ^{*1}	大目標	小目標
1年目	春学期	ガイダンス		研究計画の策定	先行研究の整理 課題・学位論文構想の明確化
	秋学期	研究に必要な知識・技能の習得	春期中間発表会参加	研究の遂行	論文執筆と投稿 公刊された論文の報告または研究経過報告書の提出
2年目	春学期	研究に必要な知識・技能の習得	秋期中間発表会参加	研究の遂行	執筆論文または研究経過報告書の提出
	秋学期			学位請求論文の執筆	
3年目	春学期			7月末までに論文を指導教員に提出	予備審査への準備
			予備審査会で発表 ^{*2}	9月中旬までに予備審査を受審	
	秋学期			11月上旬までに修正版を指導教員に再提出 ^{*3}	予備審査結果に基づき論文を修正
				大学の学位審査プロセスに従い大学に学位請求論文を提出 ^{*4}	
			公開審査で発表		

*1：学会発表や査読付き論文は随時行ふ

*2：予備審査の日程は指導教員と調整(論文の製本化は不要)

*3：修正次第で合格の可能性があると判断された場合に修正論文を提出(修正論文が審査で不合格と判断された場合、学位申請はできない)

*4：修正した論文が予備審査に合格した場合

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

学生生活

規程

各種出書

教育学研究科博士後期課程 生涯教育専攻 履修科目表

系 列		授 業 科 目		
		授 業 科 目 名 称	単 位	必修・選択区分
専攻科目	特殊研究	生涯教育人間学特殊研究	2	必
		生涯教育方法学特殊研究	2	必
		生涯教育制度学特殊研究	2	必
	演習	生涯教育人間学演習	2	
		生涯教育方法学演習 1	2	
		生涯教育方法学演習 2	2	
		生涯教育制度学演習	2	

・特殊研究は3領域にわたり3科目6単位以上、演習は1領域について4単位以上、合計10単位以上を登録履修すること。

博士学位請求論文の提出要件

専 攻	論 文 提 出 要 件	
	専 攻	論 文 提 出 要 件
教育学研究科	生涯教育	①学会や外国の学術研究団体等の査読論文2点以上、又は査読論文1点及びこれに準ずる論文2点以上を有していること。 備考：査読論文に準ずる論文とは、学術刊行物又は佛教大学教育学部学会紀要、佛教大学大学院紀要(教育学研究科篇)、佛教大学臨床心理学研究紀要、他大学の紀要、その他引用可能な形式で公開されている論文誌に発表された論文。 ②提出予定時期のほぼ半年前(一つ前のセメスター)に、専攻の「中間発表会」(公開)において論文の草稿又は概要を報告すること。

※提出時の注意はp.120も参照のこと。

Ⅱ 履修要項 課程の修了と学位の取得

教育学研究科臨床心理学専攻 研究指導要領

博士後期課程

○指導教員による指導

修士課程から進学する場合は、同一の教員が指導を担当することが多いが、進学時に専攻主任が窓口となり、指導教員を決定する。学生は、臨床心理学研究指導演習の科目を履修し、専門的な研究を進めるのにふさわしい知識や方法論を習得し、個々の研究に関する指導を受ける。

○専攻全体としての指導

春学期に行われる中間発表会では、博士論文の構想あるいは中間結果の発表とそれらに対する各分野の教員からの質問・助言をととして、個々の研究を深めるための示唆を得ることができる。

以下は、研究を進めていく上での基本的な流れを示したものである。実際には、学生個人の状況に配慮し、指導教員との意思疎通に基づいて、柔軟に計画される。下記の流れは3月修了の場合を示し、9月修了の場合は1セメスターずれる。

学位請求論文を提出するためには、査読論文2点以上を有し、提出予定時期の1セメスター前の中間発表会で構想あるいは中間結果を発表しなければならない。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

		研究指導演習	研究発表 ^{*1}	大目標	小目標
1年目	春学期	ガイダンス		研究計画の策定	先行研究の整理 課題・学位論文構想の明確化
	秋学期	研究に必要な知識・技能の習得	春期中間発表会参加	研究の遂行	論文執筆と投稿 公刊された論文の報告または研究経過報告書の提出
2年目	春学期	研究に必要な知識・技能の習得	春期中間発表会で報告	研究の遂行	執筆論文または研究経過報告書の提出
	秋学期			学位請求論文の執筆	
3年目	春学期			7月末までに論文を指導教員に提出	予備審査への準備
			予備審査会で発表 ^{*2}	9月中旬までに予備審査を受審	
				11月上旬までに修正版を指導教員に再提出 ^{*3}	予備審査結果に基づき論文を修正
				大学の学位審査プロセスに従い大学に学位請求論文を提出 ^{*4}	
			公開審査で発表		

*1：学会発表や査読付き論文は随時行ふ

*2：予備審査の日程は指導教員と調整(論文の製本化は不要)

*3：修正次第で合格の可能性があると判断された場合に修正論文を提出(修正論文が審査で不合格と判断された場合、学位申請はできない)

*4：修正した論文が予備審査に合格した場合

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了と学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

学生生活

規程

各種出書

教育学研究科博士後期課程 臨床心理学専攻 履修科目表

系 列	授 業 科 目		
	授 業 科 目 名 称	単 位	必修・選択区分
専攻科目	臨床心理学研究指導演習Ⅰ	1	必
	臨床心理学研究指導演習Ⅱ	1	必
	臨床心理学研究指導演習Ⅲ	1	必
	臨床心理学研究指導演習Ⅳ	1	必
	臨床心理学研究指導演習Ⅴ	1	必
	臨床心理学研究指導演習Ⅵ	1	必

・「臨床心理学研究指導演習Ⅰ～Ⅵ」6科目6単位を修得すること。

博士学位請求論文の提出要件

専 攻	論 文 提 出 要 件	
	臨床心理学	
教育学研究科	①学会や外国の学術研究団体等の査読論文2点以上、又は査読論文1点かつこれに準ずる論文2点以上を有していること。 備考：査読論文に準ずる論文とは、学術刊行物又は佛教大学教育学部学会紀要、佛教大学教育学部論集、佛教大学臨床心理学研究紀要、他大学の紀要、その他引用可能な形式で公開されている論文誌に発表された論文。 ②提出予定年度に、専攻の「中間発表会」(公開)において論文の草稿又は概要を報告すること。	

※提出時の注意はp.120も参照のこと。

社会学研究科社会学専攻 研究指導要領

博士後期課程

○指導教員

3年にわたり、学生が博士論文を計画的に執筆できるよう、指導を行う。また、学生が修士課程時と比べ、研究者としての資質をより一層高めることができるよう指導する。学内外での学会発表や論文投稿を行うことで研究者としてのキャリアを積み重ねるとともに、そうした研究成果を博士論文につなげていく。

○集団指導体制

指導教員による指導が中心になるが、他分野の教員からの指導も受けることで、自らの専門以外の視点や成果を自らの研究に生かせるようにする。また、博士論文の執筆に向けての指導も研究科全体で行う。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

		社会学研究指導演習 (ソーシャルマネジメント研究指導演習)	社会学研究指導演習	大目標	小目標
1 年 目	春学期	指導教員の決定 研究計画の策定 ▼ 進捗状況の報告に対する コメントと指導 (以下、随時、指導を行う) ▼ 秋学期の調査・研究の 方針に関する指導	個別報告とコメント	研究計画の策定	学会発表と投稿論文の執筆
	秋学期	進捗状況の報告に対する コメントと指導 (以下、随時、指導を行う) ▼ 修士論文中間発表会への出席 ▼ 佛教大学社会学会大会への 出席もしくは発表 ▼ 翌年度の調査・研究の 方針に関する指導	修士論文中間発表会での指導 ▼ 佛教大学社会学会大会での 指導	研究の実施	学会発表と投稿論文の執筆

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

Ⅱ 履修要項

課程の修了と学位の取得

		社会学研究指導演習 (ソーシャルマネジメント研究指導演習)	社会学研究指導演習	大目標	小目標
2年目	春学期	進捗状況の報告に対する コメントと指導 (以下、随時、指導を行う) 秋学期の調査・研究の 方針に関する指導	個別報告とコメント	研究の実施	学会発表と投稿論文の執筆
	秋学期	進捗状況の報告に対する コメントと指導 (以下、随時、指導を行う) 修士論文中間発表会への出席 進捗状況の報告に対する コメントと指導 (以降、随時、指導を受ける) 佛教大学社会学会大会への 出席もしくは発表 翌年度の調査・研究の 方針に関する指導	修士論文中間発表会での指導 佛教大学社会学会大会での指導	研究の実施	学会発表と投稿論文の執筆
3年目	春学期	博士論文の方針に関する コメントと指導 (以下、随時、指導を行う)	個別報告とコメント	研究の実施	博士論文の執筆
	秋学期	博士論文の進捗状況に対する コメントと指導 (以降、随時、指導を受ける) 博士論文の提出 口頭試問	個別報告とコメント	研究の実施	博士論文の執筆

社会学研究科博士後期課程 社会学専攻 履修科目表

系 列	授 業 科 目		
	授 業 科 目 名 称	単 位	必修・選択区分
専攻科目	社会学研究指導演習Ⅰ	1	必
	社会学研究指導演習Ⅱ	1	必
	社会学研究指導演習Ⅲ	1	必
	社会学研究指導演習Ⅳ	1	必
	社会学研究指導演習Ⅴ	1	必
	社会学研究指導演習Ⅵ	1	必

・「社会学研究指導演習Ⅰ～Ⅵ」6科目6単位を修得すること。

博士学位請求論文の提出要件

専 攻	論 文 提 出 要 件
社会学	①査読付きの学外の学術雑誌、学会誌もしくはこれに相当するものに掲載（予定含む）された論文1本以上、あるいはその他の雑誌（大学院紀要含む）や専門書などに掲載（予定含む）された論文2本以上を有していること。 ②全国年次大会レベル（ブロック含む）や佛教大学社会学会での口頭発表を2回以上行っていること。

※提出時の注意はp.120も参照のこと。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履 修
一般事項

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社 会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社 会
福祉学
研究科

単 位
互換制度

免 許 状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規 程

各 種
届 出 書

社会福祉学研究科社会福祉学専攻 研究指導要領

博士後期課程

○指導教員

3年間における博士論文執筆過程に関与し、研究者としての資質を高めるために指導を行う。また、学会報告に耐えうる能力を培うために、ディベートやプレゼンテーションの能力を養うよう指導する。

○集団指導体制

社会福祉学研究指導演習は、大学院社会福祉学専攻教員全員が科目担当となり、院生は多様な分野の専門家から様々な指導を受けることで、より多角的な視点から研究をすすめることができる。

また、研究の進捗を報告しディスカッションを行い、教員からスーパーバイズを受ける中間報告会を開催する。知的交流をととして、研究に対する問題意識を醸成させるとともに新たな視点を獲得する。

〈大学院指導スケジュール(最短修業年限を例)〉

3年間におけるリサーチワークの実施

1 年 目	春学期	社会福祉学演習指導演習Ⅰにおいて個別報告を行い教員から個別指導及び集団指導を受けることで、各自の研究計画を策定する。 大学院研究会および中間報告会への参加を通じ、自らの報告を行い、他の院生による研究成果報告を聞きディスカッションを行うことで問題意識を更に醸成させ、具体的な研究課題を策定する。 専門領域の学会に参加し、他の研究者との知的交流を通して多角的な視点を獲得し、博士論文の枠組みを設定する。
	秋学期	社会福祉学研究指導演習Ⅱにおいて個別報告を行い教員から個別指導及び集団指導を受けることで、大学院論集または学会誌に論文を投稿し、年度末までに具体的な研究成果を報告する。
2 年 目	春学期	社会福祉学演習指導演習Ⅲにおいて個別報告を行い教員から個別指導及び集団指導を受けることで、各自の研究を推進する。 大学院研究会および中間報告会への参加を通じ、自らの報告を行い、他の院生による研究成果報告を聞きディスカッションを行うことで問題意識を更に醸成させ、更に研究を推進する。 専門領域の学会に参加し、報告を行い、他の研究者との知的交流を通して多角的な視点を獲得し、研究を推進する。
	秋学期	社会福祉学研究指導演習Ⅳにおいて個別報告を行い教員から個別指導及び集団指導を受けることで、大学院論集または学会誌に論文を投稿し、年度末までに具体的な研究成果を報告する。
3 年 目	春学期	社会福祉学演習指導演習Ⅴにおいて個別報告を行い教員から個別指導及び集団指導を受けることで、各自の研究を推進する。 大学院研究会および中間報告会への参加を通じ、自らの報告を行い、他の院生による研究成果報告を聞きディスカッションを行うことで問題意識を更に醸成させ、学位請求論文の「予備審査」に向けた準備をする。 専門領域の学会に参加し、報告を行い、他の研究者との知的交流を通して多角的な視点を獲得し、更に各自の研究を推進する。
	秋学期	社会福祉学研究指導演習Ⅵにおいて個別報告を行い教員から個別指導及び集団指導を受けることで、大学院論集または学会誌に論文を投稿した上で、博士学位請求論文を執筆する。 ※なお、「学位請求論文予備審査」を受けるための草稿は、9月30日（9月修了予定者は、3月31日）までに提出すること。

社会福祉学研究科博士後期課程 社会福祉学専攻 履修科目表

系 列	授 業 科 目		
	授 業 科 目 名 称	単 位	必修・選択区分
専攻科目	社会福祉学研究指導演習Ⅰ	1	必
	社会福祉学研究指導演習Ⅱ	1	必
	社会福祉学研究指導演習Ⅲ	1	必
	社会福祉学研究指導演習Ⅳ	1	必
	社会福祉学研究指導演習Ⅴ	1	必
	社会福祉学研究指導演習Ⅵ	1	必

・「社会福祉学研究指導演習Ⅰ～Ⅵ」6科目6単位を修得すること。

博士学位請求論文の提出要件

専 攻	論 文 提 出 要 件
社会福祉学	原則として、次の要件を充たすこと。 ①専門学会等で学位論文に関連する研究報告をしていること。 ②原則として、査読付き専門誌等に2編以上の論文(うち1編は学外誌)が掲載されていること。 ③研究科主催の「中間報告会」で毎年発表していること。 ④研究科主催の「学位論文予備審査会」において提出予定の学位論文草稿または概要を報告し、予備審査に合格していること。 ⑤A4(40字×30行)×100枚程度以上(ワープロ横書きを原則とする)。

※提出時の注意はp.120も参照のこと。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履 修
一般事項

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社 会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社 会
福祉学
研究科

単 位
互換制度

免 許 状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規 程

各 種
届 出 書

Ⅱ 履修要項

課程の修了と学位の取得

③提出時の注意

博士学位請求論文提出にあたっては、指導教員の承諾を得たうえで諸手続きを行ってください。

・提出期限

	3月修了予定	9月修了予定
博士学位請求論文提出期限	11月30日	5月31日

※提出期限の締切時刻は、窓口開室時間に準拠します。

※提出期限が休日の場合は、期限をその前日とします。

・提出書類

○学位申請書(所定用紙)

学位申請書は、指導教員の提出承諾を受け、学生支援課にて交付を受けてください。

なお、提出にあたっては、指導教員と専攻主任の捺印が必要となります。

○博士学位請求論文5冊

必ず製本してください。(保存に耐えるもの。特に変色、破損、外れる等の可能性がある印刷・製本は避けてください。)

表紙および背表紙に題目、氏名を記載してください。

体裁等については、指導教員の指導に基づく様式としてください。

社会福祉学研究科は、閲覧用として別に1冊を大学院担当主任に提出してください。

○博士学位請求論文データ

電子ファイルは原則としてPDF形式で公開します。PDF(ver.1.7以上が望ましい／透明テキストを含む)でCD-Rにて提出してください。

本文電子ファイルは、表紙・目次や図表なども結合した1ファイルの形で提出してください。

紙媒体(冊子体等)の大きさに関わらず、A4用紙での印刷が最適な状態に設定してください。

<PDFの設定について>

長期的な可読性、保存、アクセシビリティ確保の観点から、以下の点を確認してください。

- ・機種あるいはベンダー依存の形式でないこと
- ・外部情報源(外部フォント等)を参照していないこと
- ・暗号化、パスワードの設定、印刷制限等を行わないこと

○博士学位請求論文要旨(3,600字～6,000字程度の日本語および専攻が認めた外国語文)各3部 各専攻の指導に基づく様式としてください。

○研究業績一覧1部(論文提出資格を充足していると確認ができるもの)

○参考論文(ある場合のみ)5冊

○博士学位請求論文の提出要件(p.98、100、103、107、110、112、114、117、119)に「中間報告会」等の発表(報告)が必要な場合は、レジメ等を確認資料として提出してください。

・博士学位請求論文表紙の体裁

(博士学位請求論文表紙サンプル)

●縦書き

博士 学位請求論文	論文 題目	指導 教員
○○○○教授		
佛敎大学大学院 ○○研究科○○専攻		
氏 名		

●横書き

博士 学位請求論文
指導教員 ○○○○教授
論文 題目
佛敎大学大学院 ○○研究科○○専攻
氏 名

●背表紙

論文 題目
氏 名

・論文の表紙は上記の(論文表紙サンプル)に準じ、作成してください。

・提出先

学生支援課

口頭試問

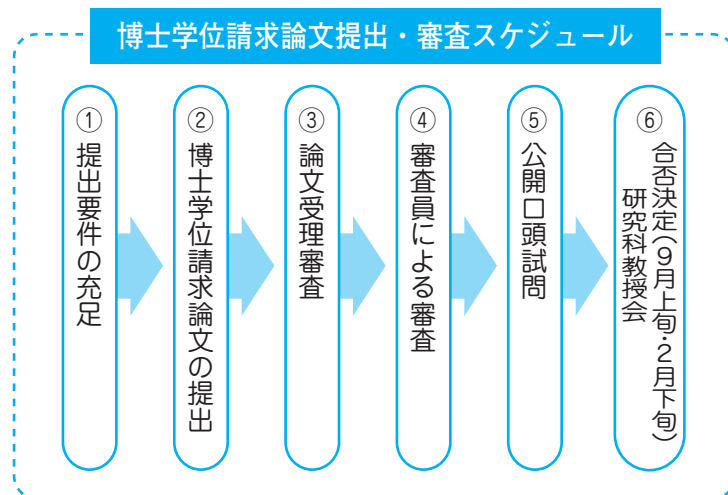
- ・公開形式で行います。
- ・提出された論文について、口頭試問を3月修了予定者は1月下旬～2月中旬に、9月修了予定者は8月下旬～9月上旬に実施します。
- ・学位論文の審査は原則として大学院授業担当教員の中より3名以上の審査員を選定して行います。

博士後期課程の修了

- ・最終試験を行います。この試験は論文を中心とし、これに関連する科目について行われる筆記試験および口頭試問とします。
- ・博士後期課程修了の認定は、研究科教授会が行います。
- ・3年以上在学し、研究科教授会で修了要件単位の充足が認められ、満期退学を希望する場合は「大学院博士後期課程単位修得満期退学届」を提出しなければなりません。対象者には所定届出用紙を送付しますので、指定の期限までに提出してください。

Ⅱ 履修要項 課程の修了と学位の取得

博士学位請求論文提出・審査スケジュール



学位の授与

研究科教授会の承認を経て、博士(文学)、博士(教育学)、博士(社会学)、博士(社会福祉学)の学位が授与されます。

学位論文のインターネット公開について

博士の学位を授与された者は、博士の学位授与日から1年以内に、当該博士の学位授与に係る論文の全文をインターネットの利用により公表する必要があります。

また、インターネットの利用により公表する全文は、博士の学位が授与された論文内容と同一となるため、博士の学位請求論文提出時に提出された博士学位請求論文データを使用します。加筆・修正は一切認められませんのでご注意ください。

なお、インターネットの利用による公表にあたっては、学位請求論文提出までに自身で、権利関係(出版社の著作権ポリシーを含む)を確認し、著作権者から使用許諾をとる必要がありますので注意してください。

本学では、BAKER(佛教大学図書館論文目録リポジトリ)において公開いたします。

学位論文の保管

学位が授与された場合、学位論文は佛教大学図書館にて1部保管します。

研究倫理教育eラーニングの受講について

本書p.93「研究倫理教育eラーニングの受講について」をお読みいただき、受講してください。

5. 京都・宗教系大学院連合 (K-GURS) 単位互換制度 について

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

Ⅱ 履修要項

京都・宗教系大学院連合（K-GURS）単位互換制度について

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー学位授与
基準履修
一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の
修了学位
の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位
互換制度免状
資格取得通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

2005年7月31日、京都を中心とした宗教系大学の大学院においてそれぞれの宗教や宗派の特色ある教育プログラムを展開する中で、研究上の相互交流を図ることを目的として、「京都・宗教系大学院連合（Kyoto Graduate Union of Religious Studies 略称 K-GURS）」が設立されました。

2006年度より加盟大学間での単位互換制度を発足し、各自の研究活動における専門領域を広めるため、また専門分野以外の拡充や補完、または専門分野との比較研究を深めることが可能となり、本学も加盟校として文学研究科が参加しています。

文学研究科在学生で、加盟大学大学院および大学の開講科目の履修を希望する場合は、以下に従って期間内に履修登録手続きをおこなってください。

参加大学院および大学

大谷大学大学院人文学研究科、高野山大学大学院文学研究科、種智院大学人文学部、同志社大学大学院神学研究科、花園大学大学院文学研究科、佛教大学大学院文学研究科、龍谷大学大学院文学研究科、龍谷大学大学院国際学研究科、龍谷大学大学院実践真宗学研究科、皇學館大学大学院文学研究科

以上の大学院および大学で構成。

開講科目

春学期オリエンテーション時に、「K-GURS GUIDE 単位互換制度のご案内(単位互換科目一覧)」を配付しますので参照してください。

また以下のURLからも参照できます。

<http://www.kgurs.jp/>

シラバス、履修要項および授業時間割表

シラバス、履修要項および授業時間割表の閲覧方法は大学により異なります。詳細は学生支援課にて確認してください。

履修登録にあたっての注意事項

①履修上限単位数

- ・年間4単位を履修上限とします。また、この単位は年間の履修登録上限単位には含めないものとします。

- 修了要件充足年度以後に単位互換制度の履修登録を行った場合は、「大学院学費等納付規程」第7条の「当該年度の科目履修がなく」に相当しないものとして、年間の学費納入が必要となります。

②単位認定

- **文学研究科修士課程在学学生のみ**、科目履修による単位認定を行います。
(文学研究科博士後期課程在学学生の履修は可としますが、単位の認定はできません。)
- 履修単位は関連科目としての認定を行います。
- 単位の認定時期は、履修年度末となります。
- 修了年次に修得した単位は修了要件には含まれません。ただし、単位認定のみ行います。

③種智院大学の科目について

- 履修登録はできますが、学部科目のため単位の認定はできません。
なお、K-GURS科目の履修上限(年間4単位)の対象には含めません。

履修登録手続き

学生支援課で「京都・宗教系大学院連合単位互換制度出願票」を受け取り、必要事項を記入のうえ、春学期オリエンテーション期間中の履修登録期限までに学生支援課へ提出してください。

受講について

授業時期については各大学大学院および大学の履修要項および授業時間割を確認のうえ、受講してください。(ただし、受講生数が多数となった場合は各大学において選考が行われる場合があります。受講が否となった場合は、学生支援課より連絡をします。)

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

6. 免許状および 資格の取得について

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

Ⅱ 履修要項

免許状および資格の取得について

教育職員免許状課程（専修免許状）

専修免許状とは、修士の学位を有し、かつ一種免許状を所持している、または一種免許状を取得するのに必要な単位を修得していることを前提として授与される、より上級の免許状です。本大学院にて取得可能な専修免許状は、下表のとおりです。

種類	専攻	研究科	文学研究科			教育学研究科	社会学研究科	社会福祉学研究科
			仏教学	文学	歴史学	生涯教育	社会学	社会福祉学
中学校教諭専修	社会	○			○	○	○	○
	宗教	○						
	国語			○				
	中国語			○				
	英語			○				
	数学					○		
高等学校教諭専修	地理歴史				○	○		
	公民	○				○	○	○
	宗教	○						
	国語			○				
	中国語			○				
	英語			○				
小学校教諭専修	数学					○		
						○		
幼稚園教諭専修						○		

※大学院での取得可能な一種免許状は、上記一覧表に記載の校種および教科です。各専攻の基礎となる学部・学科の『STUDY GUIDE【免許・資格】』を参照してください。

■専修免許状の取得方法

専修免許状取得に必要な単位は24単位で、大学院においての修得が必要です。

専修免許状対象科目は、各専攻の履修科目表で確認してください。

なお、取得予定の専修免許状は履修登録時に希望資格登録(B-net)が必要です。最終セミナー時に登録された取得予定免許を確定情報とします。

(1) 取得希望の専修免許状にかかる一種免許状を所持している場合

上記一覧表に記載の校種および教科の一種免許状を基礎とし、各専攻の修了単位をもって、専修免許状を申請することができます。

(2) 取得希望の専修免許状にかかる一種免許状を所持していない場合

大学院在学中に一種免許状取得に必要な単位を本学の学部授業科目の聴講により修得し、かつ専修免許状取得に必要な単位を修得してください。

なお、一種免許状取得に必要な単位等については、学生支援課にて確認してください。ただし、修得単位数の増加、教育実習等の実施などから修士課程での学修(修士論文作成等)に支障をきたさないよう、履修計画をたててください。

■専修免許状の申請手続き

専修免許状の取得に必要な単位を修得もしくは修得見込みで、専修免許状の交付を希望する者は、以下のとおり申請手続きをしてください。

(1)一括申請を希望する場合(修士課程修了見込者に限ります)

- ・修了年次の履修登録時に取得希望の免許種別を登録してください。
- ・修了年次の秋学期に一括申請手続きについてB-netで通知します。
- ・手続きを完了し、要件を満たした者には京都府教育委員会より専修免許状が授与されます。交付された免許状は、「学位記、卒業・修了証書授与式」(3月修了)の当日に本学より各個人に配付します。

(2)一括申請手続きを希望しない場合

大学院修了後に各個人で住民票所在の都道府県教育委員会あてに申請してください。

※春学期修了(9月修了)者は一括申請できません。個人で申請をしてください。

※博士課程在籍者で、免許申請を希望する者は個人で申請をしてください。

資格課程

- (1)大学院で取得できる各種資格は、各専攻の基礎となる学部学科で取得可能な資格であり、修了時まで必要単位となる学部授業科目を履修し、修得すれば、その資格を取得することができます。(学部の『STUDY GUIDE 【免許・資格】』を参照してください。)
- (2)資格課程を受講する場合は、各専攻の基礎となる学部学科と同様の課程受講料が必要となります。
- (3)修士課程社会学専攻において「専門社会調査士」資格を取得希望する学生は、入学後すぐに資格課まで相談してください。
- (4)修士課程臨床心理学専攻において、公認心理師の国家試験受験資格を取得希望する学生は、下表のすべての単位を修得する必要があります(なお、大学院のみでの履修では公認心理師の国家試験受験資格を得ることができません)。

大学院における公認心理師になるために必要な科目(公認心理師法施行規則)

法定基準 科目		本学基準 授業科目		単位
1	保健医療分野に関する理論と支援の展開	精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)		2
2	福祉分野に関する理論と支援の展開	障害心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)		2
3	教育分野に関する理論と支援の展開	教育分野に関する理論と支援の展開		2
4	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)		2
5	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	人間関係学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)		2
6	心理的アセスメントに関する理論と実践	臨床心理査定演習1(心理的アセスメントに関する理論と実践)		2
7	心理支援に関する理論と実践	心理支援に関する理論と実践		2
8	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	家族臨床心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)		2
9	心の健康教育に関する理論と実践	心の健康教育に関する理論と実践		2
10	心理実践実習	心理実践実習1		1
		心理実践実習2		4
		臨床心理実習1(心理実践実習5)		1
		臨床心理実習2(心理実践実習6)		1
		臨床心理実習3(心理実践実習3)		4
		臨床心理実習4(心理実践実習4)		4

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

Ⅱ 履修要項

免許状および資格の取得について

通信教育課程との併修履修制度(免許併修)

「免許併修」とは、通学課程に在籍する大学院生(修士課程)が、通信教育課程の科目履修生となって教職科目を履修することにより、教育職員免許状を取得できる制度です。

※「免許併修」の開始学年は、修士課程入学時(第1学年次)のみです。

■対象となる研究科

全研究科修士課程

■取得できる教育職員免許状

小学校教諭一種免許状

■入学手続き

修士課程入学時に学生支援課に申し出てください。通信教育課程「免許併修」の入学説明を受けた後、所定の期間に入学手続きを行うことが必要です。

■単位認定

当該学期末に単位認定を行います。

■注意事項

- ①通学課程を退学した場合は、「免許併修」の学籍も退学になります。
- ②教育学研究科生涯教育専攻の場合は、教育学部教育学科の科目を聴講等により履修して、小学校教諭一種免許状取得に必要な単位を修得することもできます(「免許併修」で科目履修するよりも、学部の科目を履修するほうが望ましい)。
- ③「免許併修」による教育職員免許状科目を履修完了せずに修士課程を修了した場合は、大学院修了後に通信教育課程へ入学して不足科目を履修することが可能です。
- ④教育職員免許状の一括申請手続はできません。個人で申請してください。
- ⑤「免許併修」制度の詳細は教職支援課までお問い合わせください。

7. 通信教育課程 聴講履修制度

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

Ⅱ 履修要項

通信教育課程聴講履修制度

通信教育課程聴講履修制度

通信教育課程聴講履修制度とは、通学課程の大学院修士課程に在籍する学生が、在籍する専攻と同一の本学大学院通信教育課程の専攻で開講する授業科目を履修することをいいます。

■聴講履修が可能な専攻

文学研究科：仏教学専攻・文学専攻(英米文学系)・歴史学専攻

社会学研究科：社会学専攻

※文学研究科文学専攻(日本文学系・中国文学系)、教育学研究科生涯教育専攻・臨床心理学専攻および社会福祉学研究科社会福祉学専攻の各修士課程は、通信教育課程聴講履修はできません。

■聴講履修できる科目

各研究科・専攻が指定した以下のスクーリング(面接授業)開講科目に限り聴講履修することができます。

文学研究科：S履修科目

社会学研究科：ST履修科目

各研究科・専攻のスクーリング開講科目の担当者、開講日程、シラバス等は当該年度の春学期オリエンテーション期間に別途配付します。学生支援課で受け取ってください。

通信教育課程聴講履修の上限単位数は、修業年限2年間で6単位(1年間の上限単位数は4単位)です。

なお、修得した単位は、各専攻の関連科目として修了要件に算入することができます。

■聴講履修の手続き

聴講履修を希望する学生は、学生支援課で「通信教育課程聴講履修制度出願票」を受け取り、必要事項を記入のうえ、当該年度春学期の履修登録期間に学生支援課まで提出してください。

■単位認定

年度末に関連科目として同一科目名称で認定します。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー学位授与
基準履修
一般事項文学
研究科教育学
研究科社会学
研究科社会
福祉学
研究科課程の
修了学位
の取得文学
研究科教育学
研究科社会学
研究科社会
福祉学
研究科単位
互換制度免状
資格取得通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

III

学生生活

- 学籍・学費
- キャンパスライフ
- 進路・就職支援
- 大学の取り組み

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

学籍・学費

学籍情報変更の手続き	P.137
学籍異動	P.138
学費	P.141
奨学金・支援制度	P.142

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

学籍情報変更の手続き

担当: 学生支援課

本学に登録している住所や連絡先等、学籍情報（学生本人・保証人・学費負担者）に変更が生じた場合はすみやかにB-netより学籍情報変更申請を行ってください。変更手続を怠ると、大学からの重要書類や「学費納付等通知書」が届かないなどのトラブルが生じます。

なお、未手続により生じる不利益は、学生自身の責任となりますので注意してください。

変更手続が必要な情報

- 学生本人 → 「氏名」「住所」「電話番号」「本籍地（都道府県）」
保証人 → 「氏名」「住所」「電話番号」（保証人変更含む）
学費負担者 → 「氏名」「住所」「電話番号」（学費納付通知書の送付先）
※「電話番号」には「携帯電話番号」を含む

手続方法

- 学生本人情報 → B-net> 情報照会 > 個人情報照会 > 学籍情報変更申請の「学生情報変更届」（本籍地の変更は「本籍地情報変更届」）
保証人・学費負担者情報 → B-net> 情報照会 > 個人情報照会 > 学籍情報変更申請の「保証人情報変更届（保証人1）」、「学費負担者情報変更届（保証人2）」
※「学生情報変更届」、「保証人情報変更届（保証人1）」、「学費負担者情報変更届（保証人2）」、「本籍地情報変更届」は同時に申請できません。
それぞれの変更届下の「申請内容確認」を押し、申請内容の確認後「この内容で申請」ボタンを押してください。
※詳細は、B-net ホーム画面の「お気に入り」より『B-net（通学課程）【学生】利用ガイド』の「9. 学籍情報（住所・連絡先等）の変更申請」を参照してください。

申請時の留意事項

- 住所変更に伴い、マンション・アパートにお住まいの場合、建物名および部屋番号を正しく入力すること。
- 電話番号はハイフンを含めて入力すること。
- 固定電話の解約等により電話番号の削除を希望する場合、変更内容欄に「0」を入力し、変更理由欄に削除を希望する旨入力してください。

本人氏名を変更する場合

B-netの学籍情報変更申請では手続きできません。学生支援課へ来課してください（所定様式での申出と「戸籍抄本」の提出が必要です）。

保証人を変更する場合

B-netの学籍情報変更申請のみでは手続きは完了しません。学生支援課へ来課してください（所定様式での申出と「誓約証書」の再提出が必要です）。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

学籍異動 ※手続方法が変更となる可能性があります。詳細は、B-net または学生支援課窓口で確認するようにしてください。

担当: 学生支援課

休 学

やむをえない事情により学業継続が困難な場合、休学することができます。

休学期間	手続期間*	備考
年 間 (4月1日～3月31日)	1月6日～4月30日	左記手続期間内に下記注意点1について完了する必要があります。
春学期 (4月1日～9月19日)	1月6日～4月30日	
秋学期 (9月20日～3月31日)	7月1日～9月30日	

※手続期間最終日が学生支援課事務休止日の場合、前日の事務終了時間までとなります。

■注意点

1. 学生支援課職員との面談後、教員面談を行い、「**休学願**」(本学所定用紙)を期間内に学生支援課または二条キャンパス事務課まで提出してください。
(学籍異動をするにあたり、事前に B-net での面談予約が必要です)

2. 休学可能年数について

課程	休学可能年数※通算	備考
学部	4 年	編入学・再入学の場合は、別途確認が必要です。 学生支援課までご連絡ください。
修士	2 年	
博士	3 年	

3. 休学期間の学費は徴収しません。ただし、**在籍料**(半期につき 6,000 円)の納入が必要です。
4. 次の場合、別途必要書類を提出してください。
病気・ケガ等→医師の診断書(3か月以内)
留学等 →「海外渡航届(本学所定用紙)」
5. 休学期間終了後は、**自動的に復学**となります。引き続き休学する場合は「再休学」の手続きが必要です。なお、休学期間終了前に関連する通知をお届けいたします。

再 休 学

休学している学生が**休学期間を延長する場合**、再休学の手続きを行う必要があります。

休学期間	手続期間*	備考
年 間 (4月1日～3月31日)	2月1日～2月20日	休学期間終了前に保証人住所へ「学籍異動願」(本学所定様式)をお届けします。
春学期 (4月1日～9月19日)	2月1日～2月20日	
秋学期 (9月20日～3月31日)	8月1日～8月20日	

※手続期間最終日が学生支援課事務休止日の場合、前日の事務終了時間までとなります。

■注意点

1. 休学可能年数については、ご自身でご確認ください。残りの休学可能年数や在籍年数について、本人、保証人に関わらずお電話での回答はできませんので留意してください。
2. 休学期間の学費は徴収しません。ただし、**在籍料**(半期につき 6,000 円)の納入が必要です。
3. 次の場合、別途必要書類を再提出してください。
病気・ケガ等で休学期間を延長する場合→医師の診断書(3か月以内)
留学している場合 →「海外渡航届(本学所定用紙)」
4. 休学期間終了後は、**自動的に復学**となります。引き続き休学する場合は「再休学」の手続きが必要です。なお、休学期間終了前に関連する通知をお届けいたしますので期日を守って手続きをしてください。

復 学

休学期間終了後は、**自動的に復学となる**ため、復学の手続きは必要ありません。ただし、病気により休学していた場合は、必ず医師の診断書を提出してください。

その他の詳細については、休学期間終了前に送付する通知にて確認してください。

依 願 退 学

退学を願い出る場合は、学生支援課職員と面談後、教員面談を行い、「学生証」を添付のうえ、「**退学願**」(本学所定用紙)を学生支援課または二条キャンパス事務課に提出する必要があります。

■ 注 意 点

1. 依願退学の手続きを行うには、学費を納入していることが条件となります。
ただし、学費納入期間内の提出および休学からの退学は除きます。
2. 学期末での依願退学を希望する場合、以下のとおり別途手続期間を定めます。

退学日付	手続期間*	備考
春学期末(9月19日付)	7月1日～9月30日 (休学者8月1日～8月20日)	学籍異動をするにあたり、事前にB-netでの面談予約が必要です(休学中の方は「学籍異動願」(本学所定用紙)を提出してください)。
秋学期末(3月31日付)	1月6日～4月30日 (休学者2月1日～2月20日)	

※手続期間最終日が学生支援課事務休止日の場合、前日の事務終了時間までとなります。

満期退学(博士後期課程のみ)

博士後期課程の修了に必要な単位を修得して課程博士の学位申請をする前に退学する場合、手続きを行うことで満期退学となります(所定の修了単位を修得したうえで最長在学期間を迎える場合、満期退学の手続きを行わない限りは、通知退学となります)。

その他の退学

退学には依願退学・満期退学(博士後期課程のみ)以外に、通知退学・処分退学があります。通知退学・処分退学の場合、本学の全ての課程に再び入学することはできません。

- 通知退学→在学年数もしくは在籍年数を超える場合
- 処分退学→性行不良等により大学の秩序を乱し、学生の本分に反した場合

除 籍

期間内*に学費を完納または在籍料(休学者)を納入しなかった場合、除籍となります。

※学費の納入期限については、p.141を参照

○春学期末納者→前年度3月31日付

○秋学期末納者→当年度9月19日付

復 籍

学費未納により除籍になった学生で、学業継続を希望する場合は、復籍することができます。下記期間内に**学費の完納**と「**復籍願**」(本学所定用紙)の提出(学生支援課宛)をしてください。

学期	復籍手続期間*
春学期末納者	7月11日～7月31日
秋学期末納者	12月11日～12月25日

※手続期間については、復籍手続案内時の記載をご確認ください。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社 会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社 会
福祉学
研究科

単 位
互換制度

免 許 状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規 程

各 種
届 出 書

再入学

依願退学・満期退学・除籍した学生が再び就学を希望する場合、期間内の申請手続と面接選考合格によって、修学を再開し継続することができます。

受験資格	退学・除籍日より3年以内
申請手続	学生支援課に連絡し、学生支援課職員との面談後、「再入学願」（本学所定用紙）を学生支援課に提出する。
申請と選考の期間	再入学希望年度の前年度1月16日～2月28日 ※選考があります。2月初旬までに学生支援課へ問い合わせてください。
選考方法	教員面接

■注意点

1. 再入学は4月入学のみで、離籍前と同一学科・同一専攻に限ります。秋学期の再入学はできません。
2. 再入学時は再入学料が必要となります。詳細は、教員面接後にお知らせします。
3. 病気により依願退学した場合は、必ず医師の診断書を提出してください。
4. 教員免許・諸資格を取得希望の場合、法令改正等により修得科目数や修業年限等変更される場合があります。

転籍

転籍とは、通学課程の学生が通信教育課程に学籍を異動することです。

申請手続	学生支援課に連絡し、学生支援課職員との面談後、「転籍願」（本学所定用紙）を学生支援課に提出する。
申請と学内審議の期間	転籍希望年度の前年度2月1日～3月14日 ※学内での審議が必要です。 2月中旬 までに学生支援課へ申し出てください。

※手続期間最終日が学生支援課事務休止日の場合、前日の事務終了時間までとなります。

■注意点

1. 通信教育課程へは4月1日付で異動となります。秋学期の転籍はできません。
2. 転籍後に再度通学課程へ転籍することはできません。

教育理念
教育研究上の
目的と3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文
学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文
学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規
程

各
種
届
出
書

学費

学費・諸費

当該年度の学費・諸費については、本学 HP で確認してください。

URL : <https://www.bukkyo-u.ac.jp/campuslife/scholarship/enumeration/>

学費納入

財務課より、B-net に登録された「学費負担者」宛に学費納付通知書（振込依頼書）を普通郵便で送付します。

送付時期	送付内容	納入期間
4 月初旬	振込依頼書（年間分） 振込依頼書（春学期分）	4 月 1 日～ 4 月 30 日
9 月初旬※年間学費納入でなかった場合	振込依頼書（秋学期分）	9 月 1 日～ 9 月 30 日

■注意点

1. 振込依頼書が届かない場合は、財務課まで連絡してください。
2. 納入期間内に金融機関より振り込んでください（ATM 不可）。
3. 納入期間最終日が金融機関休業日にあたる場合は、翌営業日を最終日とします。
4. 4 月にお届けする振込依頼書は、年間分あるいは春学期分のいずれか一方を使って学費を納入してください。
「振込依頼書（春学期分）」を利用して学費を納入した場合、9 月初旬に「振込依頼書（秋学期分）」を送付します。
5. 振込依頼書の受領書をもって領収書とします。大切に保管してください。
6. 「学費負担者」の住所変更は、送付時期の前月初旬までの手続き分まで反映します。以降の住所変更時は、郵便物転送処理などの対応をお願いします。

学費納入の延期・分納

学費納入期間内に納入できない場合は、学費納入期間の延期や、分割納入を申請することができます。

申請期間	納入期間（延期・分納許可者）	備考
4 月 1 日～ 4 月 30 日	4 月 1 日～ 6 月 30 日	申請方法は B-net にて案内します。
9 月 1 日～ 9 月 30 日	9 月 1 日～ 11 月 30 日	

■注意点

1. 分割納入を希望した場合、申請に応じて振込依頼書を「学費負担者」へ送付します。
2. 分割納入を希望した場合でも、納入期間は上記のとおりです。

在学年限超過者の学費請求について

修士論文・課題研究・博士論文（以下「論文」という）以外の修了要件を満たし、在学を希望する場合は、学費（授業料および設備費）を半額免除し、年間の在学を可能とします。

- 対 象：大学院（修士課程・博士後期課程とも）の修業年限を超過し、論文以外の修了要件科目の履修を完了している者。
- 条 件：前年度中に論文を除くすべての修了要件科目を履修完了し、当該年度に論文以外の科目を履修登録しない場合。
※単位互換制度による科目、教員免許・諸資格科目、通信教育課程聴講科目を含む。
- 減免方法：手続き不要。該当者には 4 月に免除金額を控除後の振込依頼書（年間学費分）のみ送付します。
- 備 考：当該年度において半期休学する場合、学費納付の他に別途在籍料の納付が必要です。
論文以外の科目履修が確認された場合は、9 月以降改めて半期分の学費請求をお知らせいたします。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履 修
一般事項

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社 会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社 会
福祉学
研究科

単 位
互換制度

免 許
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規 程

各 種
届 出 書

奨学金・支援制度

POINT! 各制度の詳細は、本学 HP にて『Campus Life Plan ～佛大奨学金ナビ～』を参照してください。
募集時期になりましたら、B-net で案内しますので、必ず確認してください。



奨学金とは

大学生活を充実させ、発展させていくためには経済的負担を伴います。これらの**経済的負担**を**軽減**し、キャンパスライフをサポートするための制度です。

給付・貸付

給付型制度：返還の必要がない奨学金。

貸与型制度：返還の義務がある奨学金。

貸与型には「有利子（利子を付けて返す）」と「無利子（利子がつかない）」の区別があります。

日本学生支援機構奨学金

日本学生支援機構では「第一種奨学金（無利子）」「授業料後払い制度」「第二種奨学金（有利子）」の貸与型制度があります。

<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/index.html>



佛教大学の奨学金制度

○大学推薦制奨学金

人物ならびに学業成績優秀者に対して佛教大学が推薦する給付型制度です。

○公募制奨学金

佛教大学や佛教大学外郭団体である教育後援会・同窓会が支援する給付型制度です。

○その他の奨学金

民間育英団体や地方公共団体、企業などによって設立された奨学金制度です。

教育ローン

本学では金融機関と提携し、一般より**低い利率など有利な条件で融資**を受けることができる教育ローンを紹介しています。
詳細は金融機関へ直接お問い合わせください。

機関名	ローン名
三井住友銀行	佛教大学提携教育ローン
滋賀銀行	佛教大学提携教育ローン
三井住友カード株式会社	C-Web 学費ローン学費ローン
株式会社オリエントコーポレーション	Orico 学費サポートプラン
日本政策金融公庫	国の教育ローン

※上記以外に利用可能な教育ローンがある場合は、B-net やホームページでお知らせします。

キャンパスライフ

学生証／学籍番号	P.144
災害時ガイドブック／安否確認	P.146
健康管理	P.147
救急発生時の対処	P.148
医療機関を知りたい	P.148
大学生活の心得	P.149
困ったとき、悩んでいるときの相談	P.151
障害学生支援	P.152
ハラスメントの防止	P.153
人権啓発	P.154
盗難・忘れ物	P.154
各種証明書(学割証)・願書・届出一覧	P.155
通学	P.158
傷害保険	P.159
在学中のICTサービス	P.160
キャンパスマップ	P.163
学内の店舗等	P.168
図書館・図書室	P.169
ボランティア	P.171
海外渡航	P.172
留学生支援	P.173
備品の貸出／施設利用	P.174
更衣室・ロッカー利用	P.176
トレーニングルーム	P.177
アルバイト	P.178
部屋探し	P.179

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

単 位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規 程

各 種
届 出 書

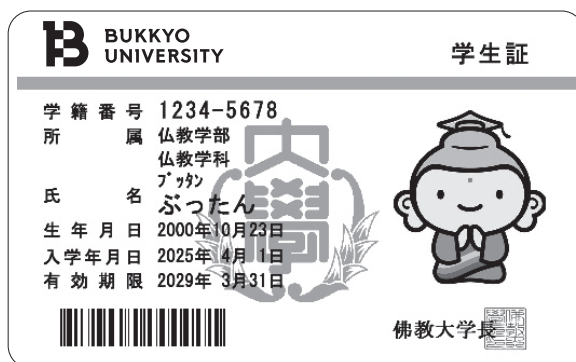
学生証

学生証は常に携帯してください！

学生証は佛教大学の学生であることを**証明**するものです。
学内外を問わず**常に携帯**してください。

●どんなとき必要？

- 本学教職員から提示の指示があったとき
- **授業**を受けるとき
- **定期試験**を受けるとき
- 学内の**プリンター**を利用するとき
- **各種証明書・学割証**の交付を受けるとき
- **通学定期乗車券**または学生割引乗車券の**購入**およびそれを利用して乗車・乗船し係員から提示を求められたとき
- **図書館・図書室**を利用するとき
- **二条キャンパス**を利用するとき（1階以外への入館等）
etc.



注意！

- ・常に携帯してください！
- ・ICチップが内蔵されていますので、取り扱いには十分注意してください。

学生証を失くしたり破損したときは・・・★

学生証の紛失等により再発行を希望する場合、**学生支援課または二条キャンパス事務課**で手続きをしてください。
また、紛失・盗難の場合は悪用による被害を避けるため最寄りの警察に届け出てください。

※落とし物として大学に届いている可能性があるため、事前に学生支援課または二条キャンパス事務課窓口で確認してください。

学生証の顔写真を変更したいときは・・・★

就職活動などで学生証の顔写真による本人確認において支障がある場合は、学生証の再発行時に顔写真の変更が可能です。学生支援課または二条キャンパス事務課にて手続きをしてください。

定期試験時に学生証を忘れてしまったときは・・・

定期試験時に学生証を忘れた場合は、試験開始前に**学生支援課または二条キャンパス事務課**にて「**仮学生証**」の交付を受けてください。なお、「仮学生証」の発行には毎回手数料（300円）が必要となり、**発行日のみ有効**です。使用後は必ず**当日返却**してください。返却がない場合は、次回より「仮学生証」の発行はできません。

新入生は必ず！！

利用確認期間として、**4月末日**までに図書館入館や証明書自動発行機の利用で学生証のデータ不良がないか確認してください。データ不良のある場合は**学生支援課**にて**交換**します。なお、5月以降の申し出については、再発行手数料が必要となります。

★学生証の再発行には手数料（2,000円）が必要です。

学籍番号

学籍番号の見方

学籍番号は次のような意味をもっています。自分の番号を覚えると同時に、その意味を理解してください。特に **個人番号** は授業のクラス分け等によく使われますので覚えておいてください。

2025年度入学者

2	5	0	1	-	1	2	3	4
入学年度		所属コード			個人番号			

●所属コード一覧（参考）

コード	学部	学科	コード	課程	研究科
01	仏教	仏教	22	修士	文学
02	文	日本文	24	修士	教育学
03	文	中国	25	修士	社会学
04	文	英米	26	修士	社会福祉学
05	歴史	歴史	32	博士後期	文学
06	歴史	歴史文化	34	博士後期	教育学
07	教育	教育	35	博士後期	社会学
15	教育	幼児教育	36	博士後期	社会福祉学
08	教育	臨床心理	41	別科(仏教専修)	
09	社会	現代社会	51	科目履修生	
10	社会	公共政策	61	研究員・研究生	研究生
11	社会福祉	社会福祉	62	研究員・研究生	研究員
12	保健医療技術	理学療法			
13	保健医療技術	作業療法			
14	保健医療技術	看護			

在籍確認兼通学証明シール 学生証裏面に貼付してください

必要事項を記入のうえ、**学生証裏面**の所定欄に貼付してください（毎年度更新が必要です）。

通学定期券の購入が必要な場合は、**現住所から大学までの最短距離**（現住所の最寄駅、停留所）での通学区間を記入し、該当する交通機関の販売窓口へ学生証と合わせて提示してください。なお、現住所が変わった場合は、速やかに**B-netにて学籍情報の変更手続き**が必要です。未手続きのまま通学定期券を購入し不正が認められた場合は、厳しい処分が科せられます。

2025年度 在籍確認兼通学証明シール（学生証裏面貼付用）					
学籍番号	—		学部・別科・大学院	学年	
氏名			有効期限	2025年4月1日から 2026年3月31日まで有効	
現住所					
区間	～	間	～	間	～
通学定期券 発行控	発行年月日 年月	通用期間 年月	発行 年月	有効期間 年月	発行駅
学部	別科／修士	博士	卒業・修了予定年月日 年月		※該当に○すること
1年			2029年3月31日		○
2年		1年	2028年3月31日		
3年	1年	2年	2027年3月31日		
4年	2年	3年	2026年3月31日		
所在地	(紫野キャンパス) 京都市北区紫野北花ノ坊町96 (二条キャンパス) 京都市中京区西ノ京東堀尾町7 TEL 075(491)2141(代表)				



注意！ 必要事項を記入のうえ、学生証裏面に貼付すること。
※毎年度当初に学生支援課にて交付

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

災害時ガイドブック

防火・防災についての基礎的な知識と行動をまとめ、火災・地震・風水害、その他の災害発生時に学生ひとりひとりの命を守ると同時に、物的被害を軽減することを目的とした『災害時ガイドブック』をB-netに掲載しています。

本学では、災害発生時には「危機対策本部」が組織的に設置され、みなさんの安全な避難誘導に努めます。

みなさんも「自分の命は自分が守る」という意識の中で、いざという時に適切な行動（状況に応じては自身の安全確保が最優先）がとれるように普段から心がけてください。

● 掲出場所

B-net>その他>災害時ガイドブック

安否確認

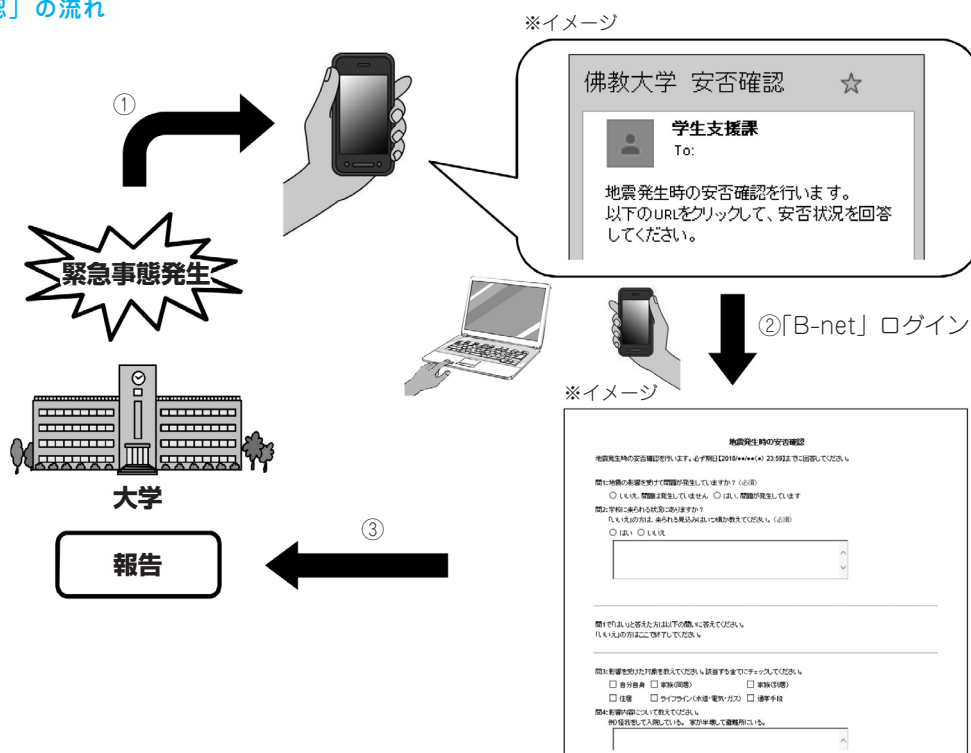
災害など予期せぬ事態が発生した場合、皆さんの安否や被災状況を把握することを目的に、「B-net」より「安否確認」のメールを配信します。

簡単な内容としておりますので、受信を確認しましたら、「B-net」（パソコン・スマートフォンどちらでも可）にログインしてください。

ログイン後、TOP画面には安否確認画面が表示されますので、期日までに安否確認アンケートに回答してください。

※「安否確認」のメールは「B-net」のお知らせ情報と同様、大学が付与しているメールアドレス（Gmail）へ自動的に配信されます（各自でGmailの転送設定を行ってください）。

● 「安否確認」の流れ



※「安否確認」運用テストを行います。メール受信後「B-net」にログインして、必ず回答してください。
運用テストの状況によっては、学生支援課から確認の連絡をする場合があります。

健康管理センター

気軽に利用して健康管理に役立ててください。

●開室時間：月曜～土曜 9:00 ～ 17:00

*日曜・祝祭、大学が定めた休日は閉室

●健康診断

春学期オリエンテーション期間中に、全学生を対象に健康診断を実施しますので受診してください。特に実習、就職、進学等で証明書が必要な場合は、決められた項目を必ず受診してください。

●抗体検査

本学では麻疹等の抗体検査を実施しています。特に、各種実習・インターンシップ等を行う学生は、「麻疹に対する免疫がある」ことが求められます。対象者の方は受検を心がけてください。実施日時はB-netでお知らせします。

●健康診断証明書

当該年度の健康診断を受けた方に限り、**証明書自動発行機**にて健康診断証明書を発行します。

以下の場合には証明書を発行できませんので注意してください。

■必要項目が未受検の場合

■再検査や学医診察を要する場合

■胸部レントゲン検査のみ受検の場合

●健康相談

健康管理センターでは**学医**による健康相談を行っています（予約を優先）。

■身体に関する相談 … 内科医

紫野キャンパス：火曜・水曜・金曜 14:00 ～ 16:00

二条キャンパス：月曜 14:00 ～ 16:00

■メンタルヘルス相談 … 精神科医

紫野キャンパス：第1・第3 木曜 予約制

●禁煙サポート

通学生の方を対象に『**禁煙サポート**』を行っています。禁煙を希望される方は、健康管理センターへ相談してください。

●「新型コロナウイルス感染症」「インフルエンザ」と診断されたら、医師の指示に従い療養に努めましょう

学校保健安全法では、出席停止期間の基準を以下のように定めています。症状が治まったとしても、周囲への感染力は残っています。自己判断をせず、医師の指示に従い療養に努めてください。

■新型コロナウイルス感染症：発症した日を0日と数えて『発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで』

■インフルエンザ：発症した日を0日と数えて『発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで』

※「新型コロナウイルス感染症」「インフルエンザ」と診断され、授業や試験に支障をきたす場合は、p.61を参照。

健康管理センターの場所

紫野キャンパス：

鷹陵館 1 階

二条キャンパス：

1 号館 2 階

一人暮らしの方へ

医療機関で診療を受ける時には、**健康保険証**が必要です。持っていない場合は、治療費の全額が自己負担となります。また、コピーは通用しません。

保護者の方と離れて大学生活を送る方は、『**マイナンバーカード**』『**個人の保険証**』または『**遠隔地被保険者証（※）**』を準備してください。

※交付申請の方法は、保護者の方が加入している保険機関に問い合わせてください。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社 会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社 会
福祉学
研究科

単 位
互換制度

免 許
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規 程

各 種
届 出 書

救急発生時の対処

救 急 発 生

学内でケガ人・急病人発生。動けない。
救急車を要請するほどではない。

月曜～金曜 9:00～17:00	時間外(夜間・休日)
健康管理センター ●紫野・二条 ☎075-491-2141(代)	紫野キャンパス ●警備室 ☎075-491-0236 二条キャンパス ●防災監視室 ☎075-491-0236

園部・岩倉・広沢グラウンドの場合、
グラウンド管理室もしくは顧問・指導者へ連絡。

- 状況説明
いつ・だれが・どこで・どのような状況なのか、
慌てず伝える。
- 応急処置・医療機関搬送

一刻を争う場合(意識がない、呼吸をしていない、
心臓が止まっている、出血がひどいなど) **救急車が必要!!**

- 救急車要請
・携帯電話等で「☎119」・内線からは「☎0119」
●必要時、心肺蘇生法を。 **AED 設置場所参照。**

- 消防に状況説明
・佛教大学〇〇キャンパス〇号館〇階です。
・どのような状況なのか、慌てず伝える。
- 誘導者を出しておく

月曜～金曜 9:00～17:00	時間外(夜間・休日)
健康管理センター ●紫野・二条 ☎075-491-2141(代)	紫野キャンパス ●警備室 ☎075-491-0236 二条キャンパス ●防災監視室 ☎075-491-0236

AED (自動体外式除細動器)

●設置場所

大学ホームページ>アクセス・キャンパス一覧>紫野キャンパス
(キャンパスマップ)にAED設置場所を掲載しています。

医療機関を知りたい

京都健康医療よろずネット (京都府ホームページ)

京都府内の病院・診療所・薬局・救急告示病院等が検索できます。

受診する時は必ずマイナンバーカードまたは健康保険証を持参してください。

<https://www.mfis.pref.kyoto.lg.jp/ap/qq/men/pwtpmenult01.aspx>



携帯電話サービス
(携帯にURLを送信します)

【休日診療所】

京都市急病診療所

場所：京都市中京区西ノ京東柵尾町
京都府医師会館1階(佛教大学二条キャンパス1号館北側)
TEL：075-354-6021

診療科目	診療日	受付時間
内 科 眼 科	土曜	18:00 ～22:00
	日曜・祝日 お盆(8/15,16) 年末年始 (12/29 ～1/3)	10:00 ～17:00
		18:00 ～22:00
耳鼻咽喉科	日曜・祝日 お盆(8/15,16) 年末年始 (12/29 ～1/3)	10:00 ～17:00

京都市休日急病歯科中央診療所

場所：京都市中京区西ノ京東柵尾町
京都府歯科医師会口腔保健センター1階
(JR二条駅東口ロータリー北側)
TEL：075-812-8493

診療科目	診療日	受付時間
歯 科	日曜・祝日 お盆(8/15,16) 年末年始 (12/29 ～1/4)	10:00 ～17:00

※診療日、受付時間の最新情報は各自で確認してください。

大学生活の心得

大学生としてのモラル・マナー

佛教大学の学生であることを誇りとし、**社会の一構成員**としての**自覚**をもって行動してください。また、安全で快適な学生生活のために必要なマナーやモラルを掲載した『GUIDE TO GOOD MANNERS』（学生支援課刊）を必ず読んでください。

●飲酒にかかわる禁止

法律違反！→20歳未満の飲酒、飲酒運転
アルコールハラスメント！→一気飲みの強要

●喫煙にかかわる禁止

法律違反！→20歳未満の喫煙、他者の敷地内への無断立ち入り
条例違反！→大学周辺での路上喫煙や歩きタバコ、吸い殻のポイ捨て
ルール違反！→キャンパス内の喫煙

●携帯電話、スマートフォン、電子機器にかかわる禁止

法律違反！→歩行中・車両運転中（自転車含む）の使用
マナー違反！→授業中の着信音・通話

●授業中のマナー違反

出席不良！→ピー逃げ
姿勢不良！→無許可での、板書の撮影・録音・着帽（帽子をかぶったまま）・飲食
やる気不良！→授業を邪魔する私語・遅刻・早退、担当教員の指示を無視する行為



注意！

※学生が本学の学則および諸規程に背き、学生の本分に反し、懲戒を要すると認められるときは、教授会の議を経て学長がこれを懲戒する。

（佛教大学学則第12章第79条・第80条、佛教大学大学院学則第12章第83条・第84条）

ソーシャルメディア

ソーシャルメディアの発達によって、個人であっても容易に情報発信が行える時代となりました。また、各サービスの利用者の増加とその利便性から、コミュニケーションにおいても魅力的な手段となっていますが、一方で発信した情報ももとで発信者がトラブルに巻き込まれたり、周囲の人々や社会へ多大な影響を及ぼす事例もみられます。

佛教大学の組織、教職員および学生に対してソーシャルメディアの適正な利用を促すことを目的に、ガイドラインを策定し、佛教大学ホームページに掲載しています。内容を確認して、適正にソーシャルメディアを利用してください。

佛教大学ソーシャルメディアの利用に関するガイドライン
<https://www.bukkyo-u.ac.jp/social.html>

●守るべき事項

- 法令を遵守しなければならない
- 本学の学生として自覚と責任を持った内容とする
- 発信する情報は、事実に基づく正確な内容とする
- 発信する情報の責任は、発信者が負う
- 意図せずして誤った情報を発信した場合は、速やかに訂正する

- 他者の著作権、肖像権、商標権等の権利を侵害する情報を発信してはならない
- 他者の名誉を棄損する情報を発信してはならない
- 大学における諸活動で知り得た秘密や個人情報を発信してはならない
- その他公序良俗に反する情報を発信してはならない

ブラックバイト

ブラックバイトとは、学業や学生生活に深刻な影響を与える悪質なアルバイトです。「困ったな」と思う場合は、各種相談窓口にご相談ください。

闇バイト

SNSなどでみられる「高報酬」「楽して稼げる」などにつられて応募した大学生による強盗事件とその摘発が相次いでいます。

#即日即金、#渡すだけ、といった募集や、免許証を持った自撮りの送付、知らないアプリでのやりとりを促されたら要注意です。それは「バイト」ではなく犯罪の可能性があります。少しでも不安に感じたら警察相談窓口「#9110」へ電話をしてください。

参考：政府広報オンライン



■京都府労働相談所

月曜～金曜 9:00～13:00/14:00～21:00
土 曜 9:00～13:00/14:00～17:00
※日曜・祝日、年末年始を除く
TEL 0120-786-604

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文
学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文
学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規
程

各
種
出
書

悪質商法

悪質商法は、**巧妙な手口**で学生を狙っています。**旨い儲け話**は、まず疑ってみてください！

●キャッチセールス

街頭で呼び止め、別の場所に連れていき、高額な商品の購入を迫る

●ネットオークション詐欺

代金を前払いしたのに**商品の引き渡し**がされず連絡が取れないなど、ネットオークションを利用した詐欺。また、個人情報悪用し、**他人になりすまして詐欺**をはたらく場合もある

●アポイントメント商法

電話や**ハガキ**で「当選しました」などと呼び出し、商品を売りつける

●マルチ・マルチまがい商法

商品を購入し販売会社等の会員になり、**他人を紹介**することで購入代金が無料になる、または紹介料がもらえるなどと勧誘する

振り込め詐欺

「振り込め詐欺」は**融資保証金詐欺**、**架空請求詐欺**など、振込を要求されるものをいいます。身に覚えのない、利用したことがないものについては、すぐに振り込んだり相手の指示する連絡先に問い合わせたりせずに、まず**事実確認**をしてください。冷静に記憶をたどり、心あたりのないものは無視してください。ただし、裁判所等からの通知については、すぐに**各種相談窓口**に相談してください。

また、SNS上には「受け子」「出し子」等の犯罪の勧誘が「**高額バイト**」として紹介されている例がありますので、注意してください。

被害に遭わないために

- 要らないものは、「**要らない**」とはっきり断りましょう
- 契約を即決せずに、**説明内容**と**契約内容**をよく理解しましょう
- 署名・押印**は慎重に行いましょう

トラブルにまきこまれたときには…

ひとりで悩まずに**相談**してください。京都市消費生活総合センターでは、消費生活相談以外にも法律相談や交通事故相談なども行っています。

●クーリングオフ制度

訪問販売等で購入契約をかわした場合に一定の期間内であれば消費者が事業者との間で申込みまたは契約を理由なくかつ無条件で撤回・解除できる制度です。ただし、全ての契約について適用されるわけではありません。

■京都市消費生活総合センター(消費生活相談)

月曜～金曜
9:00～17:00
TEL 075-366-1319

薬物乱用の防止

薬物の乱用は個人の精神や身体に悪影響を与えるだけでなく、**暴力や殺人、放火**などの事件への引き金となり、**社会問題へと発展**します。軽い気持ちで「一度だけ」がいつの間にか中毒となり、一度しかない人生が取り返しのつかないものになります。そのような**誘惑に負けない理性と勇気**を持ち、佛教大学生として**良識ある行動**を期待します。

【精神的影響】

- ①強い**不安**や**パニック発作**
- ②**幻覚、妄想、フラッシュバック**
- ③**そう状態・統合失調症**の発症

【社会的影響】

- ①情緒障害、幻覚や被害妄想が強くなり、**家族や友人へ暴力**を振るう
- ②幻覚や妄想による殺人、放火、監禁、傷害などの**凶悪な事件**を引き起こす
- ③薬欲欲しさの**窃盗、恐喝**事件や**強盗**事件を引き起こす

困ったとき、悩んでいるときの相談

担当：学生支援課・学生相談センター

オフィスアワー

佛教大学では、全専任教員が原則として週1回（休暇中をのぞく）オフィスアワーを設けています。

オフィスアワーとは、教員が研究室などに待機し、学生皆さんの相談に応じる時間帯のことです。特に不在であることや、時間の変更が研究室の扉に掲示されない限り、予告なく訪問していただいてもかまいません。

オフィスアワーは本来訪問の目的は限定しませんが、教員の時間的制約、対応の限界などにより、今年度の相談を「学習方法や授業に関する質問・相談を中心とした内容」に限定します。したがって、学生生活における就職活動・課外活動・履修登録等に関する個別質問は、専門の先生や担当事務局に相談してください。

この時間帯を積極的に活用し、学業の向上に役立ててください。

なお、実施日時等の詳細については、B-net＞授業情報＞時間割＞教員時間割表より確認できます。

学生生活全般についてのなんでも相談

落し物をした、休学・退学を考えている、奨学金について教えてほしい、部活・サークルのことを知りたい、履修登録・B-netについて分からないところがあるなど、学生生活についてなんでも相談できる窓口です。職員が相談に応じますので、窓口で気軽に声をかけてください。

●利用案内

■場所 学生支援課内（1号館2階）

■開室時間 月曜～金曜 9:00～13:00／14:00～17:00

土曜 9:00～13:00 ＊日曜・祝祭、大学が定めた休日は閉室



ひとりで悩まずに、 気軽に相談してください

学生相談センターは、佛教大学生の身近な相談相手です。学業や進路の不安、日常生活で困ったこと、対人関係など、どんな小さなことでも、ひとりで悩まずに、気軽に相談してください。カウンセラー（臨床心理士等）が相談に応じます。

●利用案内

■場所 学生相談センター（1号館1階）

■開室時間

月曜～土曜 9:30～17:00 ＊日曜・祝祭、大学が定めた休日は閉室

■申し込み

直接、相談室まで来室してください。電話や申し込みフォームでも受け付けています。できる限りその場で相談できるようにしています。

〈学生相談センター直通電話〉075-493-9095（開室時間のみ対応）

〈学生相談センター申し込みフォーム〉<https://forms.gle/ECKbc6dwZQk5Sx1D7>

●いろいろな活動をしています

■心理テスト・性格テスト

■図書の貸出 絵本、小説、コミック、心理学関連図書書籍etc.

■ランチタイム 月曜～金曜の昼休みにゆっくり過ごせるお部屋を用意しています。

■グループワーク 1人でも、友人とでも参加できます。例）「アロマセラピー入門」

●二条キャンパス分室

二条キャンパスにも学生相談センターの分室があります。気軽に相談してください。

■場所 二条キャンパス1号館2階

■開室時間 月曜・水曜 9:30～17:00 ＊祝日、大学が定めた休日は閉室

●学生相談センターサイト <https://sites.google.com/bukkyo-u.ac.jp/gakusou>

（学生相談センターが発信する様々なコンテンツを見ることができます。）



教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

課程の
修了学位の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

障害学生支援

担当：学生支援センター

障害のある学生とともに

本学における障害のある学生への修学支援は、ダイバーシティ&インクルージョンの理念に基づき、障害のある学生の学ぶ権利を保障するために合理的配慮を含めた必要な措置を講じています。

ダイバーシティの主体は学生・教職員一人ひとりです。みなさんが協働し「開かれたキャンパス」を目指しましょう！

※合理的配慮…障害のある学生が公平に教育を受けられるために行なう必要かつ適当な調整・変更

※ダイバーシティ&インクルージョン…すべての人がそれぞれの個性を発揮して活躍できる社会の実現を目指す考え方

実施している主な支援

障害のある学生によりニーズが異なるため、支援内容は学生と相談のうえ決定し、支援を実施しています。

●授業に関する支援

- 教室・座席位置の配慮
- 支援機器の貸与（デジタル補聴援助システム等）
- パソコンノートテイク等的人的サポートの配置
- 一時保管ロッカーの貸与
- 車両入構許可
- 伝達方法の変更等コミュニケーションの配慮
- 特性や障害に関する情報提供

●定期試験に関する支援

- 別室受験
- 座席位置の配慮
- 時間延長
- PC等の機器での受験

※学生のニーズに合わせて、上記以外の支援も行っています。

障害のある学生の修学に関する相談窓口

●利用案内

障害があるなどの理由により、修学上の様々な困難や悩みを抱えている学生の相談窓口として、担当者が相談に応じています。特に修学支援については授業や試験を中心に学生からの申請に基づき、十分に希望を聞いたうえで、関係部署、教職員と連携しながら、支援内容を決定していきます。また、保護者や教職員からの相談も可能です。

■申し込み

直接、学生支援センターまでお越しください。できる限りその場で相談できるようにしていますが、予約優先のため、別の日に来ていただくこともあります。予約は電話やメールでも受け付けています。

学生支援センター TEL：075-493-9057（直通） E-mail：sss@bukkyo-u.ac.jp

学生サポーター募集！！

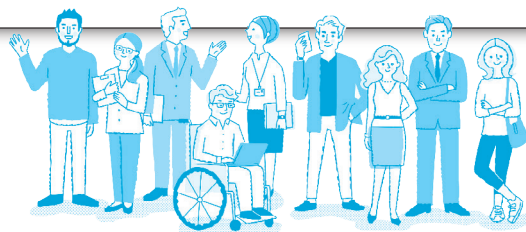
支援が必要な学生に対して、一緒にサポート活動を行なう学生サポーター（有償）を随時募集しています。興味のある方はぜひ問い合わせください。

【活動内容の紹介】

パソコンノートテイク：聴覚障害等のある学生が授業を受講する際、学生サポーターがPCを使用して音声情報を文字化します。

※そのほかにも支援が必要な学生のニーズに沿ったサポート活動があります。

※活動内容によって、養成講座等を行っています。



ハラスメントの防止

担当:人権教育センター

ハラスメント防止のために

佛教大学は、すべての構成員が個人として尊重され、安心して就学・就労できるような環境をつくり、維持していくことを何よりも重要と考えています。ハラスメント等の行為は、人としての尊厳や人格を深く傷つけるものであり、本学の建学の精神にも反し、絶対にあってはならないものです。佛教大学は、人権を侵害する行為であるハラスメントを決して容認しません。

ハラスメントとは

ハラスメント(Harassment)には、「苦しめる・悩ませる・迷惑」という意味があります。

『セクシュアル・ハラスメント』『アカデミック・ハラスメント』『パワー・ハラスメント』『マタニティ・ハラスメント』の4つがよく知られています。何気ない言葉・行為・視線・動作などは、人によって受け取り方が異なります。その人にとって不快であったり傷つくこともあります。

●セクシュアル・ハラスメント

性的な言動によって、心身を不快や不安な状況に追い込み、苦痛を与えることをいいます。

●アカデミック・ハラスメント

教員等の上位・優位にある人が、その立場や権限を利用し、または逸脱して、下位にある人や指導を受ける人の学習・研究意欲および学習・研究環境を著しく阻害する不適切な言動をいいます。

●パワー・ハラスメント

地位・立場や人間関係等の優位性を背景に、業務や指導等の適正な範囲を超えて、身体的・精神的苦痛を与える行為、または環境を悪化させる行為をいいます。

●マタニティ・ハラスメント

妊娠・出産・育児をきっかけに職場等で精神的・肉体的な嫌がらせを受けたり、妊娠・出産・育児等を理由とした解雇や雇止め、自主退職の強要等不利益を被ったりする等の不当な扱いをいいます。

ハラスメント等の相談

●相談窓口

【佛教大学 人権教育センター】

場 所:紫野キャンパス7号館5階

開 室 日:月曜日～金曜日(土・日・祝日、大学が定めた休日は閉室)

※大学が通常授業日とした祝日は開室しています。

開室時間:9:30～17:00

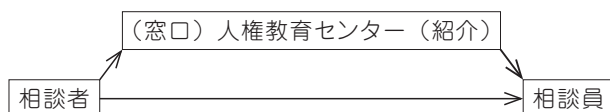
U R L: <https://www.bukkyo-u.ac.jp/campuslife/support/sodan/humanrights/>

〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96

TEL:(075)493-9109(事務室直通)

●相談の流れ

ハラスメント学内相談員・学外専門相談員が、相談に応じます。相談員の氏名・メールアドレス等は、B-netにてお知らせします。



教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社 会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社 会
福祉学
研究科

単 位
互換制度

免 許 状
資格取得

通信課程
聴講履修

学 生 生 活

規 程

各 種
届 出 書

人権啓発

担当:人権教育センター

●人権教育センター「資料室」

人権教育センターでは「資料室」を設け、人権関係資料の閲覧・貸出を行っています。

場 所:紫野キャンパス7号館5階

開 室 日:月曜日～金曜日(土・日・祝日、大学が定めた休日は閉室)

※大学が通常授業日とした祝日は開室しています。

開室時間:9:30～17:00

収蔵資料:図書約4,800冊 DVD・ビデオ約300本 雑誌約30タイトル

貸出期間:図書類 30日(5冊まで) DVD・ビデオ 14日(3本まで)

※図書館ポータルサイト(BIRD)において、蔵書資料(図書・DVD・雑誌)を検索できますので参照してください。

<https://bird.bukkyo-u.ac.jp>

●人権啓発活動

■人権に関するセミナー・研修会の開催 ■人権啓発冊子『ひとのみち』の刊行

■ハラスメント防止リーフレット「なくそうハラスメント」の発行 ■人権侵害等に関する相談

盗難・忘れ物

担当:学生支援課

盗難に注意!

学内での盗難被害で多く報告されるのは以下のケースです。貴重品・手荷物の**管理は各自の責任**のもと行ってください。

●鷹陵館更衣室内の**ロッカー**に荷物を入れて、**施錠しないまま**その場を離れて盗まれる

●図書館、食堂、喫茶、屋外ベンチ、駐輪場で、荷物を置いたまま**その場を離れて**置き引きに遭う

※万が一、学内で盗難に遭った場合は、直ちに以下のことをしてください。

①キャッシュカード・クレジットカードが盗まれたら、発行元の金融機関・カード会社に連絡する

②警察に「被害届」を提出する【紫野キャンパス最寄り→大徳寺交番、二条キャンパス最寄り→二条駅前交番】

③学生支援課または二条キャンパス事務課に「盗難届」を提出する

忘れ物に注意!

大学内での拾得物は、学生支援課(紫野キャンパス)・二条キャンパス事務課(二条キャンパス)に届けられます。心あたりのある方は学生証持参のうえ、各担当窓口へ申し出てください。**保管期間(3ヶ月)**を過ぎたものは処分します。

また、財布、キャッシュカード、定期券、学生証など氏名のわかるものは大学届出の電話番号に電話連絡をします。

なお、忘れ物が未拾得の場合、希望される方は「**遺失届**」を提出してください。後日、届け出の内容と合致するものが届けられた場合、電話やB-netにて連絡をします。

授業をはじめ、学内を移動する時、その場を離れる際は、忘れ物がないか、確認するように心がけましょう。

各種証明書(学割証)・願書・届出一覧

証明書が必要な場合は、キャンパス内設置の【証明書自動発行機】または【証明書Web申込サイト】より申込みが可能です。ただし、事務局窓口での申込みのみの取り扱いとなる証明書もありますので、下表を確認してください。

各種証明書一覧

証明書種類 / 証明書手数料 (円) ●印：卒業(修了)年次の4月以降に発行可能		発行日数				取扱窓口
		大学学内申込		Web 申込 利用料：300 円		
		証明書 発行機	事務局 窓 口	コンビニ 発行	郵送 受取	
在学証明書	300	即時				学生支援課
在籍証明書(休学者用)	300		2業務日	即時 印刷代： 60円 / 1枚	2業務日	
●修了見込証明書	300					
成績証明書	300	即時				
健康診断証明書	300				健康管理センター	
英文在学証明書	500					
英文成績証明書	500				2業務日	学生支援課
●教員免許状取得見込証明書(1免許ごと)	300		2業務日 ※通信併修 は3業務日	2業務日 ※通信併修 は3業務日		
●各種資格取得見込証明書(1資格ごと)	300		1週間～ 10日程度			
調査書(進学用)・推薦書	500		2業務日			
課外活動証明書	300		即日			
学生証再発行	2,000		2業務日			教職支援課
教育実習受講証明書	300		1週間後			
介護等体験受講証明書	300		2週間後			進路就職課
学長推薦状	300					
指導教授推薦状	300					学生支援課
人物証明書	300	即時			2業務日	
学割証(学校学生生徒旅客運賃割引証)(※1)	無料		約2か月後			
実習用通学証明書(※2)	無料					

(※1) 年間発行上限枚数は10枚です。

(※2) 実習用通学証明書について、詳細は p.159 を必ず確認してください。

POINT!

証明書発行機稼働時間

(紫野キャンパス1号館2階・
二条キャンパス1号館1階)
【月～金】9:00～18:00
【土】 9:00～13:00
※事務取扱休止等の場合は
利用できません。



申込方法

【証明書自動発行機からの申込み】

紫野キャンパス1号館2階、二条キャンパス1階に「証明書自動発行機」を設置しています。発行には学生証が必要です。利用方法は発行機横に掲出しています。

利用対象者：学部・大学院在籍者（科目履修生、研究員・研究生、別科生は利用不可）

※証明書自動発行機にて発行した証明書の厳封を希望する場合は、事務取扱時間内に学生支援課または二条キャンパス事務課へ持参してください。

【証明書Web申込サイトからの申込み】

必要な証明書をオンラインで申請、クレジット決済またはコンビニエンスストアで現金決済し、コンビニの各店舗に設置されているマルチコピー機を利用して証明書を印刷することができます。利用方法の詳細はホームページから確認してください。コンビニにて印刷できない証明書はWebにて申込み、郵送受取りが可能です（別途送料が必要）。

利用対象者：学部・大学院在籍者（科目履修生、研究員・研究生、別科生は利用不可）

※コンビニにて印刷した証明書は厳封できません。

(注意) ・証明書手数料とは別に、システム利用料（1回300円）、コンビニ印刷の場合は印刷代（1枚60円）が必要です。

・現金決済が可能なコンビニは、ファミリーマート、ローソン、セブンイレブンです。

【大学学内での窓口申込み】

「証明書自動発行機」より発行できない証明書は、窓口での申込みが必要です。申込方法については、各取扱窓口に確認してください。

※窓口申込の証明書は、二条キャンパスでも申請・受取りができます。ただし、事務取扱時間内に限ります。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

修
士
課
程

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

博
士
後
期
課
程

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規 程

各種
届出書

各種願書・届出一覧

	種 類	提出期限	取扱窓口	備 考
授業関係	授業欠席届	早急に科目担当者へ提出	科目担当者	証明となるものを添付 (p.56、p.59参照)
	試験欠席届	指定された期日	学生支援課	
学籍関係	休学願 ☐	(春) 1月6日～4月30日 (秋) 7月1日～9月30日	学 生 支援課	学費納入にかかわるので早めに相談してください。
	学籍異動願(休学者用) ☐	(春) 2月1日～2月20日 (秋) 8月1日～8月20日		
	退学願 ☐	随時(学費納入学期内)		
	再入学願	1月16日～2月28日		
	復籍願	(春) 7月11日～7月31日 (秋) 12月11日～12月25日		
	転籍願	2月1日～3月14日		
	転学部・転学科願	1月6日～1月31日		
	他大学受験許可願 ★	当該大学受験日まで		証明となるものを添付
諸手続関係	盗難届 ★	随時	学 生 支援課	
	遺失届 ★			
	拾得届 ★			
	海外渡航届			
	進路希望登録	3年生	進 路 就職課	・会員登録(1・2年生) ・「B-net・お気に入り」→ 「求人検索NAVI」より登録
	進路報告登録	4年生		
福利厚生関係	学費納入延期・分納願	(春) 4月1日～4月30日 (秋) 9月1日～9月30日	学 生 支援課	※提出期限最終日が 日・祝日にあたる場合は、翌事務取扱日が 締切日となります。
	学資給付金願書	(春) 4月1日～4月30日 (秋) 9月1日～9月30日		
	佛教大学育英奨学生願書	6月1日～6月30日		
	佛教大学課外活動奨学生願書	6月1日～6月30日		
	佛教大学教育後援会育英奨学生願書	(春) 4月1日～4月30日 (秋) 9月1日～9月30日		
	佛教大学同窓会奨学生願書	9月1日～9月30日		
	佛教大学教職員互助会奨学生願書	(春) 4月1日～4月30日 (秋) 9月1日～9月30日		
	傷害事故報告書	事故後7日以内に提出		
	傷害治療費等申請書	完治後30日以内に領収書の 写しと共に提出		

※「★」の願書・届出は二条キャンパスでも書類の受渡しができます。

※「□」の願書は提出のみ二条キャンパスでも可能です。

学校学生生徒旅客運賃割引証 (学割証)

学割証は、**片道101km**を超える区間を乗車・乗船する場合、普通乗車券の運賃が**2割引**となります。紫野キャンパス1号館2階・二条キャンパス1号館1階に設置の**証明書自動発行機**（p.155参照）にて発行できます（無料）。

なお、営業距離が片道101kmを超える乗車券の**有効期間**は、次の表のとおりです。有効期間内に、乗車駅～降車駅間の往復乗車券を購入する場合、学割証は**1枚（往復分）**で足りませんが、**有効期間を過ぎて往復する場合**等で、**2枚以上**の学割証が必要となる場合があります。購入する駅の窓口であらかじめ枚数を確認し、乗車券の有効期間も調べたうえで必要最低限の枚数を発行してください。

営業km	200km まで	400km まで	600km まで	800km まで	1,000km まで	1,200km まで	1,400km まで	1,600km まで	1,800km まで
有効期間	2日間	3日間	4日間	5日間	6日間	7日間	8日間	9日間	10日間

※1,801km以上は、200kmごとに1日を加えます。

有効期間と、それに対応する地名は、次の表のとおりです。（**基点：京都駅**）

有効期間 2日間	岐阜・名古屋・姫路・豊岡・浜坂・福井・和歌山・御坊・小松
有効期間 3日間	静岡・岡山・広島・鳥取・高山・松本・長野・金沢・富山・高松・新居浜・今治・白浜
有効期間 4日間	熱海・東京・宮島口・下関・小倉・松江・浜田・松山・宇和島
有効期間 5日間	水戸・大分・博多・熊本・新潟
有効期間 6日間	仙台・長崎・宮崎・鹿児島
有効期間 7日間	盛岡・八戸・秋田
有効期間 8日間	函館・青森
有効期間 9日間	登別
有効期間10日間	札幌

※**往復乗車券の有効日数**は、**片道乗車券の2倍**となります。

※經由駅によって有効期間は異なります。

学割証の発行、使用にあたっては、以下の点に注意してください。

- POINT!**
- **記名本人**のみ使用可能。※不正使用が認められた場合は厳しい処分が科せられます
 - 一人あたりの**年間**発行枚数は**10枚**（10枚以上発行が必要な場合は、学生支援課へ相談してください）
 - **有効期限**は発行日から**3ヶ月**
 - **休学中**は発行**不可**

学生団体割引乗車券

学生団体割引乗車券は、本学学生**8名以上**が**本学教職員に引率**され、ゼミ合宿や課外活動などで旅行する場合、運賃（乗車券のみ）が5割引となります。申し込みは、駅窓口（みどりの窓口）または旅行代理店備え付けの「**団体旅行申込書**」を学生支援課窓口提出してください。申し込みから発行まで数日を要します。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社 会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社 会
福祉学
研究科

単 位
互換制度

免 許
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規 程

各 種
届 出 書

通学

担当: 学生支援課

自動車での通学は禁止!

学生の**自動車**での通学および構内乗り入れは**禁止**しています。また、**大学周辺の違法駐車**も固く禁じます。遵守しない場合は大学として**厳重な処分**を行います。

障害のある方、病気、ケガにより公共交通機関での通学が困難な方で、自動車通学 構内乗り入れを希望する場合は学生支援課まで相談してください。

自転車・バイクのマナー

通学にはできる限り**公共交通機関**を利用してください。やむをえず自動二輪車等で通学する場合は以下の点に留意してください。

- 自転車は必ず自転車保険もしくは自転車事故に対応した保険に加入してください。
- 自転車や自動二輪車等は必ず**学内駐輪場**に止めてください。**近隣住宅の駐輪場や道路への駐輪は、絶対行わないでください。**
- 二条キャンパス駐輪場は、**保健医療技術学部生のみ**利用可能です（**入場時に学生証が必要**）。
- 駐輪場入口付近は**警備員の誘導**にしたがってください。
- 駐輪場内の**盗難等**には各自十分**注意・管理**してください。なお、発生した盗難等に対し、本学は一切責任を負いません。
- 授業終了後の車両出入り口は大変混み合います。一般道の歩行者および車両を最優先するため、本学の出入り車両の規制を行います。時間をずらして退出するなど**時差退出**に協力してください。
- 駐輪場は、授業や課外活動等のため登校した場合に利用できる施設です。体調不良等でやむを得ず留め置きする場合を除き、複数日の連続駐輪は禁止とします。夜間に留め置きされた車両は整理のため移動しますのでご注意ください。なお、**一週間以上**の長期にわたる**放置車両**は、**撤去**（廃棄処分）します。実習等へ行く場合は、駐輪場に放置せず、自宅等で保管するようにしてください。
- 乗車マナー**を遵守してください。**走行スピード**や**歩行者等**には十分注意し、安全運転に努めてください。
- 運転中の通話・メールは法律・規則により禁止されています。
- 中道・8,10,11号館前道路（紫野キャンパス）**は通行しないでください。

POINT!

※本学の駐輪場を利用する場合は「安全運転講習および駐輪場利用説明会」の動画を視聴し、学生支援課にて配付される「駐輪場利用許可証」（シール）を二輪車に貼付する必要があります。貼付がない場合は、撤去の対象となります。
詳細は、B-netにて案内します。

公共交通機関（電車・バス）乗車のマナー

公共交通機関利用の際には以下の点に留意してください。

- 駅、バス停留所では通行の妨げにならないように並ぶ。
- 到着した電車・バスに乗車しない場合は、乗車する方のために乗車口をあける。
- 優先座席を必要とされているお年寄りの方、身体の不自由な方、妊娠している方、乳幼児をお連れの方、障害のある方などに**座席を譲る**。
- 入口付近に立ち止まらず奥から詰めて乗車し**、座席の譲り合いを心がける。
- 大声での会話**は慎む。
- リュックサック**は背負わず、**前で抱える**。

保健医療技術学部連絡バス【キャンパス間(紫野⇄二条)移動用】

保健医療技術学部の学生が授業出席のためキャンパス間（紫野⇄二条）を移動する際に、連絡バスを利用できます（乗車時に学生証の提示が必要）。

通学証明書

POINT! 学生証裏面に貼付したシールが通学証明となります。

通学証明書（見本はp.145参照）は**通学定期券の購入**に必要です。通学証明書は年度初めのオリエンテーション期間に学生支援課にて交付します。なお、**休学中**は通学定期券を**購入できません**。

通学定期券の購入にあたっては以下の点に留意してください。

●通学区間は、**自宅最寄駅**から**大学最寄駅**までの**最短区間**とし、遠回りや自宅、大学最寄駅を越える区間の定期券は購入できません。

※阪急電鉄利用者は、京都市内の降車駅として「西院」・「大宮」・「烏丸」の各駅のいずれかを指定してください。

ただし、「烏丸」を降車駅として選択できるのは、京都市営地下鉄利用者に限ります。

●購入の際は、**学生証**と**通学証明書**の両方を提示してください。

●研究員・研究生、科目履修生は通学証明書の発行ができません。

実習用通学証明書

各種実習やインターンシップ先までの定期券を購入する場合は、別途申請（B-net>Web申請>学生生活>「実習用通学証明書交付願」）し、許可されることにより通学証明書を発行します。希望する方は、実習あるいはインターンシップ開始の**2ヶ月前**を目途に申請してください。申請が遅くなった場合、開始までに通学証明書の発行が間に合わない可能性があります。

※申請する前に、自身で定期代を確認し、定期を購入する公共交通機関分のみ申請してください。

●実習用通学定期券が必要な場合のみ申請し、定期券は必ず使用すること。

●申請後に実習先や実習期間が変更となった場合は、速やかに学生支援課へ連絡すること。

●申請内容に対し、不備や確認事項等がある場合、学生支援課から電話あるいはB-netにて連絡します。

傷害保険

担当：学生支援課

授業中・課外活動中・通学途中等に事故に遭ってケガをしたとき

授業中、課外活動中または通学途中等に被った傷害（急激かつ偶然な外来の事故）に対し、その**治療費の援助**を行っています。事故発生後 **1週間以内にB-net>Web申請>学生生活>「傷害・事故報告届」**にて申請してください。制度の概要や手続きの詳細は学生支援課まで問い合わせてください。

●学生教育研究災害傷害保険

大学生活中の事故等に備えて、全学生を被保険者とする「**学生教育研究災害傷害保険（学研災）**」に加入しています。詳細は、入学時に配付している加入者のしおりを確認してください。以下の項目に該当する傷害を負った際は完治後に、学生支援課にて保険金請求の手続きを行ってください。

■正課中・学校行事中に被った傷害治療日数（実通院日数）が**1日以上**の傷害

■通学中・学校施設等相互間の移動中（キャンパス内移動を除く）に被った傷害治療日数（実通院日数）が**4日以上**の傷害

■本学が認めた学内外での課外活動中・学校施設内で被った傷害治療日数（実通院日数）が**14日以上**の傷害

■上記活動中に負った**入院**を伴う傷害

●Will（保健医療技術学部）

保健医療技術学部の方は、医療系実習時の感染事故にも対応した傷害保険「**Will**」に加入しています。

●傷害治療費・修理費給付制度

「**学研災**」が指定する**治療日数に満たない傷害**については、本学がその治療費の一部を援助します。

また、身体の一部とみなしえる眼鏡、コンタクトレンズ、補聴器、義歯等を**上記事由により破損**した場合も、本学がその**修理費の一部**を援助します。

実習中等、他人にケガを負わせたとき

正課中、学校行事中、本学が認めたインターンシップやボランティア活動中およびその往復（通学中等）に、他人にケガをさせたり、他人の物を壊すなど法律上の**損害賠償責任**を伴う事故が発生した場合に備えて、全学生を被保険者とする「**学研災付帯賠償責任保険（付帯賠償）**」に加入しています（保健医療技術学部の学生は「Will」にて対応）。詳細は、入学時に配付している加入者のしおりを確認してください。ただし、自動車、原付やバイクによるものは対象外です。なお、インターンシップやボランティア活動については、内容により、保険の対象外となる場合もありますので、詳しくは、事前に学生支援課まで問い合わせてください。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許 状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規 程

各 種
届 出 書

在学中のICTサービス

学内情報機器・ネットワーク関連の情報やシステムの利用方法については、情報システム課特設サイト「SYSTEM NAVIGATION (https://b-sysnavi.bukkyo-u.ac.jp)」に掲載しています。その他不明な点は情報システム課（紫野キャンパス1号館2階）または二条キャンパス事務課（二条キャンパス1号館1階）まで問い合わせてください。

※「SYSTEM NAVIGATION」はB-netログイン画面最下段、またはログイン後TOPページの「お気に入り」にリンクがあります。



アカウント(ユーザーID)とパスワード

入学時に全学生に配付しています。

学内の様々なサービスを利用する際に必要となりますので、取り扱いには十分注意し、各自責任を持って管理してください。また、パスワードは定期的に変更してください。

(パスワードの変更は、「B-net」ログイン画面最下段「◆パスワードについて」のリンクから行ってください。)

※パスワードを忘れた場合に備えて「B-net」ログイン画面最下段「◆パスワードについて」のリンクより「[パスワードリセット初期設定](#)」を行ってください。

「パスワードリセット初期設定」を行っておらず、パスワードを忘れてしまった場合は、学生証を持参のうえ、情報システム課にて再発行を受けてください。

対象サービス

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| ■ 通学課程B-net | ■ 学内パソコン・プリンター・複合機 |
| ■ メールシステム (Gmail) | ■ 証明書発行機 |
| ■ Wi-Fiサービス | ■ 図書館LIBon・リモートアクセスサービス |

<注意>

アカウント(ユーザーID)・パスワードは共通です。パスワードを変更した場合、全てのサービスのパスワードが変更されます。

※「eduroam」へのログインのアカウント(ユーザーID)は大学のメールアドレスを入力してください。

パスワード設定のルール

「SYSTEM NAVIGATION」→「在学生の方へ」→「学内サービスとアカウント」の中段「パスワードの変更について」を確認してください。

アカウント(ユーザーID)、大学メールの有効期限について

アカウント(ユーザーID)や大学メールアドレスの有効期限は**在籍期間内**です。それ以降は予告なく使用できなくなります。

POINT! 卒業・修了などを迎えられると、大学のアカウントのGmailや「Microsoft 365」、「ESET」(セキュリティソフト)など、各ICTサービスの利用もできなくなりますので、注意してください。

詳細は、「SYSTEM NAVIGATION」を確認してください。

B-net

パソコン・スマートフォンから、「大学からのお知らせ」「休講・補講情報」「教室・時間割変更情報」「成績照会、履修登録」などの情報を確認できる本学学生専用のポータルサイトです。利用方法については、「SYSTEM NAVIGATION (<https://b-sysnavi.bukkyo-u.ac.jp>)」→「在学生の方へ」より、マニュアルを確認してください。

●ログイン方法

2通りあります。

- ①下記アドレスを直接入力するか、「佛教大学」ホームページトップ最下部右側のポータルサイト「B-net」からログインします。

B-net Portal ログイン画面

<https://b-netrx.bukkyo-u.ac.jp/>



- ②「B-net」スマホアプリからワンタップでスマホサイトにログイン。
スマホアプリではそのほか、休講や補講、教室変更、時間割変更、休講取消の掲示情報のプッシュ通知や、アプリ起動後すぐに時間割が表示され、授業をタップすると、出欠情報や、掲示情報、シラバスが確認できます。アプリのダウンロードや設定方法は、「SYSTEM NAVIGATION」→「在学生の方へ」を確認してください。

B-net ログイン画面



「SYSTEM NAVIGATION」へは、最下段のリンクをクリックしてください。

利用上の注意点

- ブラウザのポップアップブロックを無効にしてください。
- ブラウザの「戻る」・「進む」ボタンは使用しないでください。
- 無操作のまま30分以上放置するとタイムアウトになります。
- 毎日システムを停止してメンテナンスを行っております。停止時間帯はログイン画面を確認してください。

●安否確認

緊急事態発生時には、「安否確認」のメールを大学から付与しているメールアドレス（Gmail）へ配信します。個人のメールアドレスで受信したい場合は、各自でGmailの転送設定を行ってください。
詳細は、p.146を確認してください。

推奨動作環境

「B-net」ログイン画面を確認してください。

メールシステム（Gmail）

在籍期間中、就職活動時や学生間のコミュニケーションツールとして活用いただくことを目的に、メールアドレス（Gmail）を付与しています。B-netのお知らせ（休講・補講、教室変更等）は、このメールアドレスに配信されます。また、「Classroom」などアカウント（ユーザーID・パスワード）を使ったGoogleアプリを利用する入口にもなります。利用方法については、「SYSTEM NAVIGATION」→「在学生の方へ」より、マニュアルを確認してください。

●ログイン方法

下記アドレスを直接入力するか、
「佛教大学」ホームページトップ最下部右側の
「学生・教職員Webmail」からログインします。

佛教大学メールログイン画面

<https://mail.google.com/a/bukkyo-u.ac.jp/>

Gmail ログイン画面



●転送設定

個人のメールアドレスで受信したい場合は、マニュアルを確認し、各自でGmailの転送設定を行ってください。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

Wi-Fiサービス

教育環境の整備を目的とし、教室をはじめ、ラウンジや図書館などキャンパス内のさまざまな場所にアクセスポイントを設置しています。Wi-Fiに接続することにより、ご自身のノートパソコンやタブレット等をインターネットに繋いで利用することが出来ます。

接続方法の詳細については、「SYSTEM NAVIGATION」→「在学生の方へ」を確認してください。

●Wi-Fiサービス (eduroam)

「eduroam」(エデュローム)とは、国内外の大学等教育研究機関の間でWi-Fiの相互利用ができるサービスで、本学も「eduroam」に加入しております。

他のeduroam加盟機関でも本学のキャンパスと同じID・パスワードでWi-Fiに接続できます。また、逆にeduroam参加機関に所属されている方が本学を訪問された際も本学のWi-Fiに接続できます。

※「eduroam」へのログインのユーザー名(ユーザーID)は大学のメールアドレスを入力してください。

※パスワードを変更すると「eduroam」の接続設定も再度必要となります。

Microsoft 365 App (Officeソフト)

本学在学中は個人のパソコンやタブレットなどに、Word. Excel. PowerPointなどのOfficeソフトを無料でインストールし、利用することができます。利用方法については、「SYSTEM NAVIGATION」→「在学生の方へ」より、マニュアルを確認してください。

●利用可能台数

1人あたり、パソコン(Windows・Mac)、タブレット、スマートフォンそれぞれ5台の合計15台

ESET (セキュリティソフト)

「ESET」は、本学の包括ライセンスに基づき、本学の通学課程の学生、および専任教職員が個人購入機器へ無料でインストールし、利用することができるウイルス対策ソフトウェアです。

利用方法については、「SYSTEM NAVIGATION」→「在学生の方へ」より、マニュアルを確認してください。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

キャンパスマップ

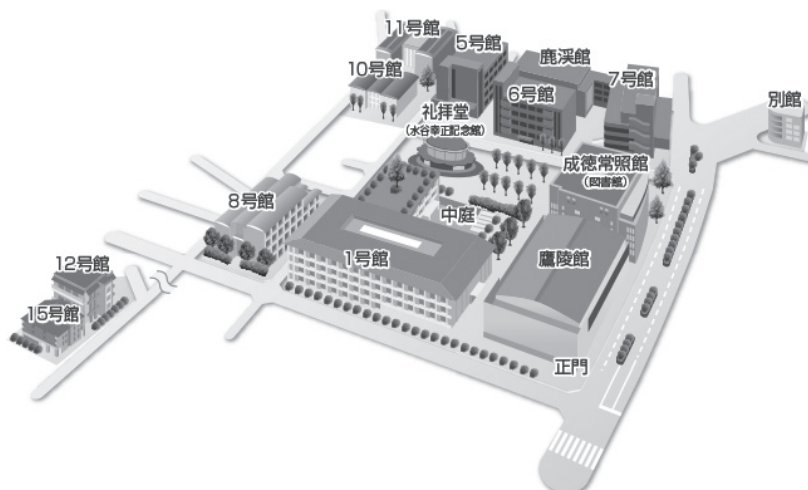


紫野キャンパス



注意!

変更となる場合は、B-netにてお知らせいたします。



●主な事務局など(2025年2月時点)

- | | | | |
|------------------|--|-------------------|--|
| 1号館(地下) | カフェテリア・カフェ＆ベーカリー・
コンビニエンスストア(セブンイレブン) | 8号館 | 研究室※2・資料室 |
| (1階) | 企画課・広報課・総務課・人事課・財務課・
生涯学習部(通信教育課程)事務局・学生相談センター | 10号館 | 研究室※2・資料室 |
| (2階) | 学生支援課・学生支援センター・進路就職課・
教職支援課・資格課・情報システム課・国際交流課・
社会連携課・学術支援課・教育推進課・学務課・
学部事務課 | 11号館 | 研究室※2・資料室 |
| (3階) | サンサーラ※1・国際交流プラザ | 12号館(1階) | 校友課 |
| (5階) | サンサーラ※1 | (2階) | 研究室※2・法然仏教学研究センター・総合研究所 |
| 5号館(地下) | カフェテリア | 15号館(1階北側) | 臨床心理学研究センター |
| (屋外) | ATM(ゆうちょ銀行) | (2階南側) | オープンラーニングセンター(O.L.C.) |
| 7号館(2.3階) | 学習情報プラザ | 礼拝堂 | 宗教課 |
| (2階) | 学生ボランティア室 | (水谷幸正記念館) | 図書館・常照ホール・図書課 |
| (3階) | サンサーラ※1 | 成徳常照館 | 健康管理センター・入学課・施設課・講師控室・
体育研究室・体育準備室・喫茶店・
ATM(三井住友銀行・京都銀行) |
| (5階) | 研究室※2・人権教育センター・ハラスメント相談室 | 鷹陵館(1階) | カフェ・書籍・売店(大垣書店) |

※1 サンサーラ…自主学習スペース ※2 研究室の詳細は学生支援課掲示板(1号館2階)にて確認してください。

教室番号の見方・教室一覧

教室番号は次のように決まっています。
授業教室掲示等を確認するときに注意してください。

※二条キャンパスは建物に「N」が付きます。

教室名称		
建物	階数	室番号
5	- 1	0 1
⋮	⋮	
5号館	1階	

教室名称		
建物	階数	室番号
N1	- 7	0 1
⋮	⋮	
二条キャンパス 1号館	7階	

●教室・体育施設一覧(紫野キャンパス)

	1号館	5号館	6号館	7号館	12号館	鷹陵館
5階	1-502 1-509 1-503 1-510 1-504 1-511 1-505 1-512 1-506 1-513 1-507 1-514 1-508 1-517	5-501 5-502 5-503 5-504 5-505 5-506 5-507	6-501 6-502 6-503			
4階	1-401 1-411 1-402 1-412 1-403 1-413 1-404 1-414 1-405 1-415 1-406 1-416 1-407 1-417 1-408 1-418 1-409 1-419 1-410 1-420	5-401 5-402 5-403	6-401 6-402 6-403	7-401 7-402 7-403 7-404 7-405 7-406 7-407	12-401 12-402 12-403 12-404 12-405 12-406 12-407 12-408	
3階	1-301 1-309 1-302 1-310 1-303 1-311 1-304 1-312 1-305 1-313 1-306 1-314 1-307 1-315 1-308 1-316	5-301 5-302 5-303 5-304	6-301 6-302 6-303 6-304		12-301 12-302 12-303 12-304 12-306 12-309	
2階		5-201 5-202 5-203 5-204 5-205	6-201 6-202 6-203 6-204			メインホール
1階		5-101	6-101 6-102 6-103	7-101 7-102	12-104 12-106	多目的ホール
地下1階	1-001 1-002 ピアノレッスン室		6-001		12-004 12-005	第1体育室 第2体育室 第3体育室

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

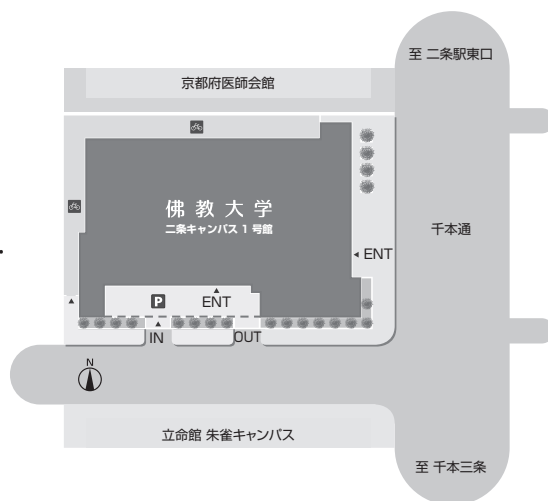
社会学
研究科

NIIO 二条キャンパス

●主な事務局など

- 1号館（1階）** 二条キャンパス事務局・講師控室・カフェテリア（あむりた）・書籍・売店（大垣書店）
- （2階）** サンサーラ*・ラウンジ・学生相談センター・健康管理センター・面談室・資料室
- （3階）** 研究室・ラウンジ
- （4階）** 研究室
- （5階）** 研究室・ラウンジ
- （6階）** 研究室・ラウンジ
- （7階）** 図書室

※サンサーラ…自主学習スペース



●教室一覧(二条キャンパス1号館)

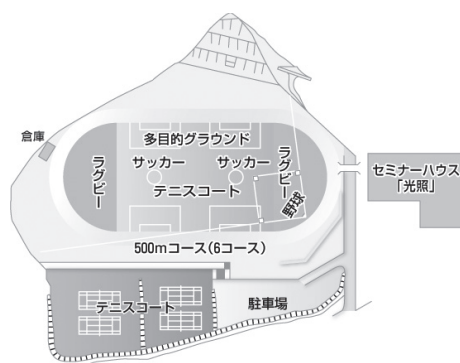
地下1階	1 階	2 階	3 階	4 階	5 階	6 階	7 階
N1-001 N1-002 N1-003 N1-004		N1-201 N1-202 N1-203 N1-204 N1-207 N1-208 N1-209 N1-211	N1-301 N1-302 N1-303 N1-304 N1-305 N1-306 N1-307 N1-308 N1-309 N1-310 N1-311 N1-323	N1-401 N1-403 N1-410 N1-413 N1-417	N1-502 N1-503 N1-515 N1-522	N1-601 N1-602 N1-603 N1-616 N1-617 N1-623	N1-701

IWAKURA 岩倉総合グラウンド

〒606-0017 京都市左京区岩倉上蔵町222
(075)707-9110

●紫野キャンパスより

- 【市バス】 「千本北大路」より市バス12号系統以外で「北大路バスターミナル」〈約8分〉下車。
- ↓
- 【地下鉄】 「北大路駅」より「国際会館駅」〈約6分〉下車。
- ↓
- 【京都バス】 「国際会館前」より岩倉実相院行(24号系統)で「岩倉実相院」〈約10分〉下車→北へ徒歩1.6Km 〈約20分〉。



HIROSAWA 広沢グラウンド

〒616-8306 京都市右京区嵯峨広沢西裏町5-22
(090)7555-8434

●JR 京都駅より

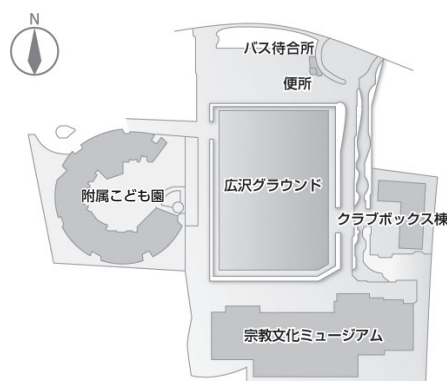
- 【市バス】 「京都駅前」(D3のりば)より宇多野・山越行(26号系統)で「山越」〈約40分〉下車→西へ徒歩〈約13分〉。

●京阪 三条駅より

- 【市バス】 「三条京阪前」より山越行(10号系統)で「山越」〈約40分〉下車→西へ徒歩〈約13分〉。
「三条京阪前」より山越行(59号系統)で「広沢池・佛大広沢校前」〈約45分〉下車。

●紫野キャンパスより

- 【市バス】 「千本北大路」より山越行(59号系統)で「広沢池・佛大広沢校前」〈約35分〉下車。



SONOBE 園部グラウンド

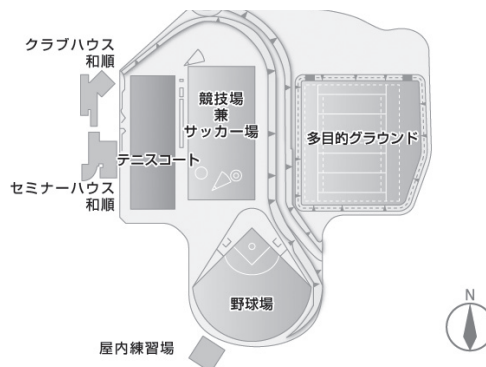
〒622-0044 南丹市園部町城南町大領1-1
(0771)63-5072

●JR 園部駅より

- 【徒歩】 〈約15分〉
- 【京阪京都交通バス】 「園部駅」西口より八田線または園篠線で「淇陽学校前」〈約4分〉下車→徒歩〈約2分〉。
- 【中京交通バス】 「園部駅」西口より中京交通市街地循環線で「城南町」〈約5分〉下車→徒歩〈約2分〉。

●紫野キャンパスより

- 【本学バス】 〈約75分〉



オープンスペース「サンサーラ」

学生が学習や就職活動のために、学内のオープンスペースでパソコンを自由に利用できるよう、**パソコン**および**プリンター**を設置しています。

●設置場所

詳細は「SYSTEM NAVIGATION」→「在学生の方へ」「サンサーラ（学内パソコン、複合機）」を確認してください。

●利用時間

■7:30～21:00

※ただし、学習情報プラザ・図書館研究個室は開館時間に準じます。

大学構内立入禁止日、閉館日、システムメンテナンス日等は使用できません。

利用時間の変更や休止、利用に際して制限を設ける場合があります。

●利用方法

(1) パソコン

詳細は「SYSTEM NAVIGATION」→「在学生の方へ」を確認してください。

■アカウント・パスワード

入学時（新入生オリエンテーション時）、各自に配付されたアカウント（ユーザー名またはユーザー ID）・パスワードを入力することにより利用できます（図1）。

■B-net

「サンサーラ」のパソコンへログイン後、デスクトップ上にアイコン（右図）が表示されています。

利用については、p.161を確認してください。

ログインする際の、アカウント（ユーザー ID）・パスワードは共通です。

■メールシステム（Gmail）

就職活動や課外活動等のメール機能として、各自にGmailが配付されています。

ログインする際の、アカウント（ユーザー ID）・パスワードは共通です。

■利用台数

同じアカウント（ユーザー ID）・パスワードでログインできるパソコンは1台のみです。

（図1）「サンサーラ」のパソコン

ログイン画面



入学時に配付されたアカウント（ユーザーID）とパスワードを入力してください。

サインアウト画面



①スタートメニュー



②ユーザーアイコン



③サインアウトの順に
選択してください。



教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

課程の
修了学位の
取得

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

単位
互換制度

免 許
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規 程

各 種
届 出 書

(2) 学内プリンター・複合機

利用方法は、「SYSTEM NAVIGATION」→「在学生の方へ」を確認してください。

■学内のプリンター・複合機でできること

プリンターや複合機のICカードリーダーに学生証をかざし、ログインすることで利用できます。

①オンデマンド印刷

学内パソコンから印刷命令（印刷ジョブ）を行えば、「サンサーラ」に設置のどのプリンターからでもプリントアウトすることができます。

②コピー

③ストレージを利用したスキャン・プリント

「複合機」からストレージを活用して、スキャンとプリントができます。

■印刷ポイント

学内プリンター・複合機の利用には「印刷ポイント」が必要です。

印刷ポイントは、在学中毎年4月1日に学部生・科目履修生は**200ポイント**、大学院生は**600ポイント**を大学より付与いたします。

◆印刷ポイントが不足した場合は、証明書発行機で購入することができます。

◆購入されたポイントは翌年度へ繰り越すことができますが、大学より付与したポイントは繰り越されません。

※詳細は、「SYSTEM NAVIGATION」→「在学生の方へ」を確認してください。

◆印刷消費ポイント

	モノクロ(プリント・コピー)		カラー(プリント・コピー)		スキャナー
サイズ	A4 (1面)	A3 (1面)	A4 (1面)	A3 (1面)	サイズ不問 (1面)
ポイント数	1ポイント	2ポイント	5ポイント	10ポイント	1ポイント

※両面印刷の場合、表1面・裏1面の印刷となるので、1枚につきポイント×2の消費となります。

●禁止事項

■既設のソフトウェア以外を持ち込んで利用する

■有料のソフトウェアを無断でコピーする

■**アダルトサイトの閲覧**

■周囲の**利用者の迷惑となる行為**

■**飲食、携帯電話での通話**

■**各種電子機器類（スマートフォン・タブレット等）の充電**

■**その他情報セキュリティポリシーに抵触する行為**

※以上のような行為を発見、検知した場合は、パソコンの利用を停止することがあります。

～困ったときは、まずここを見よう～

● オープンスペース「サンサーラ」について

■ サンサーラでCD・DVDを再生したい場合はどうしたらいいですか？

⇒ 以下のサンサーラにDVDドライブを設置しております。

◆ 紫野キャンパス7号館3階学習情報プラザ 10台

◆ 二条キャンパス1号館2階 4台

※ ヘッドフォン・イヤフォンを用意してください。

※ 設置場所の変更や利用に際して制限を設ける場合があります。

■ PCからUSBが抜けなくなっていました。

⇒ 無理に抜こうとせず、情報システム課まで連絡してください。

■ USBを抜き忘れてしまいました。

⇒ 忘れ物や落し物については、学生支援課または二条キャンパス事務課に問い合わせてください。

抜き忘れや落し物が増えています。注意してください。

■ 課外活動団体用の印刷をしたい場合はどうしたらいいですか？

⇒ 各課外活動団体のユーザー名（ユーザーID）・パスワードで「サンサーラ」のパソコンにログインし、印刷を実行してください。ただし、課外活動団体には印刷ポイントは付与されていないので、事前にポイントを購入してください。なお、課外活動団体の印刷ポイントの購入は、情報システム課にて受付します。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

学内の店舗等

●学内設置店舗・ATMの紹介

■紫野キャンパス

名称	場所	営業時間	内容
カフェテリア	1号館地下1階	詳細はB-netでお知らせします。	各種ランチ、カレー類、丼類、麺類等、カフェ&ベーカリー
	5号館地下		各種ランチ、カレー類、丼類、麺類等
喫茶	鷹陵館1階		飲物、カレー、パスタ、ドリア、パン、デザート
カフェテリア	鹿溪館1階		飲物、ハンバーガー、パスタ、カレー、デザート
コンビニ	鹿溪館1階(セブンイレブン)		弁当、パン、おにぎり、カップめん、菓子、飲物、文房具、生活用品 ※コピーサービス・FAXサービス
書籍・売店	鹿溪館1階(大垣書店)		教科書、書籍、雑誌、CD、DVD、図書カード、出版印刷、文房具、事務用品、切手・印紙・はがき、自動車教習所取扱、パン、カップめん、菓子、飲物 ※コピーサービス
ATM	鷹陵館1階(三井住友銀行)	平日 9:00~21:00 土曜 9:00~18:00	現金自動預け払い機
	鷹陵館1階(京都銀行)	平日 9:00~21:00 土曜 9:00~19:00 日・祝 9:00~19:00	
	5号館前(ゆうちょ銀行)	平日 9:00~19:00 土曜 9:00~17:00 日・祝 9:00~17:00	
自動販売機	図書館前、5号館1階・地下、7号館前、12号館1階、15号館1階・北入口前		飲物
ウォーターサーバー	1号館地下1階、鷹陵館1階、鹿溪館1階		

■二条キャンパス

名称	場所	営業時間	内容
カフェテリア	1号館1階	詳細はB-netでお知らせします。	麺類、丼類、定食等、カフェ
書籍・売店	1号館1階(大垣書店)		教科書、書籍、雑誌、CD、DVD、図書カード、出版印刷、文房具、事務用品、切手・印紙・はがき、パン、カップめん、菓子、飲物 ※コピーサービス
自動販売機	カフェテリア前		飲物
ウォーターサーバー	1号館1階		

利用ガイド

■開館日程

学務行事	開館時間	休館日
通学課程授業のある平日・土曜・祝日	9:00～20:00	・日曜日（授業日除く） ・国民の祝日（授業日除く） ・創立記念日（授業日除く） ・年末年始 ・蔵書点検日 ・法定点検日
通学課程授業のない平日・土曜	9:00～17:00	
通学課程試験1週間前から終了1日前まで （日曜・祝日を含む）	9:00～21:00	

※学内諸行事等により、上記の通りでない場合があります。

※紫野キャンパス図書館と二条キャンパス図書室で開館日・開館時間が異なります。

※詳細は、図書館ホームページの開館カレンダーを確認してください。

※警報（特別警報・暴風警報等）が発令された場合は、臨時休館もしくは、開館時間を変更する可能性があります。図書館ホームページを確認してください。

■入退館

入館（入室）	入館ゲートのカードリーダーに「学生証」をかざしてください。 ※学生証を忘れた場合は、呼出ボタンにて総合カウンターに申し出てください。
退館（退室）	退館ゲートのカードリーダーに「学生証」をかざしてください。 ※貸出手続きをしていない図書館資料があった場合は警報ブザーが鳴ります。 ※ブザーが鳴った場合は、所持品の確認にご協力ください。

※二条キャンパス図書室の場合は、1階メインゲートを通過のうえ、上記の通り7階図書室に入室してください。

■利用条件

利用対象	冊数	期間	更新	最長貸出期間	予約可能冊数
学部生・別科生・科目等履修生	30冊	30日	可	60日	30冊
大学院生	30冊	90日	可	180日	30冊

■図書館サービス（受付窓口：総合カウンター閲覧担当）

来館貸出	借りたい図書に「学生証」を添えて総合カウンターで手続きをしてください。
送本貸出	借りたい図書の貸出を来館せずに郵送で受けるサービスです。
予約	借りたい図書が貸出中の場合は予約ができます。予約図書の取置期間は、7日間（土日祝・休館日除く）です。
学内デリバリーサービス （紫野⇄二条）	紫野キャンパス図書館と二条キャンパス図書室間で、図書を相互に取寄・閲覧・貸出・返却することができます。
更新 （貸出期間の延長）	貸出図書は、更新手続きをした日から貸出期間分、返却期日を更新できます。更新に回数制限はありませんが、最長貸出期間を超える返却期日にはできません。 ※当該図書が予約されている場合・貸出停止期間中の場合・延滞中の図書がある場合・返却期日が過ぎている場合は、更新できません。 ※最長貸出期間は利用条件の表を参照してください。 ※総合カウンターまたは図書館ポータルサイトBIRD内の「LIBon」にて手続きができます。総合カウンターで手続きする場合は、当該図書と学生証を持参してください。
返却	貸出図書は必ず返却期日までに返却してください。郵送での返却も可能です。 ※キャンパス開構時間中に図書館が閉館もしくは休館している場合はブックポストに返却してください（返却手続きは翌開館日になります）。 ※返却期日を過ぎた場合は、延滞した日数分、貸出停止期間が発生します。

※送本貸出・予約・学内デリバリーサービス（取寄）は、蔵書検索（OPAC）画面から申請ができます。

※送本貸出・郵送返却にかかる送料は本人負担となります。

参考調査

学習・研究に必要な資料の所在調査や情報提供を受けることができます。

受付窓口	総合カウンター参考調査担当
受付時間	図書館開館日 9:00～18:00*

※開館時間によっては変更になる場合があります。

相互協力サービス（受付窓口：総合カウンター参考調査担当）

文献複写	本学および他の図書館等に関連法および相手館の規程の範囲内で複写を依頼し、取り寄せることができます。
現物借用	他の図書館等に図書資料の借り受けを依頼することができます。ただし、利用は本学図書館内のみです。
他大学図書館の利用	本学に所蔵のない資料を他大学の図書館等で閲覧することができます。利用を希望する場合は、相手館への照会、本学図書館発行の「紹介状」が必要です。

※文献複写・現物借用は、図書館ポータルサイト BIRD 内の「LIBon」でも手続きができます。

※文献複写・現物借用の利用にあたってかかる複写料や送料等の料金は本人負担となります。

※相互協力サービス利用の際は、**日数に十分余裕をもって**申し込んでください。

施設・設備（受付窓口：総合カウンター閲覧担当）

○各種学習室（研究個室・グループ学習室・多目的学習室）

どなたでも利用ができます。総合カウンターにて利用手続きをしてください。

○地下2階閉架書庫（C層・D層）

学部生・別科生・科目等履修生	入庫できません。資料を閲覧する場合は、総合カウンターで出納申し込みをしてください。
大学院生	入庫できます。「学生証」を持参のうえ総合カウンターで入庫手続きをしてください。

※上記の施設は、二条キャンパス図書室にはありません。

購入希望図書の申請

学習・研究に必要な図書が図書館に所蔵されていない場合は、図書の購入を申請することができます。申請された図書は、本学収書基準、予算、その他条件から、購入の可否を判断します。

図書館ポータルサイト BIRD 内の「LIBon」より申請してください。

利用上の注意

○図書館資料は大切に扱ってください。汚損・破損・紛失した場合は弁償していただきます。

○貸出手続きをせずに図書館資料を館外に持ち出すことはできません。

○館内では静かにしてください。携帯電話等での通話は禁止します。マナーモードにしておいてください。

○館内での飲食は禁止です（ペットボトルの水のみ可）。

○館内は撮影禁止です。

○貴重品等を閲覧席に置いたままにしないでください。席を離れるときは必ず携帯し各自で責任を持って管理してください。

関連サイト

図書館ホームページ（<https://www.bukkyo-u.ac.jp/library/>）

図書館開館カレンダー・警報発令時等における図書館の対応・図書館に関するお知らせ・利用者別図書館サービス等の情報を掲載しています。

「図書館へのお問い合わせ」のバナーから図書館へ各種お問い合わせができます。



図書館ポータルサイト BIRD（<https://bird.bukkyo-u.ac.jp/>）

学術情報の収集や論文・リポート作成のためのサイトです。蔵書の検索やデータベースの利用ができます。

図書館の一部機能をインターネット上で利用できる「LIBon」へのアクセスもこちらから。



BIRD 利用マニュアル（<https://bird.bukkyo-u.ac.jp/usersguide/birdguide/>）

図書館ポータルサイト BIRD の使い方を学ぶことができます。

- ・資料の検索やデータベースの使い方
- ・各種図書館サービス（送本貸出、予約・学内デリバリー・文献複写等）の申請方法
- ・LIBon の使い方（貸出中の図書の更新、図書購入の申請方法など）



学生ボランティア室

学生の皆さんのボランティア活動を推進・支援するための「学生ボランティア室」では、学外からのボランティア情報を発信しています。学生ボランティア室前には、ボランティアに関するポスターやチラシを配架しています。希望に応じて学生スタッフや職員が相談に応じますので、気軽にお問い合わせください。

●社会連携センター学生ボランティア室（7号館2階 学習情報プラザ内）

■開室時間：月曜～金曜 9:00～13:00、14:00～16:30

（土曜・日曜・祝日、大学が定めた休日は閉室）

■メール：buvcc@bukkyo-u.ac.jp

■Instagram：@buvcc1

※学校ボランティアについては教職支援課で取り扱っています。

学生ボランティア室

学生スタッフ募集!!

学生ボランティア室は、有志の学生スタッフと教職員が協働して運営しています。

学生のボランティア活動のきっかけとなる場を提供し、ボランティアを希望する学生のサポートを目的に活動しています。

一緒にボランティア活動や企画などをしてみませんか？

学生スタッフ・教職員一同、お待ちしております。

学生ボランティア室の主な活動

●ボランティア相談会の開催

学生ボランティア室では、月に一度ボランティア相談会を開催しています。

学生スタッフがボランティアの紹介をしたり、ボランティアに関する相談に乗ったりするなど、みなさんのボランティア活動をサポートします。

なお、学生ボランティア室前には、常に最新のボランティア情報を配架しています。

気になるものがありましたら、いつでもお声がけください。

●ボランティア活動の企画や実施

高齢者施設との「オンラインサロン」、入院中の子どもたちへの絵本の読み聞かせ、キャンパス周辺の清掃活動などを、企画・実施しています。また、災害時のボランティアや募金活動なども実施しています。

●「ボランティアフェスティバル」の開催

「ボランティアフェスティバル」とは、様々な分野の施設・団体の方から具体的なボランティアの内容について直接話を聞くことができるイベントです。

●機関誌『Maitrī（マイトゥリー）』の発行

学生ボランティア室では、年に1回機関紙を発行しています。

スタッフ紹介や活動内容など、学生ボランティア室に関する情報を掲載しています。

ボランティア保険に加入しましょう

有志のボランティア活動には大学で加入している保険は適用されません。そのため、ボランティア保険の加入は任意です（活動先により必須の場合があります）が、自分自身もしくは相手ケガをする場合や財物に損害を与える可能性に備えて必ず加入するようにしてください。受け入れ先の負担で加入できる場合もありますので、ボランティア受け入れ先の施設・団体、学校・園もしくは所轄の教育委員会等に参加について確認してください。

各自で加入する場合は、市区町村の社会福祉協議会やボランティアセンターで加入手続きを行ってください。保険料はプランによって異なりますが300～600円程度で、加入するとその年度の3月末まで有効です。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

海外渡航

担当: 学生支援課・国際交流課

海外に渡航する場合は、緊急時に備え、必ずB-netより「**海外渡航（旅行）届**」の提出をしてください。また、外務省が実施している「**たびレジ**」(滞在が3か月以上の場合は**在留届**)に登録をしてください。
なお、留学等により、休学中に海外へ渡航する場合は、p.138を参照してください。

●外務省渡航登録サービス（滞在期間3か月未満：「たびレジ」、3か月以上：在留届）

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp>



●外務省「たびレジ」登録サイト「(簡易登録) サイト」

外務省からの最新の安全情報を日本語で受信できる無料配信サービスです。海外に渡航予定がある方もない方も利用することができます。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/simple/register>



教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

課程の
修了
取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届書

留学生支援

担当:国際交流課

奨学金制度（最短修業年限以内が対象）

留学生を対象とした本学独自の奨学金制度があります。 ※選考あり

●**佛教大学外国人留学生新入生特別奨学金（秋学期より 6 ヶ月）**

学部生／月額 48,000 円、大学院生／月額 48,000 円

●**佛教大学外国人留学生特別奨学金（ 1 年間）**

学部生／月額 48,000 円、大学院生／月額 48,000 円

●**佛教大学私費外国人留学生奨学一時金（年 1 回）**

学部生／ 200,000 円、大学院生／ 200,000 円

授業料減免制度（最短修業年限以内が対象）

●**佛教大学外国人留学生授業料減免**

年間授業料の 30%を減免

●**佛教大学学術交流協定校外国人留学生授業料減免**

年間授業料の 50%を減免

※いずれも選考があります。

学 習 支 援

学部留学生を対象に、日本人チューターが留学生の希望する授業のサポートをしています。

チューターは授業に同席し、授業後の復習時間と合わせて授業内容の理解を助けてくれます。

交 流 行 事

交流会や研修旅行、スピーチコンテスト、年末懇親会などを開催し、日本人学生と留学生との交流の機会を提供しています。

留学生寮（佛教大学国際交流会館 知恩）

(1) 居住施設

- ・居室は 35 室あり、各居室には、冷暖房設備と給湯設備のほかにユニットバス・トイレ、ミニキッチン（電気コンロ、冷蔵庫つき）、クローゼット、ベッド（布団は各自で準備）、洗濯機、カーテン等が備え付けられています。
- ・居室使用料は月額 22,000 円、光熱水費（電気・水道使用料）は実費負担となります。
- ・入居可能期間は原則として 1 ヶ月～1 年とし、入居状況により入居期間の更新が可能です。

※入居希望者が多い場合は入居できないことがあります。入居をお考えの方は事前に国際交流課までお問い合わせください。

(2) 共用施設

交流ホール、キッチン、和室、礼拝室、多目的室（自習室）

(3) その他

管理人が 24 時間体制で常勤しているため、安全で便利に生活できます。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社 会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社 会
福祉学
研究科

博士後期課程

単 位
互換制度

免 許 状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規 程

各 種
届 出 書

備品の貸出

担当: 学生支援課

大学貸出備品について

課外活動や学生個人の活動に対する援助、補助を目的として備品を貸出しています。
備品の種類・貸出状況は、学生支援課にて確認してください。

※大学行事や修理等により貸出できない場合があります。

施設利用

担当: 学生支援課

●学内施設(教室等)

教室等の学内施設（課外活動許可施設）使用を希望する場合は、学生支援課にて、使用状況を確認のうえ、使用希望日
2日前までに所定の「**施設追加使用願**」にて申請してください。
なお、二条キャンパスの教室等は申請不可です。

■使用可能時間

教 室	授業開講日(定期試験期間を除く)	16:00 ~ 20:30
	日・祝・大学の定める休日	使用不可
鷹陵館(体育館)	授業開講日(定期試験期間を除く)	7:00 ~ 9:00
	日・祝・大学の定める休日	16:00 ~ 20:30
		7:00 ~ 20:30

※通信教育課程スクーリング開講時・入学試験等で使用可能日時を変更する場合があります。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社 会
福祉学
研究科

課 程 の
修了学位
の取得

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社 会
福祉学
研究科

単 位
互換制度

免 許 状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規 程

各 種
届 出 書

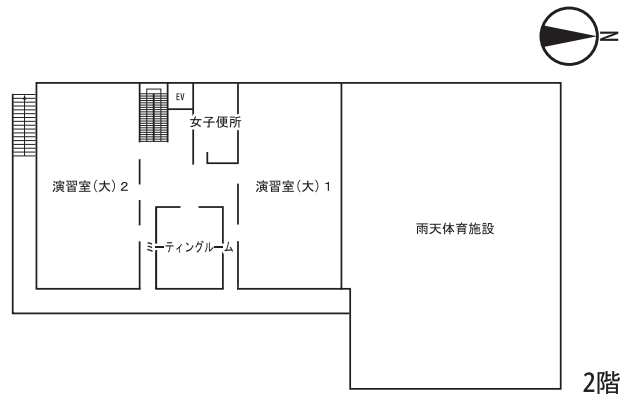
課外活動やゼミ合宿で利用できます！

●岩倉グラウンドセミナーハウス「光照」・園部キャンパスセミナーハウス「和順」

■見取図

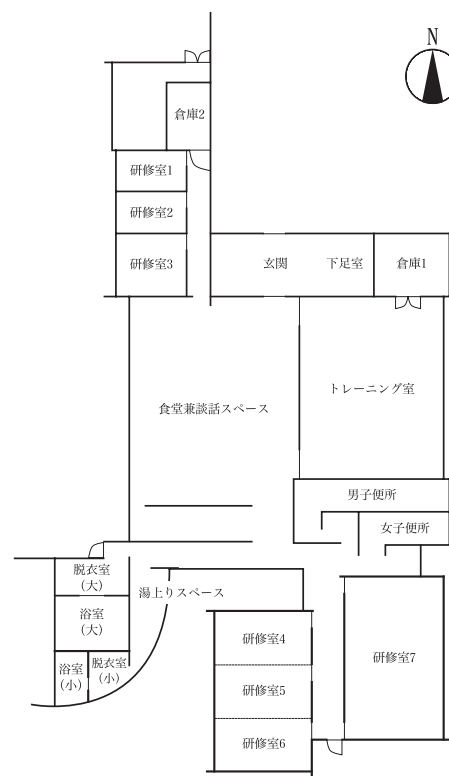
○岩倉グラウンドセミナーハウス「光照」

※岩倉グラウンド（p.164参照）



○園部キャンパスセミナーハウス「和順」

※園部グラウンド（p.165参照）



■使用上の注意

- 禁煙・禁酒
- 火気厳禁。可燃性の物の持ち込み、使用は禁止
- 使用後の清掃を必ず行うこと
- 緊急の場合は、直ちに管理人に連絡すること

■宿泊予約

- 宿泊希望者は、学生支援課にて手続きの説明を受けてください。
- 宿泊希望日2週間前までに「セミナーハウス宿泊申請書」に使用人数、宿泊日数に応じた宿泊料分の現金を持参し、宿泊者名簿を添え、学生支援課に提出してください。
- ※宿泊料（現金）：1人あたり1泊400円。
- ※園部キャンパスセミナーハウス「和順」は、本学の専任教職員1名以上の同伴が必要です。

■予約を取り消す場合

すみやかに学生支援課に報告してください。ただし、宿泊料は返還できません。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文
学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

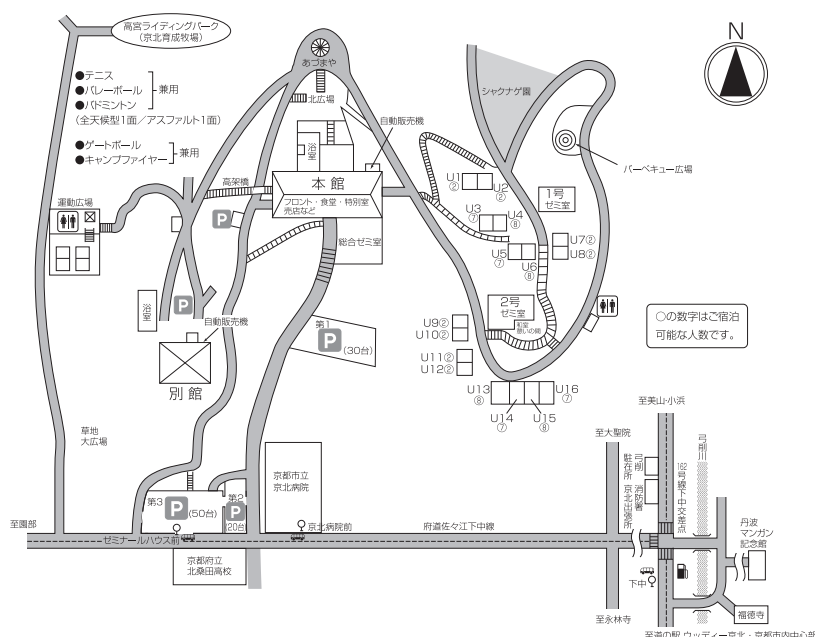
社会学
研究科

●あうる京北（京都府立ゼミナールハウス）

あうる京北は、**研修会**や**各種会合**、生涯学習施設として宿泊、日帰りとも利用できます。

あうる京北の利用にあたり本学学生は1人**1泊1,000円**の補助を受けることができます。また、あうる京北内で利用できる**食事**には**1回100円**の補助を受けることができます。

あうる京北施設配置図



■予約方法

○利用希望の団体は以下の連絡先へ**電話**にて**仮予約**をしてください。

○仮予約完了後、学生支援課にて**所定の申請書**を配付します。

※料金や施設など、詳しくは学生支援課設置のあうる京北の資料を参照してください。

■アクセス

○各線「京都」駅からJRバス（高雄・京北線）で約80分「周山」下車、周山までお迎え有り（事前に到着時間をお知らせください。）

○各線「京都」駅から車で約80分（40km）

○JR嵯峨野線「二条」駅から車で約60分（35km）

○福王子から約40分（30km）

○京都縦貫自動車道「園部」ICから約30分（25km）

※無料送迎ご相談ください。

■連絡先

〒601-0533 京都市右京区京北下中町鳥谷2番地

TEL：075 - 854 - 0216

FAX：075 - 854 - 0316

E-mail：kyosemi@oak.ocn.ne.jp

URL：https://kyosemi.or.jp/

更衣室・ロッカー利用

鷹陵館2階・地下に設置

スポーツの授業や課外活動のための更衣・荷物保管をする場合は、鷹陵館2階および地下の更衣室にロッカーを設置していますので利用してください。

なお、利用は**当日限り**です。個人で占有せず、荷物を入れたまま帰宅しないようにしてください。



注意！ 盗難防止のため、ロッカーを利用する際は必ず施錠してください。

トレーニングルーム

場所: 鹿溪館地下2階

トレーニングルームの使用は、 許可証が必要です

トレーニングルーム（鹿溪館地下2階）を使用できるのは、「**トレーニングルーム使用者講習会**」で指導を受け、受講者のみに交付される「**トレーニングルーム使用許可証**」を所持している方のみです。

許可証を紛失した場合は学生支援課に申し出てください。また、学生支援課の指導に従わなかった場合は許可を取り消すこともあります。

開室時間: 7:00 ~ 21:00
※大学が定めた使用禁止日は閉室

トレーニングルーム使用許可証

No.	
学籍番号	SAMPLE
氏名	
所属団体	
上記の者、鹿溪館トレーニングルームの使用を許可する。	
佛教大学	

トレーニングルーム使用 講習会

春、秋学期開始時に開講しています。日程はトレーニングルーム掲示板にて確認してください。なお、講習会に参加できない場合は、トレーナーに相談し、別途受講してください。

各種トレーニング器具の使用

トレーニングルームでは、学生のニーズにあわせ**競技に必要な筋力**トレーニングから**健康増進**を目的とするトレーニングまで、スポーツトレーナーの指導のもと使用することができます。トレーニング器具には**有酸素マシン**をはじめ、**レジスタンストレーニングマシン**、**フリーウエイト**等、各種器具を設置しています。

トレーニングサポート

本学と契約するトレーナーがトレーニングの**指導、相談**を行っています。日程はトレーニングルーム掲示板にて確認してください。

コンディショニングセミナー の開講

スポーツを快適におこなうために、**ケガの防止、健康管理**についての意識向上や正確な**トレーニング方法**の習得を目的として、**春、秋学期の各1回**、トレーナーによるコンディショニングセミナーを開講しています。日程はトレーニングルーム掲示板にて確認してください。



教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

アルバイト

担当:学生支援課

学生生活とアルバイト

本学ではアルバイト紹介をするうえで、学生としてふさわしい内容であること、学業や健康に支障のないこと等注意し、アルバイト情報を以下のとおり提供しています。

アルバイト求人情報提供

本学では、アルバイト情報が**パソコン、スマートフォン**から**24時間検索**できる「**学生アルバイト情報ネットワーク**」(運営:(株)学生情報センター)を利用し、アルバイトを紹介しています。また、学内の事務局、店舗や近隣の寺社等のアルバイトは**掲示板**(学生支援課前)にて紹介しています。

●登録方法

- 佛教大学ホームページより「アルバイト紹介システム」へアクセスする。
- 「新規登録はこちら」にアクセスする。
- 新規登録画面にて、**大学発行のG-mailアドレス**(…@bukkyo-u.ac.jp)を登録する。
※**個人所有のメールアドレスの登録は不可**
- 大学のメールアドレスに、利用時(ログイン)のIDならびにパスワードが通知される。

●利用方法

- 佛教大学ホームページより「アルバイト紹介システム」へアクセスする。
- 通知されたIDならびにパスワードを入力し、ログインする。
※**学内PCからの場合は不要**(オートログイン)
- 画面上の職種、勤務地等から希望するアルバイト求人先を探す。
- 求人先に連絡する。

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文
学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文
学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規
程

各
種
届
出
書

部屋探し

担当:学生支援課

住まいの紹介

実家を離れて一人暮らしをする住居を探している方のために、**本学指定の業者**を通じて住まいの紹介を行っています。
本学指定の業者は以下のとおりです。

●提携専用学生寮

OBU(オーブ)ハウス

所在地(鷹峯)を“おうぶ”と読み、BUKKYO UNIVERSITYの“BU”と併せて命名。紫野キャンパスより徒歩1分。

業者名	紹介内容	
(株)共立メンテナンス TEL:0120-07-3656	食事・家具家電付 寮長夫妻常駐	 ◀紹介ページに繋がります

●本学指定業者

	指 定 業 者	
①	(株)学生情報センター TEL:0120-749-025	 ◀紹介ページに繋がります
②	(株)フラットエージェンシー TEL:0120-75-0669	 ◀紹介ページに繋がります
③	(株)ジェイ・エス・ピー・ネットワーク TEL:0120-938-996	 ◀紹介ページに繋がります
④	(株)学生ハウジング TEL:0800-200-3215	 ◀紹介ページに繋がります

■鷹陵館1階入学課前に上記4社の物件紹介 **パンフレット**を設置しています。

■指定業者を利用して契約する場合、佛教大学生割引として紹介手数料が家賃の50%(通常は家賃の100%)となります。

上記4社のうち、①では**本学学生が優先的**に入居できる「指定マンション」を紹介しています。いずれも**手数料は無料**です。③では手数料が無料、家賃が割引となる「推薦学生マンション」を、④では**下宿等**の比較的安価な物件を紹介しています。詳しくは佛教大学ホームページ、パンフレットを参照してください。

●その他の業者

業者名	紹介内容	
(株)クラス	家具を定額でご利用 いただけるサービス	 ◀紹介ページに繋がります

●申込方法

直接担当業者に連絡してください。

一人暮らしの心得

契約する時の注意として、必ず**契約条件を理解、納得**のうえ契約を行ってください。

入居後は家主や他の入居者、建物近隣の方々に迷惑をかけないように、**マナーやモラル**を守ってください。

もし、一人暮らしをする中で問題が起き、自分で解決することが困難なときは学生支援課まで気軽に相談してください。

●一人暮らしの3原則

■**防 犯 ・ 防 火**… 火災の原因となる暖房器具、たばこの後始末等、**火気**には十分注意してください。
また、外出時は**戸締り**をしっかりとってください。

■**近 隣 へ の マ ナ ー**… 他人の迷惑となる**騒音、深夜**までの**会合**は慎んでください。
また、家庭**ごみ**は、**指定**の時間・場所に決められた**方法**で捨ててください。

■**健 康 管 理**… 食生活に注意し、不規則な生活を慎んでください。
また、病気・怪我に備えて、**マイナンバーカード・健康保険証**を取得しておいてください。

進路・就職支援

さまざまな進路

P.182

進路就職課を知ろう！

P.183

学部3年生以上および大学院生の皆さんへ！ P.184

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

大学生活は人生全体からみればほんの一部、ひとつの通過点にしか過ぎません。しかし、その過ごし方がその後の長い人生の歩み方に大きな影響を及ぼすであろうことは学生である皆さんにも想像できることでしょう。

受験勉強を終え、大学生として新しい一歩を踏み出した1年生の皆さんはどのような進路を思い描いていますか？そして、その実現のためにどのようなことに取り組んでいきたいと考えていますか？

同じキャンパスで同じ時間を過ごす皆さんであっても、一人ひとりの夢や希望する進路は多様に広がっているはずです。

本学では、正課の授業や課外活動を通して得られる知識や体験を、自身の具体的な経験値として蓄え、就職活動はもとより社会人として必要な「人間力」へと発展させることを目標に進路・就職支援を行っています。

進路・就職支援の詳細（進路就職課の取り組み、ガイダンス・セミナーや就職講座の紹介など）は、進路就職課が発行している冊子『**人間力をつける**』『**資格・講座ガイド**』を確認してください。

さまざまな進路

担当：進路就職課

「就職」…企業、教員、公務員、福祉・保育、保健医療

就職に関しては、学年ごとに、志望に応じて企業、教員、公務員、福祉・保育、保健医療の**分野ごとのプログラムを展開**しています。無料で参加できる「**ガイダンス**」や「**セミナー**」は、働くということや進路を考える場として、就職することへの意識の向上をめざすとともに、希望する分野の情報収集、社会人としての基本的な教養やマナーを身につけるために開催しています。

「進学」…大学院、専門学校、留学等

進学に関する情報収集は、各学校のホームページを調べるとともに、資料請求を行うことがスタートになります。その際に、過去の入試問題が入手できるかどうか確認しておきましょう。ここでは佛教大学大学院を紹介します。

佛教大学では、大学院に文学研究科・教育学研究科・社会学研究科・社会福祉学研究科を設置し、学部・大学院の一貫した教育研究体制を整えています。**修士課程**（2年）と、**博士後期課程**（3年）があり、**4研究科7専攻**を開設しています（通信教育課程の博士後期課程は1研究科2専攻）。

本学の大学院へ進学を希望する人は入学試験に関する資料を無料で配付していますので、**通学課程**は**入学課**（鷹陵館1階）、**通信教育課程**は通信教育課程**インフォメーションセンター**（1号館1階）で受け取ってください。なお、大学院の入学試験要項や出願書類は、通学課程・通信教育課程とも本学入試情報サイト7月頃掲出予定です（WEBからのダウンロードのみ）。

〔佛教大学大学院／修士課程・博士後期課程一覧〕

研究科	専攻	通学課程		通信教育課程	
		修士	博士後期	修士	博士後期
文学	仏教学	○	○	○	○
	文学	○	○	○	
	歴史学	○	○	○	○
教育学	生涯教育	○	○	○	
	臨床心理学	○	○	○*	
社会学	社会学	○	○	○	
社会福祉学	社会福祉学	○	○	○	

※通信教育課程 教育学研究科臨床心理学専攻修士課程の修業年限は3年です。

卒業後の免許・資格の取得（通信教育課程への入学）

佛教大学は通信教育課程を有しており、学部**卒業後**、仕事に就きながらも様々な**教員免許状**や**資格**を取得することができます。

大学卒業を基礎資格とし、**教員免許状**や**資格**を**取得**できる「**課程本科**」が開設されています。それ以外にも免許や資格、そして既に取得している教員免許状を基礎として必要な単位を修得することによって「上級免許状」「他教科免許状」「隣接校種免許状」が取得できる「**科目履修コース**」もあります。これらには一定の条件が必要となりますので、詳細は**通信教育課程『入学要項』**（インフォメーションセンター（1号館1階）にて配付およびデジタルパンフレット）で確認してください。

進路就職課を知ろう！

担当：進路就職課

進路就職課

簡単に情報収集ができるようになった中で、正しい情報と誤った情報を見分けることが重要です。視野が狭くなるような偏った情報や利益を優先した質の悪いサービスもあるため、出どころのわからない情報を信じる前に、進路就職課のガイダンスやセミナー、面談を活用してください。

最新情報は掲示板や「B-net」・「求人検索NAVI」を必ずチェック！！

進路就職課のサポート情報は、冊子『**人間力をつける**』『**資格・講座ガイド**』に掲載しています。ただし、掲載時点では詳細が決定していないものや追加開催される説明会などもあります。

最新情報は**掲示板**（1号館2階北側エレベーター前および1号館北側）や「**B-net**」、「**求人検索NAVI**」で随時お知らせしています。日々必ずチェックし、計画を立てる習慣をつけてください。

「求人検索NAVI」を活用する！

本学に寄せられた求人情報は、Web上で公開しています。「B-net」→「お気に入り」から「求人検索NAVI」にアクセスし、社名・業務内容などのキーワード検索や、業種・地域などの条件検索のほか関連データを閲覧することができます。このサイトでは佛教大学生への求人があった企業・事業所の情報を公開しており、2025年3月卒業対象者の総求人件数は約18,500件です。（2025年2月末現在）

サイトの利用方法は「B-net」上でもマニュアルを公開していますが、不明な点は進路就職課へ問い合わせてください。なお、利用にあたっては最初に**初期登録**が必要となります。3,4年生ならびに大学院生は「**進路希望登録**」を、1,2年生は「**会員登録**」を行ってください。

この「**求人検索NAVI**」の活用は**就職活動の大切なツール**の1つでもあります。学内はもちろん学外でもパソコンやスマートフォンから利用できますので、最大限に活用して情報収集に努めてください。

【求人検索NAVIの活用方法】

- ・進路就職課からのお知らせ
- ・就職活動体験記検索
- ・進路希望登録および進路報告登録
- ・OB・OG検索
- ・求人情報検索
- ・インターンシップ求人
- ・キャリア・アドバイザー面談予約
- ・大学所定履歴書（WEB版）など
- ・ガイダンス・セミナー申込

進路就職相談⇒キャリア・アドバイザー制度

本学には、**キャリア・アドバイザー制度**があり、様々な業界出身で経験豊富なキャリア・アドバイザーがみなさんの進路ならびに就職相談に対応しています。『**自己分析**』『**職業選択**』『**業界・企業研究**』『**書類添削**』『**筆記試験・面接対策（Web面接含む）**』などの相談にも対応します。

※キャリア・アドバイザーとの面談は**事前予約制**です。「**求人検索NAVI**」**キャリア・アドバイザー面談予約**より申し込んでください。なお、進路就職課スタッフは随時対応しますので、気軽に相談に来てください。ただし、『面接指導』『添削指導』については事前にアポイントメントをとるようにしてください。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会福祉学
研究科

単位
互換制度

免 許 状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規 程

各 種
届 出 書

ガイダンス・セミナー・学内就職説明会⇒情報収集をしよう

進路就職課では、企業、教員、公務員、福祉・保育、保健医療などの分野別に区分した**ガイダンス・セミナー**を開催しています。各種セミナーでは、履歴書の書き方・面接対策・社会人としてのビジネスマナーについてや、各分野に必要とされる知識についてアドバイスをを行い、少人数制のワークショップも行っています。

※対面で開催するものとオンラインで開催するものがあります。

また、学内に優良事業所をはじめ、実習先や本学卒業生が在職する事業所等に参加いただく**学内就職説明会**も開催し、皆さんの就職に向けた機会を提供しています。自分で正確な情報を得るために、積極的に行動しましょう。

資格・講座サポートコーナー⇒資格取得や就職対策の講座を受講しよう

進路就職課には『**資格・講座サポートコーナー**』があり、就職・将来に役立つ20種類以上の資格・試験対策講座を低価格で実施しています。資格取得は、自分自身を輝かせ、未来へ向かって自分を活かすことができるきっかけづくりとなります。なりたい自分になるためのステップアップを強力にサポートするため、講座はオンラインや対面など多彩な授業スタイルで実施します。

また、専任スタッフが皆さんの「目的」にあった資格や講座を選ぶお手伝いをします。就職活動や将来に役立つ講座を厳選していますので、上手く活用して自身のスキルアップにつなげましょう。

学部3年生以上および大学院生の皆さんへ！

担当：進路就職課

進路希望登録が必要な理由⇒「職業安定法」に定められています！

進路希望登録（「求人検索NAVI」より登録）は、企業に就職を希望する人はもちろん、教員、公務員、福祉・保育、保健医療分野を志望する人や、進学を希望する人など、**全ての学部3, 4年生および大学院生**が行わなければなりません。

進路就職課で行っている職業紹介などの業務は、職業安定法第33条2項に基づいて、職業安定所の業務を委託されて行っているものです。就職を希望する場合、同法によりその意思を表明するために「進路希望登録」が必要となります。就職希望者に対する情報提供、相談、連絡、紹介、応募に際しての推薦状（学長推薦状、指導教授推薦状）や人物に関する証明書の作成交付などのためにも**必要な手続き**です。必ず登録してください。

※登録の仕方がわからない人は、遠慮なく進路就職課へ！

※登録内容は進路就職課から情報提供を行う際や、スタッフと学生の皆さんがコミュニケーションをはかるための基礎データにもなります。できるだけ詳しく入力してください。

※教員採用試験等に係る大学推薦制度の利用も登録が必要です。

進路報告について

文部科学省より卒業・修了生全員の進路状況調査が大学に**義務**付けられているため、卒業・修了後の進路が決定した場合は、すみやかに「**求人検索NAVI**」にて**進路報告登録**を行ってください。

また、就職や進学だけでなく、講師希望、次年度公務員・教員採用試験受験予定、パート・アルバイト、就職希望なし等の場合も含め卒業・修了生全員が進路報告をする必要があります。

なお、**未報告者には進路就職課から電話等で本人または保証人の方に進路調査**を行います。

大学の取り組み

宗教情操行事	P.186
環境にやさしいキャンパス	P.187
キャンパス全面禁煙	P.187
個人情報の取り扱い	P.188
附置機関・関連施設	P.190
佛教大学同窓会	P.193
アクセスマップ	P.194

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科
社会学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科
社会学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

仏教精神を学ぶ

「**建学の精神**」である仏の教えや法然上人の思想に接していただくため、さまざまな宗教情操行事を開催しています。心と身体で触れ、現在そして将来と、意義ある日々を送られるようお願いしております。ぜひ、参加してください。

●朝のおつとめとおはなし

【日時】授業期間中、月曜～金曜 8:30～8:55

【会場】礼拝堂（水谷幸正記念館）

「おつとめ」の後、教員より10分（水曜は15分）程度の講話をいただきます。
朝のおつとめとおはなしに参加して、爽やかな一日を迎えましょう。

●新入生祖山（知恩院）参拝

【日時】新入生オリエンテーション期間中の1日

【会場】総本山知恩院（京都市東山区）

新入生全員で、浄土宗の総本山である知恩院へ参拝します。
法然上人のみ前で入学の報告と、これからの学生生活の誓いをたてましょう。

●授戒会〈じゅかいえ〉

【日時】9月の3日間

【会場】礼拝堂（水谷幸正記念館）

お釈迦さまが説かれた「人間としての生き方」を、実践体験を通して学びます。
「仏（明るく）、法（正しく）、僧（仲よく）」のある生活を目指しましょう。

●聖日行事（音楽法要・聖日講話・写経会）

■法然上人聖日法要・聖日講話

【日時】授業期間中の毎月25日前後 8:30～8:55

【会場】礼拝堂（水谷幸正記念館）

法然上人のご命日（1月25日）は **御忌会〈ぎょきえ〉法要**
■写経会〈しゃきょうえ〉 を行います。

【日時】聖日法要実施日 10:00～15:30（随時受付）

【会場】礼拝堂（水谷幸正記念館）

【経文】「一枚起請文」「四誓偈」「発願文（和文・漢文）」「般若心経」「七仏通戒偈」

*用具（硯・筆・墨汁など）は、すべて用意しています。

●仏教三大大行事

■花まつり（釈尊降誕会）〈しゃくそんごうたんえ〉

お釈迦さまのご誕生をお祝いする法要を行います。法然上人のご誕生のお祝いと併せて行っています。

■成道会〈じょうどうえ〉

お釈迦さまがお悟りを開かれたことをご讃える法要を行います。

■涅槃会〈ねはんえ〉

お釈迦さまのご入滅をしのぶ法要を行います。

※各行事の詳細については別途案内します。

環境にやさしいキャンパス

現在、本学では社会問題化している環境問題について、「環境にやさしいキャンパス」を目指して、取組んでいます。
全学の学生、教職員、および関係業者の意識の高揚と協力体制を整備するために以下の事項の実施について協力してください。

省エネルギー対策について

●照明について

- 教室 教室を最後に退室される方は**消灯**の協力をお願いします。
- クラブボックス 退室時には**消灯**、**空調**OFFを徹底してください。

●空調の稼働について

- 冷房時 (6月～9月) ○冷房中室温は**28℃**前後の温度に保っています。
○夏季は、暑さをしのぎやすい服装を考慮してください。
- 暖房時 (12月～3月) ○暖房中室温は**20℃**前後の温度に保っています。
○冬季は、寒さを考慮した服装の着用を励行してください。

●エレベータの利用について

- 3階までの昇降は、できるだけ階段を利用してください。

キャンパス内のごみ処理方法について

本学では、キャンパス内の随所に以下の**4種類**のごみ箱を設置しています。
ごみの種類に応じて分別して処分してください。

●キャンパス内のごみ箱

POINT!

ごみ箱名称	ごみの種類
一般ゴミ	リサイクル不可能な紙、ゴム、皮革など
プラスチック	ビニール袋、弁当・カップ麺の容器、パンの袋など
ペットボトル・カン・ビン	飲料水のものに限る ※容器は空にすること
雑がみ	新聞、雑誌、チラシ、紙箱、紙袋、本などリサイクル可能な紙類

※自宅ゴミや家電製品、課外活動団体の器具や備品等を持ち込むことは禁止します。

キャンパス全面禁煙

キャンパス全面禁煙

健康増進法の一部を改正する法律の施行に伴い、令和4年4月1日から佛教大学敷地内は全面禁煙（電子タバコも含む）となりました。なお、京都市では「路上喫煙等の禁止等に関する条例」により市内全域において屋外の公共の場所で路上喫煙をしないよう定められています。敷地外でも条例を厳守し、周辺地域への迷惑となる喫煙は禁止とします。皆様のご理解とご協力をお願いします。

なお、健康管理センター（鷹陵館1階、二条キャンパス1号館2階）では禁煙サポートも行っていますので、喫煙者は禁煙に向けて積極的に利用してください。

教育理念
教育研究上の目的と3ポリシー

学位授与基準

履修一般事項

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

課程の修了学位の取得

文学研究科

教育学研究科

社会学研究科

社会福祉学研究科

単位互換制度

免許状資格取得

通信課程聴講履修

学生生活

規程

各種届出書

個人情報の取り扱い

担当：総務課

佛教大学では個人情報保護の重要性を認識し、その適切な情報取得と安全管理を図っております。個人情報保護に関する法令等を遵守するとともに、「佛教大学個人情報保護に関する指針」に基づき、学生・入学予定者・保証人および学費負担者の個人情報の保護に努めます。なお、この取扱いについては、通学課程、通信教育課程とも共通です。

①個人情報とは

学生・入学予定者・保証人および学費負担者に関する現在及び過去の情報であって、当該情報に含まれる氏名・生年月日・住所・性別・その他により特定の個人を識別することができるもの、および個人識別符号が含まれるものをいいます。

②個人情報の収集について

本学では、学生・入学予定者・保証人および学費負担者の皆様の情報を適正な方法により取得し、不正な手段による収集は行いません。また、収集にあたっては、その利用目的を明らかにします。

③個人情報の利用目的について

学生・入学予定者・保証人および学費負担者の皆様よりご提供いただきました個人情報は、以下の本学の正課・正課外教育研究活動、学生生活・教育研究支援活動等に必要な業務を遂行するために使用させていただきます。なお利用目的を追加・変更した場合は学生・入学予定者・保証人および学費負担者の皆様に学内掲示・ホームページ等を通じ通知または公表いたします。

○学生・入学予定者の個人情報

入 学 関 係	入学手続き（編入学・再入学を含む）、入学前教育（アンケート実施を含む）、下宿の紹介・斡旋、保険の紹介 等
修 学 関 係	履修相談・指導、履修登録、授業・試験運営、成績処理、単位認定、進級・卒業判定、諸資格判定、学位記授与、単位互換協定による科目履修、海外留学・研修、国際交流、教育研究支援活動 等
実 習 関 係	各種実習に係わる指導・助言、実習先を含む関係諸機関への連絡・依頼 等
学 籍 関 係	学生証交付、休学・復学・退学・除籍・復籍・転学部・転学科等の学籍異動 等
学 生 生 活	学生生活全般に関わる指導・助言、福利厚生・医療機関等の紹介・斡旋、学費の延期・分納、学費減免奨学生選考、奨学金交付・返還、学資貸付・給付・返還、定期健康診断・健康相談・応急処置、心理・精神的な問題の相談、ハラスメントや人権侵害の相談、課外活動支援、弔慰・災害支援、学生生活実態調査、卒業アルバム・謝恩会案内、ボランティア活動に係わる指導・助言・登録・連絡 等
進 路 関 係	就職斡旋・支援、求職（進路）登録、キャリア（進路）形成支援、進路決定届、資格取得のための課外講座運営、進学・就職に係わる推薦書作成 等
施 設 利 用	図書館利用（図書館資料および施設等の利用）、情報教育（パソコン利用）、教室・実習室・体育施設・外国語教育施設・視聴覚教育施設・合宿研修施設、駐輪場・駐車場、利用手続き 等
そ の 他	学費諸費納付手続き・管理、各種連絡・通知、各種証明書発行、用具・備品等の貸与、学則による表彰・処分、基礎学力調査、講演会等の案内・運営、英語基礎学力調査、授業評価アンケート、卒業・修了後の卒業・成績証明書の発行 等

なお、各部署よりの各種事務連絡・通知に係わる学籍番号・氏名・必要最小限の用件等は掲示板に掲示します。

保証人および学費負担者の個人情報

学費諸費納付手続き・管理、学生の修学指導等に必要な連絡、各種送付物（学費納付用紙・大学行事案内等）の連絡・通知および発送、就職活動案内、「佛教大学教育後援会」・「佛教大学同窓会」・「鷹陵同窓会」等の要請による保証人および学費負担者宛送付物の発送業務代行、大学の振興に係わるお願い、学生に連絡が取れない場合の緊急連絡 等

④第三者への提供について

次の場合を除き、本人の同意を得ないで第三者へ提供することはいたしません。

- (1) 個人情報保護法令による場合
- (2) 本人の身体・生命等を保護するため、緊急かつ止むを得ない場合
- (3) 公的機関からしかるべき令状のもとに情報提供の依頼がある場合
- (4) 以下に示す教育研究活動・学生支援業務遂行に必要不可欠な場合

業務遂行に必要不可欠な学生・入学予定者の個人情報の第三者提供

本学では、入学前教育課題送付、基礎学力調査・英語基礎力調査・授業評価アンケートのデータ集計、ITを利用した授業運営の一部、各種実習（教育実習・福祉実習等）の実習先等、健康診断に必要な検査・診察や診断結果の取りまとめ、就職支援業務の一部、海外留学・海外研修に関する渡航等の手続き、各種資格試験のための団体受験申請、ボランティア参加時本学に登録されたボランティア団体への紹介情報提供等について業務遂行にあたり公共機関・各種団体・専門の企業と提携して進める場合があります。この際、当該公共機関・各種団体・専門の企業に業務遂行に必要な最小限の情報（氏名、学籍番号、住所等）を提供します。こうした公共機関・各種団体・専門の企業の選定にあたっては、有益性はもとより個人情報保護システムが確立していることを条件としています。

(5) 次に掲げる第三者につき本人が同意している場合

1. 佛教大学教育後援会〔保護者またはそれに代わる者で組織する会で学生・保証人の個人情報のうちの運営に必要な最小限の情報を会に提供します〕
2. 通学課程の場合、佛教大学同窓会〔奨学金支給等に関わり在学生の、また卒業・修了後、同窓会員としての必要情報を会に提供します〕、通信教育課程の場合、鷹陵同窓会〔卒業・修了後、同窓会員としての必要情報を会に提供します〕
3. 学生の保証人〔学修支援、生活支援、就職活動支援等のために、在学生の個人情報（成績を含む）を保証人に提供します〕

(6) 上記、(5) 1・2・3に関して、情報提供を望まない方は、総務課個人情報相談窓口にお申し出ください。提供を停止することもできます。ただし、教育後援会・同窓会等ではそれぞれ奨学金制度を設けて在学生を支援しています。また教育後援会では大学の現況等をお知らせする機関紙をお届けするとともに、大学と協力しながら在学生の単位修得状況や進級・卒業条件の充足度等を保証人の皆様に説明し、進学や就職、学生生活に関して個別相談・指導等を行っております。また卒業後、同窓会では「会報」を定期的にお届けし、大学の現況や同窓生の活躍をお知らせするとともに、大学の行事、同窓会総会や懇親会の案内を行っております。従いまして個人情報の「提供を停止」しますと不利益が発生する場合がありますのでご承知おきください。なお佛教大学教育後援会、佛教大学同窓会、鷹陵同窓会においても大学と同様個人情報保護システムを確立、取扱いを行っています。

⑤情報の開示・訂正

学生・入学予定者・保証人および学費負担者の皆様の権利として「佛教大学個人情報保護に関する指針」に基づき以下の事項について対応させていただきます。

1. 個人情報の開示請求
2. 誤った情報が登録されている場合の訂正請求
3. 本学より発信される関連情報等の送付停止請求
4. 個人情報に関する苦情、相談窓口へのコンタクト

※「佛教大学個人情報保護に関する指針」その他の取り扱い詳細につきましては佛教大学ホームページに掲載しております。

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

博士後期
課程

単 位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規 程

各 種
届 出 書

附置機関・関連施設

佛教大学オープンラーニングセンター（O.L.C.）

●オープンラーニングセンター（O.L.C.）とは

本学が有する「知」をより多くの方々に提供することを目的とし、大学の公開講座を担当。40年近い歴史を持つ「佛教大学四条センター」を前身に、2021年4月にオープン。

幅広い世代の方々に学んでいただける講座を提供しています。学内外から講師を招き、仏教や京都学をはじめ幅広い内容の講座を展開。対面受講だけでなくリアルタイム配信によるオンライン受講もあり、どちらで受講しても「約1ヵ月間の見逃し配信」付き。会員種別も3種類を設け、それぞれの学びのスタイルに合わせた受講が可能です。サブスク(定額会員)では、半期12,000円(税込)で半年間約300の講座が受講し放題(対面・オンラインどちらも可)。シリーズ講座においても、単体の1回のみ受講が可能です。

いつでも、誰でも、どこからでも、あなたの「学び」の扉を開きます。

●佛大生だけの特典

・3種類ある会員種別のうち「正会員」の会費1,000円（税込・1年間有効）を無料。入会の際は連絡してください。
（※在学中のみの特典となります）

●問い合わせ先

オープンラーニングセンター（O.L.C.）[15号館2階]

TEL：（075）366-5511

Email：bu-olc@bukkyo-u.ac.jp

取扱時間：10：00～17：00 休館日：日曜・祝日・大学指定日

通信教育課程

●大学院

修了した課程により「修士」または「博士」の学位が得られます。文学・教育学・社会学・社会福祉学の4研究科に7専攻を開設しています（博士後期課程は文学研究科の仏教学と歴史学の2専攻のみ）。

●学部（本科）

卒業時に「学士」の学位が得られる正規の大学課程。仏教学・文学・歴史学・教育学・社会学・社会福祉学の6学部に11学科を開設しています。

●課程本科

大学や短期大学の卒業者が、その卒業を活かして希望する**教員免許状**や**資格**を取得する課程です。それぞれ取得に必要なとなる授業科目のみを履修します。

●科目履修コース

「**教員免許状課程**」「**資格課程**」「**教養課程**」「**特例制度による幼稚園教諭免許状・保育士資格課程**」の4つのコースがあります。科目履修コースの学籍は「科目等履修生」で、身分証明書は「受講証」となります。

●本科入学資格コース

学部（本科）1年次入学志願資格のない方のために設けられたコース。必要な科目を履修し、単位を修得することで、学部（本科）への**入学志願資格**が得られます。

●問い合わせ先

生涯学習部（1号館1階）

TEL：（075）491-0239

※木曜日および通信教育課程の学事行事のない土曜日・日曜日・祝日は事務取扱休止。

※昼休みの時間は通信教育課程の行事等により変更となります。

詳細については、佛教大学通信教育課程ホームページ（<https://tsushin.bukkyo-u.ac.jp>）をご覧ください。

佛教大学法然仏教学研究センター

佛教大学法然仏教学研究センターは、本学の建学の精神に則り、浄土学を中心に仏教学、人文科学、社会科学、自然科学にわたる広い視点から法然仏教学の総合的な学術研究を行っています。

活動内容については、ホームページで公開しています。講演会や研究会も定期的を実施しますので、学生の皆さんもぜひ参加してください。

●問い合わせ先

法然仏教学研究センター（12号館2階） TEL：075-491-2141（代）
TEL：075-493-9056（直）
FAX：075-495-2151

佛教大学総合研究所

佛教大学総合研究所では、学内外の研究者が協働して進める共同研究や若手研究者の支援を行っています。また、本学の研究に関連した講演会や研究会も開催しており、学生や一般の方にも公開しています。これらの活動の成果は刊行物やホームページに公開しています。

●問い合わせ先

総合研究所（12号館2階） TEL：075-491-2141（代）
FAX：075-495-2151

佛教大学宗教文化ミュージアム

佛教大学の建学の理念である仏教精神を中核に、浄土宗の歴史・思想・美術など宗教文化をテーマとする特別展・企画展のほか、平常展示ではこれまでに開催した展示の概要や、当館が所在する嵯峨野地域の歴史や文化の魅力を紹介しています。併設する「宗教文化シアター」では、民俗芸能などの無形文化財の公演や特別展関連のシンポジウム、講演会を開催。これらを通して、研究成果をひろく社会に公開しています。

開館予定やアクセス、刊行物などはホームページをご覧ください。

●問い合わせ先

〒616-8306 京都市右京区嵯峨広沢西裏町5-26
TEL：075-873-3115
URL：<https://www.bukkyo-u.ac.jp/museum/>



教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

佛教大学臨床心理学研究センター

臨床心理学研究センターは、臨床心理に関する佛教大学の附置機関として、臨床心理相談室におけるカウンセリング、臨床アセスメントの実施、幼稚園・こども園カウンセラー派遣事業など、臨床心理学の学術研究推進とその成果による社会貢献を展開しております。

また、本学は公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会より第1種の大学院の指定を受けており、当センターは臨床心理学専攻に在籍する大学院生の心理臨床実践および研修等の場となっております。



幼保連携型認定こども園 佛教大学附属こども園

佛教大学附属こども園は北嵯峨の広沢キャンパスにあります。自然豊かな田園の広がる環境にあり、仏教精神に基づく情操豊かな子どもを育てるとともに、地域に根ざした保育を進めています。0～5歳児の各クラスを開設し、本学学生の実習現場になっています。また、保育ボランティアでの参加希望の学生も随時募集しています。



教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社 会
福祉学
研究科

課 程
の
修 了
学 位
の 取 得

文 学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社 会
福祉学
研究科

単 位
互換制度

免 許 状
資格取得

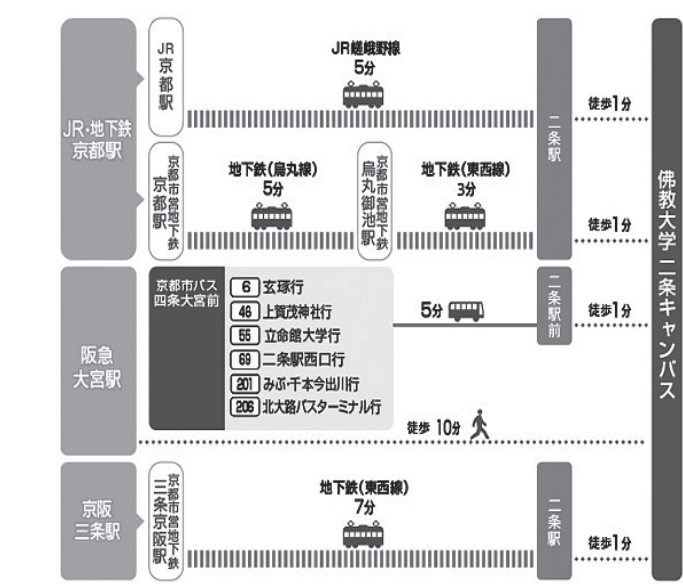
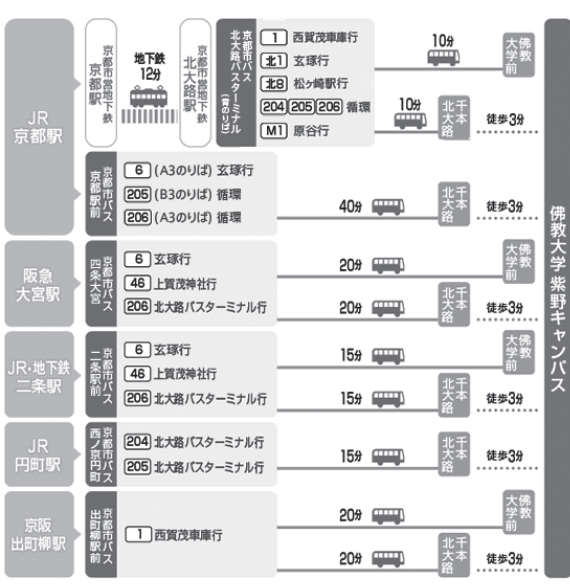
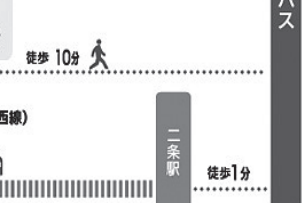
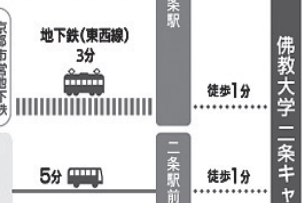
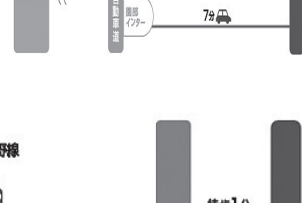
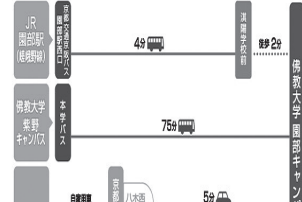
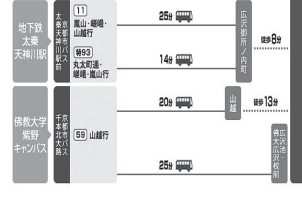
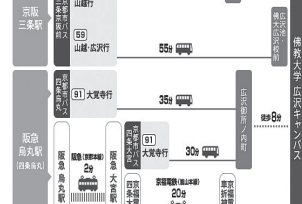
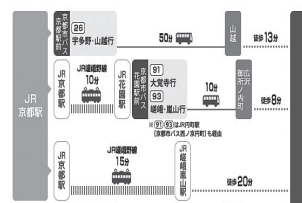
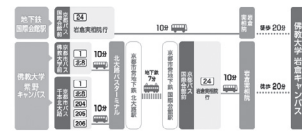
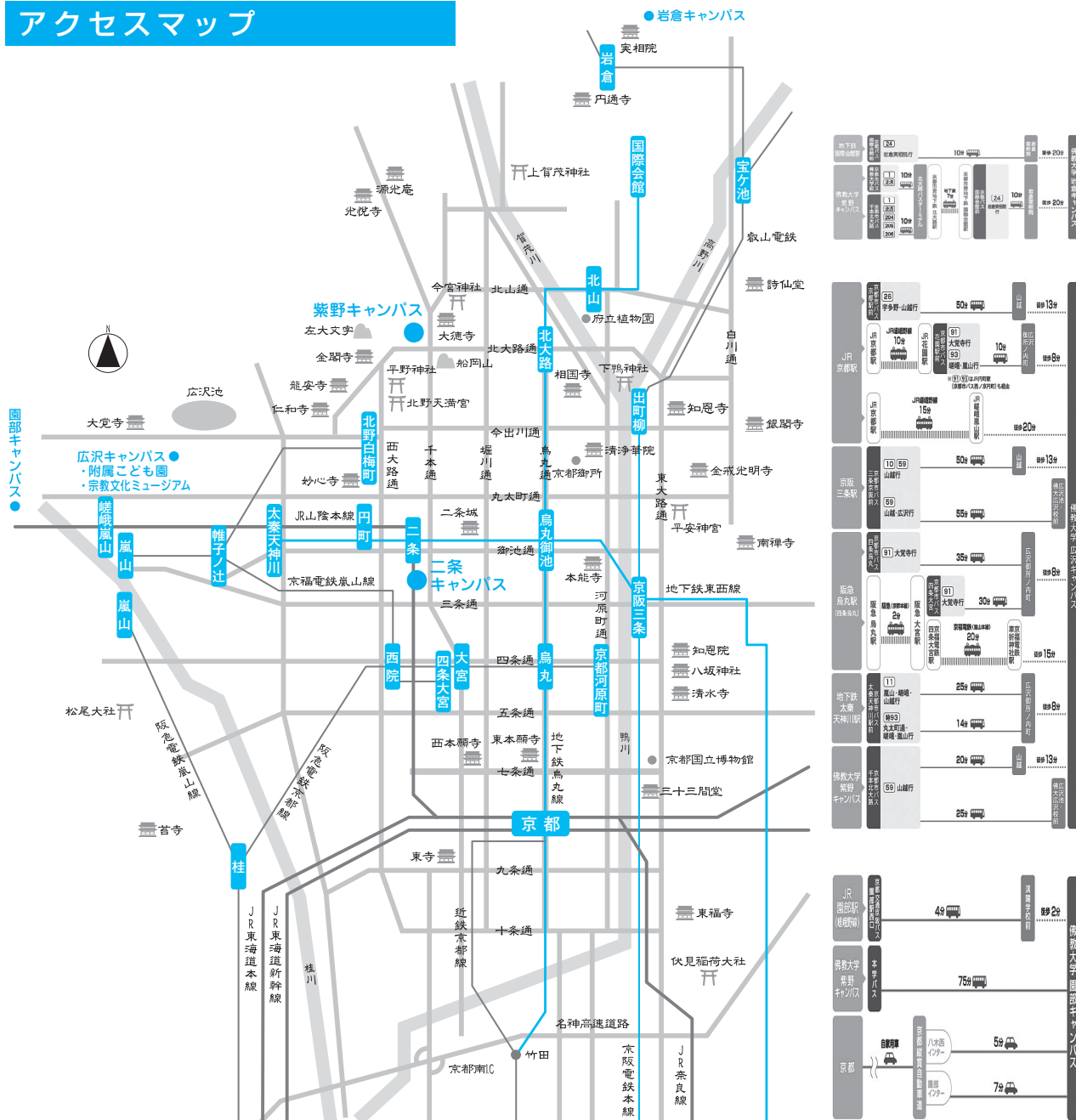
通信課程
聴講履修

学生生活

規 程

各 種
届 出 書

アクセスマップ



IV 規 程

- 佛教大学修学規程
- 佛教大学学位規程
- 佛教大学学位規程細則

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規 程

各 種
届 出 書

IV 規 程

佛教大学修学規程

(趣旨)

第1条 佛教大学学則第3章および第4章の施行のために本規程を定める。

- 2 授業科目の履修方法等については、法令、学則またはこれらに基き特別の定めがあるもののほか、この規程の定めるところによる。

(授業科目の登録)

第2条 履修しようとする授業科目は、指定された期間・方法で学生支援課に届出なければならない。

- 2 病気その他止むを得ない正当な事由により、指定された期間内に授業科目の登録または卒業論文題目の届出ができない場合は、直ちに延期事由を証明する書類を添えて、延期願(任意の書式)を学生支援課に提出し、指示を受けなければならない。
- 3 授業科目登録後の追加・変更は、原則として認めない。
- 4 定員制等により予備登録を必要とする授業科目は、予備登録の手続きを経てその登録が許可された者のみ履修登録することができる。
- 5 クラス指定されている授業科目は、原則としてその指定されたクラスのみ履修登録することができる。
- 6 指定された期間内に届出(登録)を完了しない場合は、当該セメスターにおける受講資格を失う。

(授業科目の履修取消し)

第2条の2 学部が正当な理由があると認めた場合は、履修登録を取消することができる。

- 2 履修登録の取消しができる科目は、選択科目とし、原則として、必修科目、自由科目は履修取消しができない。
- 3 申請は指定された期間・方法で学生支援課に届け出なければならない。
- 4 申請期間以外の申請は原則認めない。但し、病気等その他止むを得ない正当な事由により申請ができなかった場合や、「実習科目」、「卒業論文」、「卒業研究」、「卒業レポート」は、申請期間外であっても履修取消しを認めることがある。
- 5 本条各項に規定する授業科目の履修取消制度は、2019年度以降第1学年次入学者より適用する。

(授業科目の履修)

第3条 授業科目の授業総時間数の3分の1以上欠席した場合は、その科目の単位を修得できないことがある。

- 2 教育職員免許状を取得する者は、学則所定の教育職員免許状取得に関わる科目等に加え、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目に規定する本学基準開講科目を修得しなければならない。

(試験)

第4条 試験の種類は、定期試験、追試験および再試験とする。

- 2 試験は、筆記試験、レポート(論文)試験、口述試験、実技試験またはその他の方法によって行ない、その方法については別に定める。
- 3 履修登録をしていない科目は、受験することができない。
- 4 学費未納者は、受験資格を失う。
- 5 追試験および再試験の実施にあたり、大学が指定した試験期日に受験しなかった場合は、事由のいかんに関わらず、当該科目の受験資格を失う。
- 6 追試験は、止むを得ない正当な事由により定期試験を受験できなかった者を対象として、学部教授会または大学院研究科教授会の議に基きこれを実施する。
- 7 前項における正当な事由とは、次の各号のいずれかに該当しなければならない。受験資格取得にかかわる課程の履修に関する事項について定める。

(1)教育実習、博物館実習、図書館実習、介護等体験、ソーシャルワーク実習、社会福祉援助技術現場実習、精神保健福祉援助実習、保育実習、心理実習、社会教育実習、臨床基礎実習、臨床評価実習、総合臨床実習、基礎看護学実習、コミュニティ実習、クリティカルケア看護学実習、慢性看護学実習、成人看護学実習、老年看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、地域・在宅看護学実習、在宅看護学実習、公衆衛生看護学実習、統合実践看護実習、臨床心理実習および伝宗伝戒道場(加

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許
状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規 程

各 種
届 出 書

Ⅳ 規 程

行)のいずれかを受講中の場合(本学の当該免許・資格取得課程受講者に限る)

(2)病気、けがの場合(医師の診断書を添付)

(3)不慮の事故または災害による被害者の場合(事故証明書、被災者証明書を添付)

(4)その他正当と認められる事由がある場合(事由が証明できる書類を添付)

8 追試験受験希望者は、事由を証明する書類を添えて、指定された期間・方法で学生支援課に届け出るとともに、受験手数料を納付しなければならない。

9 春学期の追試験は8月に、秋学期の追試験は2月に実施する。

10 再試験は、最終学年における3月および9月卒業予定者で単位不足により卒業できない場合、当該年度に登録履修した授業科目のうち4科目以内を合格すれば卒業の要件を充たす場合にのみ、学部教授会または大学院研究科教授会の議に基きこれを実施する。但し、次の各号に該当する科目は、再試験の対象としない。なお、保健医療技術学部の再試験については別に定める。

(1)卒業論文、卒業研究または卒業レポート(以下、「卒業論文等」という。)

(2)定期試験を受験しなかった科目

(3)出席不良により不合格となった科目

11 再試験受験希望者は、指定された期間・方法で学生支援課に届け出るとともに、所定の再試験料を納付しなければならない。

12 再試験における合格者の成績評価は、全て60点とする。

13 試験において次の場合は、不正行為とみなし学則により懲戒処分を行なう。さらに当該科目および当該学期に登録した全部もしくは一部の科目の登録を無効とする。

(1)私語や態度について注意を与えても改めないとき。

(2)許可なくして物品や教科書・ノート類を貸借したとき。

(3)許可された以外の物を参照したとき。

(4)代人受験をなし、またはなせしめたとき。

(5)その他監督者の指示に直ちに従わないとき。

(成績評価)

第5条 成績評価は点数をもって行い、次の評語で表示する。また、本学が入学前の既修得単位によって認定した授業科目については、「認定」の評語で表示する。

(2019年度以降第1学年次入学者)

S 100点～90点

A 89点～80点

B 79点～70点

C 69点～60点

D 59点以下

X 未受験

N 評価対象外

(2018年度以前第1学年次入学者)

A 100点～80点

B 79点～70点

C 69点～60点

D 59点以下

X 未受験

N 評価対象外

2 成績評価は60点(評語C)以上を合格とし、59点以下(評語D)、未受験(評語X)、評価対象外(評語N)は不合格とする。

3 学業成績を測る基準として、GPA(grade point average)(以下、「GPA」という)を使用する。GPAは、該当履修期間中の履修科目の成績評価を4点～0点のGP(grade point)に換算し、各GPに各科目の単位数を掛けて、それを履修科目の総単位数で割ったものをGPAとして、計算値は小数点第3位を四捨五入して表記する。

点数	成績評価	GP
100～90	S	4
89～80	A	3
79～70	B	2
69～60	C	1
59～0	D	0
未受験	X	0
評価対象外	N	0
履修取消	—	ポイントつけず
認定	認定	ポイントつけず

4 GPAは学生の学習・履修指導、進級・卒業判定、退学勧告等の基準として活用する。

(成績の疑義申立)

第5条の2 成績について疑義申し立てを行なうことができる。

- 2 疑義申し立てをしようとするものについては、指定された期間・方法で学生支援課に届け出るものとする。
なお、申し出可能期間は、原則として、評価当該学期の成績発表日を含め5日以内とする。

(卒業論文等)

第6条 卒業論文等は、卒業予定セメスターにおいて履修登録しなければならない。

- 2 卒業論文題目は、指導教授の承認を得て、指定された期限までに届出なければならない。
- 3 卒業論文題目の届出を完了している者は、指定された期限までに卒業論文を学生支援課に提出しなければならない。
- 4 仏教学部仏教学科の2019年度以降第1学年次入学者は、第4学年第7セメスター時に、学則所定の卒業所要単位数のうち80単位以上を修得していない場合、「卒論ゼミ1」の登録資格を失う。また、第4学年第8セメスター時に、「卒論ゼミ1」を単位修得していない場合、「卒業論文」の提出資格を失う。
- 5 文学部日本文学科の2019年度以降第1学年次入学者は、第4学年第7セメスター時に、学則所定の卒業所要単位数のうち80単位以上を修得していない場合、「卒業研究ゼミ1」の登録資格を失う。
- 6 文学部中国学科の2019年度以降第1学年次入学者は、第4学年第7セメスター時に、学則所定の卒業所要単位数のうち80単位以上を修得していない場合、「卒業研究ゼミ1」の登録資格を失う。
- 7 歴史学部歴史学科、歴史文化学科、教育学部臨床心理学科の2019年度以降第1学年次入学者は、第4学年第7セメスター時に、学則所定の卒業所要単位数のうち80単位以上を修得していない場合、「卒業研究ゼミ1」の登録資格を失う。また、第4学年第8セメスター時に、「卒業研究ゼミ1」を単位修得していない場合、「卒業研究ゼミ2」の登録資格、ならびに「卒業論文」の提出資格を失う。
- 8 社会学部現代社会学科、公共政策学科の2019年度以降第1学年次入学者は、第4学年第7セメスター時に、学則所定の卒業所要単位数のうち80単位以上を修得していない場合、「現代社会学卒業研究ゼミ1」もしくは「公共政策学卒業研究ゼミ1」の登録資格を失う。
- 9 仏教学部仏教学科、文学部日本文学科、中国学科、歴史学部歴史学科、歴史文化学科の2010年度～2018年度第1学年次入学者、および教育学部臨床心理学科の2011年度～2018年度第1学年次入学者は、学則所定の卒業所要単位数のうち74単位以上を修得していない場合、「卒業論文」または「卒業研究」の提出資格ならびに「卒業研究ゼミ1」および「卒業研究ゼミ2」の登録資格を失う。
- 10 社会学部現代社会学科、公共政策学科の2013年度～2018年度第1学年次入学者は、学則所定の卒業所要単位数のうち74単位以上を修得していない場合、「現代社会学卒業研究ゼミ1」および「公共政策学卒業研究ゼミ1」の登録資格を失う。
- 11 学費未納者は、卒業論文等の提出資格を失う。
- 12 卒業論文または卒業研究提出資格の認定は、第7および第8セメスター在学者を対象として、各学期始めに行なう。
- 13 卒業論文等は、別に定める学科所定の様式によらなければならない。
- 14 病気その他止むを得ない正当な事由により指定された期日までに卒業論文等を提出できない者で、事由を証明する書類を添えて延期願(任意の書式)を提出した者は、最大限2週間までその提出を延期すること

教育理念
教育研究上の
目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許状
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

Ⅳ 規 程 規 程

とができる。

(卒業延期)

第7条 佛教大学学則第30条第2項に基き、各セメスター終了時における単位の修得状況により、卒業延期(留年)が確定するものとする。

(規程改廃)

第8条 本規程の改廃は、各学部教授会ならびに大学院各研究科教授会の議を経て、大学評議会の承認を得なければならない。

附 則

第1条 本規程は、「佛教大学修学規程」(昭和45年4月1日施行)を全面改正し、新規に制定するものとする。

第2条～第16条 略

第17条 本規程は、令和2年4月1日から改正施行する。

第18条 本規程は、令和4年4月1日から改正施行する。

第19条 本規程は、令和6年4月1日から改正施行する。

第20条 本規程は、令和7年4月1日から改正施行する。

佛教大学学位規程

第1条 この学位規程は、学位規則(昭和28年文部省令第9号)第13条の規定に基き本学において授与する学位の種類、論文審査の方法、試験および学力認定の方法、その他学位に関し必要な事項を定めるものとする。

第2条 本学において授与する学位は学士、修士および博士とし、その種類は次のとおりとする。

学士(文学) 学士(教育学) 学士(社会学) 学士(社会福祉学) 学士(保健学)

修士(文学) 修士(教育学) 修士(社会学) 修士(社会福祉学)

博士(文学) 博士(教育学) 博士(社会学) 博士(社会福祉学)

第3条 学士の学位は、深く専門の学芸を修め、広く教養を培い、知的道徳的および応用的能力を有する者に授与するものであり、佛教大学学則および佛教大学通信教育部規程の定めるところにより、本学学部を卒業した者に授与する。

第4条 修士の学位は、広い視野に立って精深な学識を修め、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を有する者に授与するものであり、佛教大学大学院学則および佛教大学大学院通信教育規程の定めるところにより、本学大学院修士課程を修了した者に授与する。

第5条 博士の学位は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行なうに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を有する者に授与するものであり、佛教大学大学院学則および佛教大学大学院通信教育規程の定めるところにより、本学大学院博士課程を修了した者に授与する。

第6条 佛教大学大学院学則第52条の定めるところにより、博士の学位は、前条に規定する者のほか、本学に学位論文を提出してその審査および試験に合格し、且つ本学大学院の博士課程を修了した者と同等以上の学位があると認められた者に授与することができる。

第7条 第4条および第5条により学位の授与を申請する者は、学位申請書に学位論文、学位論文の要旨、参考論文のあるときは当該参考論文および研究業績一覧表を添えて学長に提出するものとする。

2 第6条により博士の学位論文を提出して学位の授与を申請する者は、学位申請書に学位論文、学位論文の要旨、参考論文のあるときは当該参考論文、履歴書、住民票記載事項証明書(外国籍の場合は在留カードもしくは旅券の写し)、研究業績一覧表および審査料を添えて学長に提出するものとする。

3 第5条および第6条により提出された学位論文については、大学院研究科論文審査分科会、大学院委員会および大学院研究科教授会の議を経て、学長が受理する。

第8条 第7条第2項、第3項の規定によって、博士の学位論文を受理したときは、学位論文の審査のほか、外国語および専攻学術について、本学大学院の博士課程において所定の単位を修得した者と同等以上の学力を有することを認めるための試験を行なうものとする。試験は筆答または口述により行ない、外国語

についてはその研究に必要な外国語を課するものとする。

- 第9条 第7条第3項の規定により受理された博士の学位論文の審査は、大学院研究科教授会において行なう。
- 2 大学院研究科教授会は、学位論文の審査のため必要があるときは学位論文の提出者に対して当該論文の副本、訳本その他の提出を求めることができる。
- 第10条 第8条および第9条の規定による学力の確認および論文の審査は、大学院研究科教授会において当該専攻科目の担当教授および他の関連科目の大学院担当教授のうちから3名以上の審査員を選び審査にあたらせる。
- 第11条 博士の学位論文の審査は、当該論文を受理してから1年以内に終了するものとする。
- 第12条 大学院研究科教授会は、第4条および第5条による課程の修了の可否ならびに第6条による論文の審査の合否について議決する。但し、第5条および第6条による論文審査は、審査員における審査結果を受けて、大学院研究科論文審査分科会および大学院委員会の議を経て、大学院研究科教授会において審議決定しなければならない。
- 2 前項の議決は、出席委員の3分の2以上の賛成を必要とする。
- 第13条 大学院研究科教授会が第12条の議決をしたときは、文書により学長に報告しなければならない。
- 第14条 学長は第13条の報告に基いて、第4条および第5条による課程の修了の可否ならびに第6条による論文審査の合否について決定し、課程の修了または論文の合格を決定した者には、学位記を授与するものとし、不合格者にはその旨通知する。
- 第15条 本学は、博士の学位を授与したときは、授与した日から3ヶ月以内に当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨および論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。
- 第16条 本学により博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、当該博士の学位授与に係る論文の全文を公表するものとする。但し、当該博士の学位を授与される前にすでに公表したときは、この限りでない。
- 2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、本学の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合、本学はその論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。
- 3 博士の学位を授与された者が行なう前2項の規定による公表は、本学の協力を得て、インターネットの利用により行なうものとする。
- 第17条 学位の授与を受けた者が学位の名称を用いる時は、専攻分野および当該学位を授与した本学名を学士(文学・佛教大学)、学士(教育学・佛教大学)、学士(社会学・佛教大学)、学士(社会福祉学・佛教大学)、学士(保健学・佛教大学)、修士(文学・佛教大学)、修士(教育学・佛教大学)、修士(社会学・佛教大学)、修士(社会福祉学・佛教大学)、博士(文学・佛教大学)、博士(教育学・佛教大学)、博士(社会学・佛教大学)および博士(社会福祉学・佛教大学)のように付記するものとする。
- 2 学位記の様式は、様式第1号から様式第3号までのとおりとする。
- 第18条 修士および博士の学位を授与された者が、その名誉を汚辱する行為があったとき、または不正の方法により修士および博士の学位の授与を受けた事実が判明したときは、大学院研究科教授会の議を経て学位の授与を取消することができる。
- 2 前項の決議については、第12条の議決の場合と同様に行なうものとする。
- 第19条 学位記の再交付を受けようとするときは、その事由を具し学長に願い出なければならない。
- 2 再交付料は、3万円とする。
- 第20条 本学において博士の学位を授与したときは、学長は学位規則(昭和28年文部省令第9号)第12条の定めるところにより、文部科学大臣に報告するものとする。
- 第21条 本規程の改廃は、各学部教授会または大学院各研究科教授会の議を経て、大学評議会の承認を得なければならない。

(附 則)

- 第1条 本規程は、昭和42年4月1日から施行する。
- 第2条～第19条 略
- 第20条 本規程は、平成27年4月1日から改正施行する。但し、平成27年3月31日以前に入学した者については、令和3年3月31日までは、なお従前の規程による。

様式第1号（第17条関係）（学部課程を卒業した場合）略
 様式第2号（第17条関係）（大学院課程を修了した場合）略
 様式第3号（第17条関係）（論文博士の場合）略

佛教大学学位規程細則

第1条 本細則は、佛教大学学位規程（以下「学位規程」という。）の施行について定める。

第2条 修士論文の提出期限は、毎年12月20日とする。但し、9月修了予定者は、7月31日とする。

2 前項の規定にかかわらず通信教育の課程における3月修了予定者は毎年1月31日とする。

3 博士後期課程修了にかかる博士論文の提出期限は、修了予定の1年前とする。但し、大学院研究科教授会が認めたときは、これを4ヶ月前までを限度に短縮することができる。従って、この場合の提出期限は、3月修了予定者は11月30日、9月修了予定者は5月31日とする。

第3条 学位規程第7条に定める学位論文は、博士の場合は5部、修士の場合は1部とする。学位論文の要旨は日本文3部、英文3部とする。但し、修士の場合は、学位論文の要旨は日本文1部とし、研究業績一覧表を省くことができる。

第4条 学位規程第7条の2の審査料を次のとおり定める。

博士論文提出による者（乙種）

（ア）本学博士後期課程において所定の単位を修得して退学した者 100,000円

（イ）本学博士前期・修士課程修了者または本学学部卒業者 100,000円

（ウ）本学の専任教職員 100,000円

（エ）上記以外の者 200,000円

第5条 学長は学位論文を受理したとき、大学院研究科教授会にその審査を委嘱する。

第6条 学位規程第8条の外国語を次のとおり定める。

英語 フランス語 ドイツ語 中国語

第7条 大学院研究科教授会は学位規程第8条の規定にかかわらず、学位の授与を申請する者の経歴および提出論文以外の業績を審査して、試験の全部または一部を行なう必要がないと認めるときは、その経歴および業績の審査をもって試験の全部または一部に代えることができる。

第8条 学位規程第7条の規定により学位の授与を申請する者が、博士後期課程を退学してから3年以内に論文を提出した時は、学力の確認を行なわないことができる。

第9条 大学院研究科教授会が必要と認めたときは、学位規程第10条の規定にかかわらず審査委員に大学院担当の准教授、講師を加えることができる。

第10条 大学院研究科教授会が必要と認めたときは、学位規程第10条の規定にかかわらず審査委員に他大学の大学院または研究所等の教員等を加えることができる。

第11条 学位規程第4条の学位請求論文については、指導教授を主査とし、大学院研究科教授会の指名する2名以上の大学院担当教授を副査とする。

第12条 学位規程第5条および第6条の学位請求論文については、大学院研究科教授会の指名する専攻科目の授業担当教授を主査とし、さらに大学院担当教授2名を副査とする。

第13条 大学院研究科長は、論文審査および最終試験または学力認定の結果を、博士論文審査については、論文要旨と審査要旨を添えて学長に報告しなければならない。

第14条 修士学位記の授与の期間は、3月または9月の2回とする。

第15条 博士の学位を授与された者の提出論文は、その1部を図書館に保存し、他を学位請求者に返却する。学位を授与されない者の提出論文は、その全部を論文提出者に返却する。

2 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位授与に係る論文の全文を長期的な保存と利用に適した形式の電子データとして本学へ提出するとともに、本学の協力を得て、インターネットを利用して公表するものとする。

3 本学は、前項により提出された電子データを、国立国会図書館に送信する。

第16条 学位規程第16条の規定にかかわらず博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、本学の承認を受けて、当該博士の学位の授与に係る論文の全文に代えて、その内容を要約したものを公表することができる。この場合、本学はその論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

第17条 本細則の改廃は、学位規程第21条の規定の例によることとする。

(附 則)

第1条 本細則は、昭和51年4月1日施行から施行する。

第2条～第9条 略

第10条 本細則は、平成27年4月1日から改正施行する。但し、平成27年3月31日以前に入学した者については、令和3年3月31日までは、なお従前の規程による。

【学則・規程】

- ・ 佛教大学大学院学則
- ・ 佛教大学学位規程
- ・ 佛教大学学位規程細則
- ・ 修学規程
- ・ 学籍異動に関する規程
- ・ 佛教大学大学院転籍規程
- ・ 佛教大学大学院転籍に関する内規
- ・ 大学院学費等納付規程
- ・ 佛教大学大学院奨学生奨学金給付規程
- ・ 佛教大学外国人留学生特別奨学金給付規程
- ・ 佛教大学外国人留学生新入生特別奨学金給付規程
- ・ 佛教大学私費外国人留学生奨学一時金給付規程
- ・ 佛教大学外国人留学生授業料減免規程
- ・ 佛教大学生外国留学奨学金規程
- ・ 佛教大学障がい学生奨学金給付規程
- ・ 佛教大学奨学生および各種奨学生選考・推薦規程
- ・ 被災者に対する奨学金規程
- ・ 傷害治療費・修理費給付規程
- ・ 遺失物・拾得物取扱規程
- ・ 学生の施設使用に関する規程
- ・ 佛教大学におけるハラスメントに関する指針
- ・ ハラスメント相談窓口に関する規程
- ・ 鷹陵館利用規程
- ・ 鹿溪館使用規程
- ・ 鹿溪館使用規程細則
- ・ 佛教大学学生ボランティア支援制度規程
- ・ 就職斡旋規程
- ・ 佛教大学情報セキュリティポリシー

各規程の最新の内容はホームページにて確認してください。

※トップページ>学生生活>学生生活サポート>学生生活基礎知識

教育理念
教育研究上の目的と
3ポリシー

学位授与
基準

履修
一般事項

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

課程の
修了学位
の取得

文学
研究科

教育学
研究科

社会学
研究科

社会
福祉学
研究科

単位
互換制度

免許
資格取得

通信課程
聴講履修

学生生活

規程

各種
届出書

学部授業科目の聴講願

下記のとおり、____年度____学期の学部授業科目の聴講を許可くださいますようお願いいたします。

所 属 _____ 研究科 _____
 _____ 専攻（修士・博士後期課程）
 学籍番号 _____
 氏 名 _____

記

開 講 科 目 名	担当教員名	開設学部学科 および 開講曜日講時	単位

※科目数が多い場合、コピーしてご利用ください。

※裏面の注意事項をよくご確認ください。

指導教員	専攻主任	学生支援機構長	学生支援課受付
年 月 日 印	年 月 日 印	年 月 日 印	

聴講する目的
（○を付してください）

教員免許状取得のため ・ 諸資格取得のため ・ その他（ ）

大学院生の学部授業科目の 聴講に関する注意事項

（聴講手続き）

1. 大学院生が学部授業科目の聴講を希望する場合の手続きについて、次のとおり定める。
 - ①「学部授業科目の聴講願」（本学所定用紙）に必要事項を記入する。
 - ②指導教員の指導を受けて、所定用紙に承認の捺印を受ける。
 - ③所属する専攻の専攻主任に願い出て、所定用紙に承認の捺印を受ける。
 - ④「学部授業科目の聴講願」を学生支援機構長に提出し、許可を受ける。
 - ⑤手続期間は、当該学期の履修登録期間とする。

（聴講手続きの制限）

2. 一学期間に聴講できる学部授業科目の単位の上限は次のとおりとする。
 - 専攻科目の修了要件の修得単位上限とは別に、科目等履修生の規程に準じ、一学期16単位まで登録履修を認める。
 - ※集中講義は年間32単位に含めて、春学期・秋学期いずれかの登録単位に算入する。
 - ※なお、浄土宗教師資格を得るために履修する科目については、この限りではない。

（単位認定・証明書発行）

3. 許可された学部授業科目を聴講し、試験に合格した場合は所定の単位を認定する。
4. 合格した科目は、「学部聴講で履修した科目」（自由科目）として「単位修得・成績証明書」に記載する。

（その他）

5. その他必要な事項については、大学院委員会で協議し、決定する。
6. この注意事項（申し合わせ）は、平成16年4月1日から施行する。

学部授業科目の聴講願

下記のとおり、____年度____学期の学部授業科目の聴講を許可くださいますようお願いいたします。

所 属 _____ 研究科 _____
 _____ 専攻（修士・博士後期課程）
 学籍番号 _____
 氏 名 _____

記

開 講 科 目 名	担当教員名	開設学部学科 および 開講曜日講時	単位

※科目数が多い場合、コピーしてご利用ください。

※裏面の注意事項をよくご確認ください。

指 導 教 員	専 攻 主 任	学生支援機構長	学生支援課受付
年 月 日 印	年 月 日 印	年 月 日 印	

聴講する目的
（○を付してください）

教員免許状取得のため ・ 諸資格取得のため ・ その他（ ）

大学院生の学部授業科目の 聴講に関する注意事項

（聴講手続き）

1. 大学院生が学部授業科目の聴講を希望する場合の手続きについて、次のとおり定める。
 - ①「学部授業科目の聴講願」（本学所定用紙）に必要事項を記入する。
 - ②指導教員の指導を受けて、所定用紙に承認の捺印を受ける。
 - ③所属する専攻の専攻主任に願い出て、所定用紙に承認の捺印を受ける。
 - ④「学部授業科目の聴講願」を学生支援機構長に提出し、許可を受ける。
 - ⑤手続期間は、当該学期の履修登録期間とする。

（聴講手続きの制限）

2. 一学期間に聴講できる学部授業科目の単位の上限は次のとおりとする。
 - 専攻科目の修了要件の修得単位上限とは別に、科目等履修生の規程に準じ、一学期16単位まで登録履修を認める。
 - ※集中講義は年間32単位に含めて、春学期・秋学期いずれかの登録単位に算入する。
 - ※なお、浄土宗教師資格を得るために履修する科目については、この限りではない。

（単位認定・証明書発行）

3. 許可された学部授業科目を聴講し、試験に合格した場合は所定の単位を認定する。
4. 合格した科目は、「学部聴講で履修した科目」（自由科目）として「単位修得・成績証明書」に記載する。

（その他）

5. その他必要な事項については、大学院委員会で協議し、決定する。
6. この注意事項(申し合わせ)は、平成16年4月1日から施行する。

佛教大学大学院（修士・博士後期課程）研究指導計画書

研究科		課程		専攻
学籍番号		氏 名		
研究題目 新入生は研究予定 テーマを記入				
コース選択 歴史学専攻修士 2年次のみ	☐ 研究者コース ☐ 高度専門職業人コース			
研 究 計 画（研究内容・目的・方法等記入欄）				
指 導 計 画（指導教員記入欄）				
上記の「指導計画」に基づいて指導いたします。 年 月 日 指導教員氏名 _____ 印				

※太枠内を記入（鉛筆書き不可）し、指導教員により指導計画欄を記入の上、学生支援課へ提出してください。
 ただし、新入生は、太枠内を記入（鉛筆書き不可）し、学生支援課へ提出してください。
 ※提出期限は毎年4月15日です（秋学期復学者は9月末日）。

佛教大学大学院（修士・博士後期課程）研究指導計画書

研究科		課程		専攻
学籍番号		氏 名		
研究題目 新入生は研究予定 テーマを記入				
コース選択 歴史学専攻修士 2年次のみ	☐ 研究者コース ☐ 高度専門職業人コース			
研 究 計 画（研究内容・目的・方法等記入欄）				
指 導 計 画（指導教員記入欄）				
上記の「指導計画」に基づいて指導いたします。 年 月 日 指導教員氏名 _____ 印				

※太枠内を記入（鉛筆書き不可）し、指導教員により指導計画欄を記入の上、学生支援課へ提出してください。
 ただし、新入生は、太枠内を記入（鉛筆書き不可）し、学生支援課へ提出してください。
 ※提出期限は毎年4月15日です（秋学期復学者は9月末日）。

佛教大学大学院（修士・博士後期課程）研究指導計画書

研究科		課程		専攻
学籍番号		氏 名		
研究題目 新入生は研究予定 テーマを記入				
コース選択 歴史学専攻修士 2年次のみ	☐ 研究者コース ☐ 高度専門職業人コース			
研 究 計 画（研究内容・目的・方法等記入欄）				
指 導 計 画（指導教員記入欄）				
上記の「指導計画」に基づいて指導いたします。 年 月 日 指導教員氏名 _____ 印				

※太枠内を記入（鉛筆書き不可）し、指導教員により指導計画欄を記入の上、学生支援課へ提出してください。
 ただし、新入生は、太枠内を記入（鉛筆書き不可）し、学生支援課へ提出してください。
 ※提出期限は毎年4月15日です（秋学期復学者は9月末日）。

年度 博士後期課程 研究経過報告書（兼報告論文提出付票）

研究科		博 士 後 期 課 程		専攻
学籍番号		氏 名		
研究テーマ				
報告論文 題目				
研 究 経 過 等 記 入 欄（報告論文提出の場合は記入不要）				

※記入欄が足りない場合は別紙添付も可。
※指導教員の確認（捺印）後、学生支援課へ提出すること。
※提出期限は、毎年度1月末日です(秋学期半期休学者は、9月末日)。
※受付の際、受領証として本紙のコピーを返却します。

指導教員	学生支援課受付

年度 博士後期課程 研究経過報告書（兼報告論文提出付票）

研究科		博 士 後 期 課 程		専攻
学籍番号		氏 名		
研究テーマ				
報告論文 題目				
研 究 経 過 等 記 入 欄（報告論文提出の場合は記入不要）				

※記入欄が足りない場合は別紙添付も可。
※指導教員の確認（捺印）後、学生支援課へ提出すること。
※提出期限は、毎年度1月末日です(秋学期半期休学者は、9月末日)。
※受付の際、受領証として本紙のコピーを返却します。

指導教員	学生支援課受付

授業欠席届

提出日 年 月 日

担当者 先生

開講科目

欠席日・期間 月 日() ~ 月 日()

実際に欠席した回数は、計 回

研究科 専攻 年生

学籍番号 -

氏 名

欠席理由 このたび以下の理由により授業を欠席したので報告します。

※ 必要に応じ、欠席理由を証明する書類を添付してください。
※ この届出は授業欠席を報告するものであり、
公欠として扱われるものではありません。

佛教大学

授業欠席届

提出日 年 月 日

担当者 先生

開講科目

欠席日・期間 月 日() ~ 月 日()

実際に欠席した回数は、計 回

研究科 専攻 年生

学籍番号 -

氏 名

欠席理由 このたび以下の理由により授業を欠席したので報告します。

※ 必要に応じ、欠席理由を証明する書類を添付してください。
※ この届出は授業欠席を報告するものであり、
公欠として扱われるものではありません。

佛教大学

授業欠席届

提出日 年 月 日

担当者 先生

開講科目

欠席日・期間 月 日() ~ 月 日()

実際に欠席した回数は、計 回

研究科 専攻 年生

学籍番号 -

氏 名

欠席理由 このたび以下の理由により授業を欠席したので報告します。

※ 必要に応じ、欠席理由を証明する書類を添付してください。
※ この届出は授業欠席を報告するものであり、
公欠として扱われるものではありません。

佛教大学

授業欠席届

提出日 年 月 日

担当者 先生

開講科目

欠席日・期間 月 日() ~ 月 日()

実際に欠席した回数は、計 回

研究科 専攻 年生

学籍番号 -

氏 名

欠席理由 このたび以下の理由により授業を欠席したので報告します。

※ 必要に応じ、欠席理由を証明する書類を添付してください。
※ この届出は授業欠席を報告するものであり、
公欠として扱われるものではありません。

佛教大学

